

右ノ場合ニ於テハソノ裁判席ハ暫時止ムナリ
 此キハ何某ノ云々ニ付何分時間吟味ヲ停止セリト裁判所ノ記録ニ
 キス
 コノ捕ヘラレタルモノハ姓名ヲ言フヲ好マサルモノ多シソノ姓
 名ハ知レストモツレナリニ處分スルナリ
 時ヨリ辨論中ニ一時ニ總人ノ喧噪ヲ起スヲアリソノキハ總テ追
 ヒ出スナリ暫時ニシテ又門ヲ開キ吟味ヲナスソノ時ハ使吏ニテ前
 キニ喧噪ヲナシタルモノハ入レサル様ニナシ新タニキタルモノ、
 ミチ入ル、ナリ
 第九十條 若シ裁判所ニテ職務ヲ行フモノ其喧噪ヲ爲シタルキハ前
 條ニ記シタル罰ノ外定期ノ時間ソノ職ヲ停メラルヘシタ、シ初犯ニ
 付テハ其定期三月ニ過クヘカラス〇ソノ言渡ハ前條ノ場合ニ等シク

假ニ之レヲ執行フヘシ
 職務ヲ行フ者トハ書記使吏代書師代言人番兵等ヲ云フ裁判官ハ此
 中ニ入ラス
 此定期ハ期限ノコトナリ初犯三ヶ月ニスクヘカラス再犯以上ハ裁
 判官ノ見込ニ次第ナリ
 通常控訴ノ出來ルモノコテ裁判ニ服セス控訴スルハソノ控訴期
 限マテハ裁判執行ヲ駐止シテ置クナリ然レヒコノ事ハ假リニ先ツ
 之レヲ執行フナリ
 元ヨリ終審ノ裁判ナレハ此論アルコトナシ金額ノ定マラサルモノハ
 總テ控訴ヲナスコト得ルナリ
 第九十一條 裁判役又ハソノ他裁判所ノ官吏ニソノ職務ヲ行フニ當
 リ之ニ不敬ヲ加ヘ又ハ劫迫シタル者ハ裁判所ノ上席人及ヒ掛リ裁判

役又ハ檢事ノ命ニテ之ヲ捕ヘ直チニ裁判所附屬ノ獄舎ニ繋キテ二十四時間ニ吟味ヲ爲シ裁判所ニテソノ罪犯ヲ證スル調書ヲ視タル上月ニ過キサル時間之ヲ禁錮ノ刑ニ處シ且二十五「フランク」ヨリ少カラズ三百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ヲ言渡スヘシ

若シソノ犯人ヲ直チニ捕フルコト能ハサルキハ裁判所ヨリ廿四時間ニソノモノニ付キ前ニ記シタル罰ヲ言渡スヘシ但シ其モノ十日内ニ自カラ出訴シテ獄舎ニ入ルキハソノ罰ノ言渡シニ付キ故障ヲ述フルヲ得ヘシ

後項其犯人ヲ直チニ捕フルコト能ハサルキノ言渡書ハソノモノ、住所ノ知レタルトキハソノ住所ヘ送達スモシソノモノ、住所ノ知レサルキハ裁判所ノ門扉ニ張り出スナリ十日内ニ自カラ出訴シテ獄舎ニ入ルキハ故障ヲ述フルヲ得ルハ代人ニテハ能ハス必ラス

ソノモノ自カラ來リテ入獄スルトキナリ

第九十二條 若シソノ罪施體又ハ加辱ノ刑ニ處ス可キモノタルキハソノ犯人ヲ捕ヘテ刑法裁判所ニ送り治罪法ニ定メタル規則ニ循ヒ其罪ヲ訴ヘ之ヲ罰スヘシ

縣裁判所ノ權外ニアル罪人ノ處分ヲ云フ筭譯ニハ刑法裁判所ト書イテアレヒ原書ニハ權内ノ裁判所ト書イテアリ

然ルキハ左ノ三ヶ所ノ裁判所ノ内ニテ之ヲ裁判スルナリ

罪ヲ犯ス所ローツ捕ハレタル所ローツ又ハ住居一ツ惣テ三ツナリ

此三ツハ權内ノ裁判ナリ

○第六章 裁判役ノ評議及ヒ書面ニ因テ吟味ヲ爲ス事

此第六章餘リ入用無之且此所ニテ説クヨリハ裁判言渡ノ所ロニテ説

クヘシ

第七章 裁判言渡ノ事

第百十六條 裁判ハ裁判役中可トスルモノ數多キコ從ヒ即時ニ之ヲ爲スヘシ然レ裁判役ハ言渡ヲ爲ス前ニソノ會議ノ室ニ退キテ評議ヲ爲シ又ハ後ノ吟味ノ日迄裁判ノ言渡ヲ延ハスヲ得ヘシ

通例訴訟難事ニ非サレハ原被告人相答辨シ檢事ソノ意見ヲ述ヘ然ル後裁判官裁判ヲ言渡ス之レ手順ナリ

ソノ間ニ故障ノ起ルキハケ様々々ト云フ條々ノ裁判言渡ノ章ノ後ニ出ツルハ錯簡ト云フヘシ何トナレハ裁判言渡ノ後ニ故障等ノアルコトナシ

裁判言渡

裁判言渡ト云フコトヲ説カントス

此語ハ如何様ナルコトモ起ルトモソノ爭ヲ決定セリト云フ字ナリ
裁判官ニテ裁判言渡ス前マテハソノ理非曲直ヲ考ヘルモ可ナリト雖レ一旦言渡シタル上ハ聊カ疑念アルヘカラス又何人ヲ論セスソノ裁判ヲ可否スルコト能ハサルモノトス之レ規則ナリ此章錯簡アリ故ニ其順序ヲ立テ、説カントス

裁判ヲ決定スルニ三ヶ條アリ
第百十六十七十八ノ三ヶ條之レナリ

裁判官裁判ノコトニ付キ評議ヲ爲シ決定スソノ決定ノミコテハ裁判トハ云ハスタトヒ隱密ニナシタル吟味ナリトモ言渡シハ公然トナスコトヘ言ヒ渡スマテハ裁判トハ云ハス

裁判ヲ言渡シタル上ハ之レヲ書付ニ作ラサルヘカラス之レハ書記ニテ爲スソノ書付ケハ負ケタルモノヘ送達セサルヘカラスコトノ作

リ方ハ大キニ面倒ナル手数ナリ
第三百三十八條ヨリ第四百四十八條マテ之レナリ
第三百十九條ヨリ第三百三十七條マテハ裁判言渡シニ關係シタル小節目ヲ舉ケタルモノニテ種々ノコトニ係ル之レハ皆ナ必要ナルモノナリ
第百十七條 裁判役中ソノ説ノ二箇以上ニ分ル、キハ最モ寡數ノ説ノ裁判役多數ノ説ノ裁判役中ノ一方ニ合同スヘシ然レ總數ノ説ヲ再ヒ算ヘタルノチニアラサレハ必スシモ合同スルニ及ハス

第一ニ裁判言渡ノコト言ハシ
原告被告トモ各ソノ意ヲ述ヘ了レハ檢事意見ヲ述フ事ニヨリ述ヘサルコトモアリ右了レハ裁判官ニテ此事件ハ承リタリト云フ右ノ手順濟メハ此事件ノ評議ヲナシソノ説ノ多キ數ニ決スソノ多キトハ半數ヨリ一人多キヲ云フ三人ナレハ二人五人ナレハ三人ノ如キナ

佛ニテハ裁判官少ナクトモ三人以上ナリ
成リ丈ケ奇數ニナス六人四人等ノ偶數ニハセス之レハ説ヲ分カツ時ノ爲メナリ
タトヘハ四人ノ裁判官アリテ二人ツ、分カレタルトキハ必ラス上席人ノアル方ノ勝チニアラス
裁判官三人ニテ三人トモ違ヒ四人アリテ二人ツ、トナルトキハソノセツ分カル、トナス
其時ニハ猶外ノ裁判官ヲ呼ヒテ再ヒ吟味ヲ仕直ス
三人ノキハ二人ヲ加ヘ五人トナシ四人ノキハ一人ヲ加ヘ五人トナス
如シ小村ノ裁判所ニテ外ヨリ呼フ裁判官モナキトキハ代言人ヲ席

順ニ取リテ之レヲ加ス
 如シ代言人モナキ所ロナレハ代書人ヲ以テ之レニ加フ
 五人ノ裁判官二人宛合ヒ一人離レ三ツトナリタルキハ亦仕方違フ
 ナリ
 其時ハ裁判上席人ニテ猶一應考フヘシト云暫時ニシテ又其説ヲ聞
 ケハ其離レタル一人ハ一方ヘ附クコトアリ
 或ハ二人ノ者カ一方ヘ附クコトモアリ
 イツレ三人ニサヘナレハソレニテ宜シ
 前ノ場合ニ於テ上席人ニテ考ヘヨト云フ再考ノ後其説分レ別ニ考
 ノナキトキハ離レタル一人ノモノニ何レナリモ一方ヘ附クヘシト
 云フナリ
 之レハ少シク押付ケルヨフナレモ夫ニテ決定スルナリ

五人ノキハ必ス前ノ如クナスト定マリタルニモアラス聞直スコトモ
 アリ
 五人ニテ四ツニ説ノ分カル、コトアリ其キハ一方ヘ附クヘシト言フ
 コト能ハス前キノ一人離レタルキハ一方ヲ擇ムコト得ルト雖モ之ハ
 擇ムコト得サレハナリ
 ソノトキハ一人ヲ加ヘテ六人トナス六人以上ニ加フルコトヲ得ス
 何トナレハ縣裁判所ハ七人以上ノ裁判官ヲ置クコト能ハサレハナ
 リ
 コノ百十七條ハ前ニ言フ五人ノ説ノ三ツニ分カレタルトキ再ヒ考
 ヘヨト云フトキノコトナリ
 五人ニテ四ツニ分カレタルトキハ一方ヘ附クヘシト云フコト得サ
 ルナリ之レ説ノ分カレタルモノナリ

再ヒ算ヘタル云々原語二度メノ説ヲ聞キ入レタルト云フ意ナリ一人一人ノ説ヲ聞シヲナリ

原文ノ直譯

然リト雖ヒソノ合同スルモノ、聲カ再ヒ摘マ、レタル後ニアラサレハ合同スルニチヨハス

第百十八條 可トスル者ノ數ト非トスル者ノ數ト均シキハ別ニ裁判役一員ヲ呼ビ別ニ裁判役アラサルハ裁判役ノ代員ヲ呼ビ又裁判役ノ代員アラサルトキハソノ裁判所附屬ノ代官一人一員ヲ呼ビ代官人アラサルトキハ代書師一員ヲヨヒ再ヒ吟味ヲ爲スヘシタ、シコレラノモノハソノ任シテ受ケタル順序ニ從ヒ之ヲ呼可シ之レハ順序ヲ云ヒタリ成ル丈ケ上等ノ者ヨリ順ニ呼フナリ再ヒ吟味ヲ爲スハ訴訟ヲ聽直スヲナリ

我カ同役ナリトテ必ラス我カ説ヲ枉クルヲハナシ

第十六號

第六章 裁判役ノ評議書面ニ因テ吟味ヲナス事自第九十三條至第百十五條

裁判言渡ノ結局ハ裁判官ノ説多キ方ヲ取ルヲ前ニ説キタリ

裁判官四人ノ時ハ三人五人ノ時モ三人六人ノ時ハ四人ニアラサレハ半數ヨリ多シトセス

説ノ分カレタル時ハ他ノ裁判官ヲ呼ビ或ハ代書師代官人ヲモ呼フヲアリ

説ノ三説ニ分カレタル時ハ權威ニテ押付ル様ナレヒ一人ハ強テ一方ヘ付カサルヘカラサルヲモ説キタリ
若シソノ訴訟ノ難件ナラサル時ハ裁判席上ニテ後ロチ向クカ又ハ

單紙へ書キ付タル等ニテ相談ヲナシテ裁決ス
 若シ難件ニテ席上決シ難キトキハ評議席へ退テ之レヲ議決ス
 猶難件ナレハ此次ノ開席マテ延ハスヲモアリ時ニヨリテハ翌日言
 渡スヲモアレヒ多分ハ八日目ニ言渡シテナスナリ
 更ニ難件ナレハ裁判官中ノ一人ヲ撰ミソノ眼目タル件々ヲ掲ケテ
 啓告セシムルヲアリソノ時ハ八日目又ハ十五日目ニ言渡スナリ
 猶更ニ難件ニテ會計事件ニ關スル等ノ時ハ或ハ精算ヲナシ或ハ表
 ナ作り終ニ原告被告ヨリ書付ケテ出サシムルヲアリ之レヲ書付ケ
 ノ吟味ト云フ必ラス三十日位ハカ、ルナリ
 裁判席ニテ直ニ言渡シテサスシテ翌日八日十五日啓告又ハ書付
 吟味等ノ節ハ評議ニ付延引ト云フ
 第一ニ啓告ヲサスシテ延引スルトキハ單ナル評議第二ニ啓告評

議第三ニ書付吟味ノ評議ト三ツニ分ケテアルナリ
 第四ノコハ第九十三條ニアリ
 第五ノコハ第九十五條ニアリ
 ソノ餘ノ條ハ期限等ノコトニテ原告人ハ十五日被告人ハ十五日ト云
 フ類ナリ 訴訟法第九十六條
 第九十七條見合セ
 併シ書付吟味ヲナス等ハ甚タ稀ナルコトナリ
 前ニ説キタル通り言渡サ、ル間ハ裁判トハ言ハス故ニ未ダ言渡サ
 、ル間ハ裁判官ニテ説ヲ換ルモ可ナリ
 此第六章ハ必要ノ處ニアラス故ニ置テ説カス今書付ケ吟味ノコ
 及ヒタルユヘ一應其概略ヲ話シタリ
 以下條ヲ逐テ説カス事ノ順序ヲ以テ説カントス
 第三百三十八條 裁判所ノ上席及ヒ書記官ハ言渡アル毎ニ直チニ其言

渡書ノ正本ヲ記シテ姓名ヲ手署スヘシ又其言渡書ヲ記シタル聴訟ノ簿冊ノ端ニ其裁判言渡ニ出席シタル裁判役及ヒ檢事ノ姓名ヲ附記シ之レヲ附記シタル部分ニモ亦上席人及ヒ書記官ソノ姓名ヲ手署ス可シ

裁判ヲ言渡ス時ハソノ裁判ニ關係シタル裁判官ハ必ラスソノ席ニ出ツ假令ヒ他ノ事ヲ聽キ居ルトモ必ラス列席セサルヲ得ス
巴里ニテハ裁判官甚ク多シ一週間ニ三度裁判席ニ出ツソノ他ノ日ハ裁判ノ評議等ニ付キ出席セス
一週間ニ三度ト云ヘハ甚ク閑ナル様ナレトモソノ間不斷取調ヘモノアリ閑ニアラス
檢事モ言渡ニハ必ラス陪席ス其義務ヲ以テ意見ヲ述ルコアリ又裁判官ノ求メニヨリ意見ヲ述フルコアリソノ意見ヲ述ヘタル檢事ニ

テ陪席ス

但シ評議席ヘハ關係セサルナリ
此條ノ通りニテ一旦言渡シタル上ハ決シテ過誤ナリヤト云フコ能ハス原告被告ニテモ苦情ヲ言フコ能ハス尤モ控訴上告等ノ道ハアルヘシ
右濟ミタル上ハ裁判所ノ簿冊ヘソノ上席人ト書記官ハ調印ヲナスナリ
右簿冊ノ第一紙ヘ裁判官檢事并ニ上席人書記トモ殘ラス姓名ヲ記ス

第三百三十九條 若シ書記官前條ニ記シタル如ク姓名ノ手署ヲナサハル前ニ言渡書ノ寫ヲ本人ニ渡シタル時ハ贗造者ナリトシテ訴訟ヲ受ク可シ

前條上席人書記ニテ簿冊ニ調印スルハ義務ナリソノ調印セサル前ニ書記ニテソノ寫ヲ相手方へ與へタルトキハ偽リノ裁判ナリト云ヒテ訴フルヲ得ル

第四百十條 檢事長及ヒ檢事ハ毎月言渡書ノ正本ヲ視テ百三十八條ノ規則ヲ行フタルヤ否ヤヲ檢視シ若シ規則ニ付キタルヲアル時ハソノ事ヲ調書ニ記シテ相當ノ處置ヲナスヘシ

言渡シハ口ニテナスユヘ消ヘルナリ依テ右言渡書ヲ作り永世不朽變セサルヲ表ス

故ニソノ上席人ノ之レニ調印スルハ大切ナル證據ナリ若シ怠ツテ調印セサルヲナカラシメシメテ毎月檢事ニテ之レヲ檢閱ス萬一調印ヲナサ、ルヲアルトキハ檢事ニテ書付ヲ以テ其筋へ訴フソノ時ハ書記ハ職ヲ停メラレ上席人ハ司法ノ譴責ヲ受ク

第四百十二條 言渡書ノ寫ニハ裁判役並ニ檢事ノ姓名及ヒ代書師ノ姓名原告及ヒ被告ノ姓名職業住所論並趣意事柄中ノ主タル條並ニソノ事柄ニ付テノ法律ノ主タル條言渡ヲナスノ趣意及ヒ言渡ノ條件ヲ記ス可シ

裁判言渡ノミニテハ裁判ノ執行ヨハナラス其言渡書ノ副本ヲ以テ執行ス其副本ヲ「コロス」ト云フ「コロス」ハ大ナル義ニテ大書スルヨリ此名ヲ付ケタリ

此ノ副本ニ使吏其執行ヲ命スル書付ヲ添へテ相手方ニ送達ス其送達ノ上又ハ後日ソノ執行書ヲ送リタル上ニアラサレハ執行スルヲ得ス

言渡ノミニテ書付ナケレハ負ケタルモノへ執行ノヲ告ルヲ能ハス故ニ此「コロス」ヲ用ユ之レヲ裁判言渡第一ノ書付ト云フ

此寫ハ元ヨリ裁判言渡簿冊原書ノ通りニ書イテアルナリ
 裁判言渡書ハケ條ト道理トニタ通り書イテアルナリ
 佛ニテ一千七百九十年ノ改革以前ハ裁判言渡ニ道理ヲ付クルコトハ
 ナサ、リシ然ルニソノ後ハソノ道理ヲ云ハサレハ權外ノコトヲ爲シ
 タルトナル故ヲ以テ必ラス何ノ道理ヲ以テ何々申付ケト云フナリ
 道理ニハ事柄ノ道理ト法律ノ道理トノ二ツヲ言渡ス
 タトヘハ暴行ノ爲メニ契約ヲナシタル訴ナレハソノ事柄ヲ吟味シ
 タル上ソノ暴行ニ依テ契約ヲナシタルユヘ右ノ契約ハ廢棄スルト
 言渡ス等又ハ賣買ナレハ何物件ヲ何月何日ニ引渡スヘキ所ロ引渡
 サ、ルニ付キ云々等右ノ道理ニヨツテ何法律ノ何條ニ依テ何々ヲ
 言渡スト云フノ類
 詭欺ニヨリテ錯誤シ買フタル物件ヲ更ニ轉買シタル物主ヲ爭フニ

付テ議論アリタリ右等ノ如キ法律ニ正條ナキ議論マテモ云ハサル
 ナ得サルナリ故ニ時ニヨリ法律ノ議論ヲ甚長ク書イテ言渡スコトア
 リ
 時ニヨリテ十數葉モアル言渡書アリ之レハ法律ヲ論シ詰メタル事
 柄ヲ盡ク書キ續クルユヘナリ一部ノ書ノ出來タルト思フ位ナリ
 時ニヨリ事柄甚タ長クナルコトアリ事柄ニヨリ法律ニ寄セテ代言人
 等ノ言フコトアル時ハ裁判官ニテ詳カニ法律上ヨリ論破スルコトアル
 ハナリ
 初告裁判所ニテハ何ニ依テト云フ
 控訴應ニテハ何々ニ考ヘルト云フ右ハ古キ習慣ナリ初告裁判所ニ
 テハ何々考ヘルト云フコト得ス
 時ニヨリ法律何ノ條ニヨリ何々ヲ言渡トハカリ云モアリ平坦ナル

文ナリ

タトヘハ不動産取戻シノコトニ付テハ此事柄ハ何々ノ事柄ニテ何々ノ道理アリ何々ノ條ニ依リ不動産ヲ戻シ並ニ作徳トモ取戻スヘシト言渡ス

時ニヨリ不正ノ心ニテ占有シタル場合ニ於テハソノ不動産ヲ取戻シ並ニ何年以來ノ作徳マテモ取戻スヘシト言渡ス

「プレスクリプション」ノ期限過キタル訴訟ヲ訴へ出テタル時ハソノ期限ノ過キタルコトヲ言出サ、ルユヘソノ願ハ立タスト言渡スコトアリ

金ヲ借リタル事件ニ付テハソノ元金ニ利分ヲ添ヘテ返スヘシト言渡スコトアリ

此法律ニ事柄ト道理トハ書イテアレヒ如何ナル事柄ト云ヒ如何

ナルチ道理ト云フコトハ書イテ之レナシ
別段ナル事柄ニ付キケ條丈ケニテ言渡スコト法律中ニ之レアリ通例ノコトハ之レナシ

タトヘハ極貧ノ負訴人アル時ハ裁判所ヨリ期限ヲ延ヘルコトアリ右等ハ何事モ書カサルナリ第百二十二條ヨリ第百二十五條マテナリ」
第百二十六條第百二十七條ハ未タ禁錮ノ存シアル時ノコトナリ右等ハ言渡ノ書キ方アリ

第百二十八條ハ第二十九條損失ノ償ノコトヲ云フ

第百三十條以下費用ヲ拂フコト及夫レニ付罰スルコトヲ云フ

第百三十五條ヨリ第百三十七條マテハ假リ裁判ヲ執行スル手次ヲ云フ

右ハ未タ説カス今猶ホ説キカ、リタル裁判言渡ノコトヲ説キ終リタ

ル上ニ説クヘシ

第四百十二條 其言渡書ノ寫ハ雙方互ニ送達シタル身元ニ從テ之レヲ記スヘシ故ニ雙方出席ノ上ノ裁判言渡書ノ寫ヲ得ント欲スルモノ雙方ノ姓名職業住所雙方論辨ノ趣意事柄中ノ主タルケ條及ヒ其事柄ニ付テノ法律ノ主タルケ條ヲ記シタル身元書ノ正本ヲ裁判所ニ持出シ且其寫ヲ相手方ノ代書師ニ送達スヘシ

第四百十三條 其身元書ノ正本ハ吟味ノ席ニ出ル使吏二十四時間預リ置クヘシ

第四百十四條 相手方ノ代書師身元書ニ付故障ヲ述ヘント欲スル時ハ之レヲ使吏ニ述ヘ使吏ソノ旨ヲ記シ置クヘシ

第四百十五條 一方ノ代書師ヨリ相手方ノ代書師ニ招書ヲ送達シテ之レヲ呼出シタル上裁判所ノ上席人ハ前條ニ記シタル故障ノ申述ヲ

裁決スヘシ若シ上席ヘ其時差支アルニ於テ裁判役中ニテ最モ先ニ任ヲ受ケタルモノ之レヲ裁決スヘシ

既ニ裁判言渡ニ道理ヲ付クルト道理ヲ付ケサルノニタ通りヲ説キタリ

然ルニ道理トケ條トハカリニテ不分明ナルユヘ訴訟ノ顛末ヲ殘ラ

ス書キ續クヘシ
ソノ上ニ「カリテ」身元ヲ加ヘサルヘカラスソノ訴訟ノ役目ト云フ意ナリ

タトヘハ劇場ニテ誰々ハ何誰レノ役ヲナシタルト云フ如シ
役目ト云フハ原告被告身元ノ事ナリ原告人ハソノ身元ヲ誰レノ妻

トカ弟トカ委シク書ク
被告人モ同様ナリ尤モ住所職業ヲモ書ク

相手方ノ願ヒタルヲ辨論シタルヲモ書ク
 裁判所ニ於テ事柄ト道理ヲ云フハ勿論ナレトモ原告被告ヨリモソ
 ノ事柄ト道理トヲ簡略ニ言ハサルヲ得サルナリ
 代書師ノ姓名ハ必ラス書クヘシ
 何某ノ代書師ノ何某何々ヲ申立タリ何某ノ代書師ハ何々ト辨シタ
 ルヲモ書ク

裁判言渡書ノミニテハ不足ナリソノ上ニ原告被告ノ身元書ヲ作り
 使吏ヲ以テ一方ノモノヘ送達シソノ身元ヲ取調ヘルヲアリ若シ書
 違ヒアル時ハ廿四時間ニ相手方ニソノ旨ヲ申送クルナリ
 ソノ身元ヲ慥カニセサルヘカラサルヲハ相續人等ニタトヘハ親ノ
 財産高丈ケノ相續人相續ノ財産高ニ至ルマテソレニ付キタル負債
 ヲ拂フ契約アル者アリ又ハ通例ノ相續人相續ノ財産高ニ限ラスソ

レニ付キタル負債ヲ總テ拂フモノアリ故ニソノ身元ヲ取調ヘサル
 ヘカラサルナリ
 又三事ヲ願ヒタルコソノ内一ト事ヲ削リ不都合アルトキハ別段願
 ヒテソノ言渡書ヲ改メテ貰フヲアリ
 事ニヨリ裁判席ニテ願ハスニ置テ言渡書ヘ願ハサルヲ足サシム
 ルヲアリ
 右ノ通り願ヒタルヲ削リ願ハサルヲ足ス等ニ於テハ「レナート
 シビル」ヘ取消ヲ願フヲアリ之レハ甚不都合ナルヲナリ
 裁判言渡シタル後ニ或ハ足シ或ハ削ルヲナトノ輒スク出來ルモノ
 ナリ

身元ノヲ相手方ニ引合フニ身元ノ違フトキハ使吏ヘソノヲ申
 出テ裁判上席人ヘ其身元ノ改正ヲ乞フヲアリ

第四百二十二條ヨリ第四百二十五條マテハ今迄説キタル件々ナリ
 佛ニテ裁判言渡シノ濟ミタル後原告被告ヨリ書記官ヘソノ寫チ乞
 フトキタトヘハ三ツノヲ願ヒタルチ一事ヲ剛リ二事ニナシテモ
 ラフコアリ又二事ヲ願ヒタルチ三事ニナシテモラフコアリ之レ言
 渡ハ口上ニテ言渡シ書記ニテ書付チ作ルユヘ右等ノコアリ右ハ原
 告被告中詭欺ニテナスコモアリ又ハ錯誤ニテナスコモアリ書記ニ
 於テハ申立チ書クモノニテ權ノナキモノユヘ佛國ニテハ右等ノ間
 違ヒチ生スル弊アリ
 裁判言渡ノコニ付猶委シク説カン
 裁判言渡ハ原告被告ヨリ申立タルコニ從ツテ言渡スモノナリ
 ソノ申立ニ依テ黑白チ付クルハ裁判官ノ職ナリ
 言渡ハ口上ニテ事柄ト道理トチツ、リ箇様々々ト言渡スノミ原被

ノ申立タルコハ言ハスソノ時原告被告ヨリ出シタル書付ケハ一旦
 下ケルナリソノ後書付コナストキハ原告被告ノ申立タルコチ盡ク
 書クナリ
 右ノ通り後ニ書付ケチ作ルユヘ原被ヨリ三事チ一事ニ申立ルトモ
 書記ニテ辨別付カス故ニ間違ヒトナルナリ
 タトヘハ貸金ニ付元利ノ二事ヲ願ヒタルニ後ニ言渡書チ書クトキ
 利金ノ方チ削ツテ元金ノミノ一事トナス時ハ一方ヨリ非常ノ道チ
 以テ取消チ願フコ出來ルナリ
 一事ヲ願ヒタルコニ二事ヲ書クコアリ之レモ前ノ手次チ以テ仕直ス
 コ出來ルナリ
 此事ハ餘程不思議ノコナリ惡キ事ハ後ニ言ハン原告人ノコチ違ヘタ
 ルニ被告人ノコチ違ヘタルモ一方ヨリ直スコチ願フハ同シコナリ

問 裁判席ニテ原被ニテ申立ヲナスニ神ニ誓ヒテ後申立ツルヤ
答 誓ヲナスコトナシ

問 英ニハ誓アリ佛コテハナキヤ

答 佛ニテハナシ英ニテハ舊習ニヨリテアルコトモアリ

問 申立ヲ書記ニテ書キ取ルヤ

答 書キ取ルコトナシ

問 裁判官ニテ原被ノ申立ヲ以テソノ理非ヲ辨別シテ裁判ヲナスニ

後ニ至リ原被ニテ左様ノコトハ言ハスト言ヒタラハ如何スルヤ

代書師ニテ見込ミヲ付ケ始末書ヲ出ス故ニ裁判席ニテハ原被代書

師ニテ問答スルノミ稀レニ本人ヲ呼ヒ出スコトナシ

民事ノ訴訟ニ於テ本人ノ出席スルコトハ殆ント之レナシ雙方ノ代書

師ニテ問答スルノミ稀レニ本人ヲ呼ヒ出スコトナシ

上ヲ書クナリ

代書師ハ見込ミヲ付ケルマテニテ代理人之レヲ論辨スルナリソノ

代理人ニテ不足ト思フトキハ裁判官ノ見込ニヨリ本人ヲ呼出スコ

トアリソノ時ハソノ申立ヲ書クナリ

裁判官へ出ス書付ケノ殘ルモノハ此書付ケノミナリ代理人ナシニ

本人ノ出席スルモノ口上ハ書付ニシテ殘サス裁判官ノ見込ヲ以

テ別段ニ呼ヒ出ス時ハソノ口上ヲ書キ留メニナシ殘ルナリ

問 代書師ニテ見込ヲ立タルニ付代理人ニテ之レヲ辨論シタル後裁

判言渡トナリタルトキ代理人ニテ左様ナコトハ云ハスト云ヒタル

トキハ如何スルヤ

答 代理人ノ言ヒタルコトニ付キ裁判ニテ君ハ此事ヲ言ヒタルヤト問

フコトハ絶テナシ故ニ代理人モ私ハ言ハスト言フコトナキナリ

代理人ハ言ヒサヘスレハ夫レマテナリ間違ヒノ出ツルハ代書師ニアリ

問 元ヨリ代理人ノ言フコトハ其時ニテ消ユルナラハ書類ニテ濟ムヘシ

代理人ヲ用ユルハ何ノ爲ソヤ

答 何月何日ノ期限ヲ過キタルニ付キ又ハ云々ニ付キ返辨ヲ責ムル

等總テ書面ニテ分明ナレト書面ニテハ充分セサルユヘソノ書面

ヲ釋キアカス爲メニ代理人ヲ用ユルナリ

間違ヲ書キ替ユルコトハ無キモノナレト時ニヨリアルナリ

問 言渡書ノ寫チ乞ヒニ出ル人ハ誰レナルヤ

答 代書師ナリ本人ハ決シテ出ス右ニ付キ代書師ニテ失錯又ハ故造

ニテ間違ヒノ出ツルコトナリ

第十七號

明治七年七月五日

裁判ヲ言渡スルハ必ラス訴訟ヲ爲スモノ即チ代書師ヨリ概畧ノ見込書ヲ出ス

ソノ雙方ノ代書師見込書ノ大意ニヨリ裁判ヲ言渡ス必ラス道理ト事柄トノ譯チ言フ

裁判言渡ニハ必ラス事柄ヲ讀ム代書師見込書ヲモ讀ム

右ニ付ケ様々々ニナルニ付キ何ノ道理ヲ以テ何ニ言渡スト云フナリ

何ノ某ト何ノ某カ訟ヲナシタルトソノ姓名ヲ言フソノ姓名ヲ言ハ

サレハソノ事柄ハカリチ言ヒテモ落着セサルナリ

併シソノ身元ハ後見人ナリヤ又ハ何ナリヤハ言ハス

其「カリテ」ハ後ニ記入スルナリ

言渡ノ後書付ケテ作ル時ニ加ヘサルヲ得サルコトハソノ訴訟ノ顛末

并ニ訴訟ノコトニ付キ不意ニ起ルコトモ職業住所ヲモソノ事柄ノ道理法律ノ道理ヲモ書キ加ヘサルヘカラス

代書師ノ見込書ハ原被雙方互ニ送達シタルモノナレハ雙方共何レモ同様ニ記セサルヘカラス

ソノ書付ケテ作ルニハ書記^{ケレフエー}ニテ預カリテ作ルソノ作りテモラフモノハ裁判ノ満足シタルモノヨリ頼ムナリソノ時言立テタル等ノ顛末ヲ残りナク認メ代書師ヨリ先方ヘ君カ言立タル所口ハ此通り相違ナカルヘシト言ヒ遣ハス

若シ一方ノモノニテ不承知ノコトアルトキタトヘハ相續人ノコトナラハ一ト通りニ相續スルモノアリ親ノ財産丈ケノ相續スルモノアリ財産丈ケノ相續人ヘ一ト通りノ相續人ノ如ク書イテ遣ハストキソノモノハ財産丈ノ外我カ財産ヘモ關スルコトアルユヘ迷惑スルナリソ

ノトキハソノモノヨリ二十四時間ニ使吏ヲ經テソノ身元ノ書違ヒテ裁決ノ上書直シテモラフナリ

右等ノ如キコトアルユヘ過日モ危フキコトアルト言ヒタリ

右ノ如ク願ハサルコト書加ヘルコトモアリ又願ヒタルコトモ書キ入レサルコトアリ始審ナラハ控訴スヘシト雖モ終審ナレハ據ナク^レケ^レトシビル^レヘ出ツ

之レ止ムヲ得サルノ時ナリ成ル丈ケハ控訴スヘシ

右ニ付テハ二十四時間ニ故障ヲ述フルコト得ルユヘ憂フルニ足ラスト言フモノアルヘシト雖モ萬一二十四時ノ間ニ注意セスシテ其時間ヲ過キナハ大キナル害ヲ生ス恐ル可キナリ

如シ府縣裁判ノ終審又ハ控訴廳ノ裁判ナラハ致方ナク

ソノ時一方ノモノハ願サルコト書加ヘラレ一方ノモノハ願ヒタル

「レケートシビル」へ出ツルヨリ外ナシ
 右等ノ間違アルコトナラハ何ノ爲メニ總テノ書類ヲ書記官へ渡サ、
 ルヤト云フ説アリ
 タトヒソノ書類ヲ總テ渡シタリトモ謄寫ノ過チシト云フヘカラス
 ソノ過チニ依テ財産丈ケノ相續チ一ト通りノ相續トナス等コテ人
 民ノ迷惑トナルトキハソノ罰ナカルヘカラス書記ニ責メノ歸スル
 「甚タ重クシテ堪ヘサルニ至ルヘシ故ニ寧ロ人民各自ニ我カ事ヲ
 爲ス方可然トノ説ニ因テ目下ノ如ク立テ、アリ
 書記ノ責メヲ輕クセント欲セハソノ書付ケノ出來タルモノヲ三日
 間ニ來リテ一閱セヨト云フソノ來リ閱スルト否ラサルトハ原告被
 告ノ勝手次第ナリ右ノ如クスルハ書記ノ責メノミナラス原被ノ責

メモ輕クナルヘシ

第四百一一條此儘ニテ存スル方ヨロシ

第四百十二條ヲ改メテ

言渡書ハ諸書類ニ循ヒ書記ニテ作り原告被告ノ代書人ハソノ書付
 チ見留ル爲メニ三日間ニ來リ見ルヘシ若シ三日間ニ來リ見サレハ
 右ニ付テノ故障ハ消滅ス若シソノ故障アルトキハ裁判官之レヲ裁
 決ス

此ノ如クスルキハ第四百一一條ヨリ第四百十五條マテハ不用ナリ
 一説アリソノ書付ケハ書記ニ任セスシテ裁判官ニテ爲ス方ヨロシ
 ト云フ

然レトモ裁判官裁判席ニテソノ書付ヲ作ルコトニセハ數多ノ書類ニ
 統緒ナク且ツ事務多端ノ際ニ於テ甚タ時間ヲ消費スルナリ

故ニ裁判官ハソノ訴訟ノ眼目ヲ領畧スルノミ一々諸書類ヲ讀ムヲ能ハス併シ夫切リニテ捨置クキハソノ訴訟ノ顛末ヲ失フニ至ル故ニソノ書キ付ケテ作ル之レヲ作ルトキハ委シク書カサルヲ得ス因テ書記ニテ之ヲ作り原被告人三日間ニ來リ見ル規則ニスルトキハ代書師ノ手數ノ減スルユヘ從ツテ其謝金モ亦タ減スソノ減シタル金ヲ以テ書記ニ増ス方ヨロシ

第二百二十八條中ノ正本トハ何ナルヤ
 裁判所ノ書記局ニ殘ルモノナリ
 聽訟ノ簿冊トハ何ナルヤ
 即席ニ言渡スヲナラハ一二葉ナリ入り組ミタル事柄ナルトキハ八日過キテ言渡スソノトキハ數十葉モアリ一ノ簿冊ヲナスソノ場合ニ於テハ言渡書ノ書キ付ケテ以テ讀ミ聞カス

ソノ簿冊ハ豫カシメ出來テアルニアラスソノ事柄ニヨリ二三葉ヨリ數十百葉ニモ至ル之レヲ訂裝シテ夫レノ簿冊トナスナリ

第三百三十七條ハ正本モ簿冊モ言渡シタル丈ケテ書クナリ

第四百十二條ノ言渡書ハ言渡シノ濟ミタル後ニ作ルナリ身元等ハ前キニハ書キ入レス此條ノ場合ニテ書キ入レルナリ間違ヒハ此時出來ルナリ

第四百十三條ニ云フ所ロノ裁判言渡書トハ代書師ノ草案ナリ一ケ年間ノ裁判表ヲ作り一般ニ布告スル方ヨロシ

此事ハ刑事ニ付テハ甚肝要ナリ

右ノ表ニヨリ内國人ト外國人ト比較シテ外國人ニテ刑事ノ多數ナルトキハソノ政府ノ代人即チ公使へ申越シ注意セシムルヲモ出來ルナリ

第一百四十六條 裁判言渡書ノ寫ノ首尾ニハ佛蘭西共和政治五國第十
二年フロレル月ノ憲法ヲ以テ定メタル所ノ文詞ヲ記ス可シ之ヲ名ケ
渡ノ如ク執行フテ命ス
ル定式ノ文詞ト云フ

佛ニテ裁判言渡ヲナスニ上席人ノ名ヲ以テスルヲナシ王國ノ時ハ
王ノ名皇帝ノ時ハ皇帝ノ名今ハ佛國人民ノ名ヲ以テス

裁判官ハ政府ノ代理ナリ故ニ政府ノ名目ヲ以テス尤モ行政官ノ裁
判言渡ハ少シク違フ

國議院ニテ裁判ス

タトヘハ佛國帝ノ名代ヲ以テ裁判スルモノト違フナリ

目今ハ帝ナシ故ニ人民自カラ裁判スルト云フ帝ノ時ハ一人ノ政府
ナリ故ニソノ名ヲ以テ裁判スルナリ

目今ハ無形ノ政府ナリ故ニ國議院ニテ裁判スルモ裁判所ニテ裁判

スルモ同シ文ナリ

帝ノ節ハ裁判官ハ帝ノ名代ナリ行政裁判ハ親裁ナリ

目今ハ行政司法トモ人民ナリ

此條ノ大意ハ裁判官ノ名ヲ以テ裁判セサルマテノコト云フナリ

行政官吏タル地方官ハ布告等ヲナスニ自分ノ名ヲ以テス

裁判官ハ自分ノ名ヲ以テスルヲ能ハス之レ代理ナレハナリ

第一百四十七條 總テ裁判所ノ言渡書ノ寫ハ之レヲ相手方ノ代書師ニ

送達シタル上ニ非レハ其言渡ノ如ク執行フ可カラス若シ此規則ニ背

ク時ハ其言渡ノ効ナカル可シ又假ノ言渡ト確定ノ言渡トヲ問ハス相

手方ノ負訴訟トナル言渡書ノ寫ハ相手方ノ代書師ノミニ非ラス亦其

本人又ハ其住所ニ之ヲ送達ス可シ但シ其寫ニ代書師ニハ別ニ同上ノ

寫ヲ送達シタル旨ヲ附記ス可シ

第四百十八條 代書師既ニ死去シ又ハ其職務ヲ行フヘキヲ止メシ時
 ハ本人ニ言渡書ノ寫ヲ送達シタルコトヲ以テ足レリトス然レ其寫ニハ
 代書師ノ死去シタルコト又ハ其職務ヲ止メタルコトヲ記ス可シ
 本文ニソノ關係ノ代書師アルトキハソノ言渡書ノ寫ヲ送達スルト
 アレトモ欠席裁判ノトキハ被告人ノ方ニ代書師アルコトナシ言渡書
 ノ寫ヲ送達スルコト能ハス書付ケテ言渡シタルハカリニテハ執行ヲ
 爲スコトヲ得ス必ラス代書師ヘ送達ス
 假ノ言渡ト云フ是迄其例ヲ説カスト覺フ今之レヲ説カン
 假ノ言渡トハタトヘハ夫婦別居ノコトヲ訴フトキ訴訟中假リニ言渡
 サ、ルヘカラサルコトアリ先別居中ノ食料ノコトヲ言渡ス等之レナリ
 賣買ノコトニ付テ訴訟トナルソノ品ソノマ、ニ置クトキハ腐敗スル
 品等ハ直チニ假リノ言渡ヲナサ、ルヘカラス靴帽又ハ菓子等直チ

ニ朽敗スルモノ等ハ假リノ言渡シヲ以テ賣却シソノ代金ハ官コトテ
 預カルナリ
 佛ニテハ「マンシナーシヨ」ト云ヒテ大藏持チニテ右ノ金ヲ預カル
 所ロアリ日本ニテモ早ク右ヲ設ケヘキナリ
 巴里ニテハ大藏持チナリ縣ニテハ大藏ヨリ出張スル租税ノ受取役
 ニテ之レヲ兼ヌ
 之レ良法ナリ若シ此設ケナケレハ裁判濟ミシマテ其儘ニ捨置カサ
 ルヲ得ス然ルトキハソノ品盡ク朽敗シテ用チナサス徒ラニ多少ノ
 損害ヲ生スヘシ
 佛ニテハソノ預カリ所ロニテ幾分ノ利息ヲ出ス
 久シキニ堪ユル品モノハ品ニテ預カリ朽敗スル品モノハ賣テ金ト
 ナシ預カル

官ノ貸シ藏モアリソノ管主人ハ預リ品ニ損敗等ノコアレハ責アリ
 確定ノ言渡トハ終審ノコチ云フニアラス裁判所丈ケノ確定ナリ
 相手方ノ負訴訟トナル云々タトヘハ負訴訟ノ者ヘ裁判入費ヲ出セ
 ト言渡サレタルハ即チ罰ナリ原被等分ノ理アルトキハ入費ヲ出ス
 ノ罰ナシソノ時ハ代書師ニ送達スルノミニテ足レリソノ本人ヘ送
 達スルニ及ハス

負訴訟ト負ノ字チ下シタルハ譯ノ誤リナリ
 罰文アルト改ムヘシ 罰文トハ何々ニ處スルノ文アルモノ總テ借書
 金並ニ裁判入費ヲ拂フヘキ等ノ文之レナリ
 記ヨリ出ス寫ハ一通ナリ之レハ勝方ノ手ニ入ルソノ書キ付ケテ使
 吏ニテ寫シ一通チ代書師ヘ送達シ又一通チソノ本人ヘ送達ス
 被告人連帶シタルトキソノ事柄ノ同シキトキ一通ニテ足ルト雖ト
 モ連帶セサル事柄ニシテ罰ヲ受クヘキモノ十人アレハ十通チ寫シ

テ送達ス

タトヘハ人ニ百圓チ貸シタリト訴フルニソノ人先キニ返シタル證
 アルトキハソノ訴訟ハ取揚スト言渡ス之レ確定ノ裁判言渡ナリ故
 ニ確定ノ裁判ニテモ罰ナキコアリ此類之レナリ
 右ノ場合ニ於テソノ返シタル金ノ受取書キチ被告人ヨリ初メニ出
 スヘキチ出サス彼此混シタル上ニテソノ證書ヲ出ストキハ原告人
 ハ罰ヲ受ケス尤モ被告人ニテモ罰ヲ受ケスソノ費用ハ兩持チナリ
 親族相訟フル入費ハ勝者負者トモ自分ノ費丈ケハ自カラ拂フコト
 ス尤モ從弟ヨリ出タル從弟マテ六級ノ親ナリ
 代書人既ニ死スルトキハ書付ケノ寫チ送達セス
 代書人退職又チ死シタルトキハ一方ヘ送達スルノミ併シ退職又ハ
 死シタルコチ記ス

第十八號 明治七年七月十日

第一百十九條 裁判所ヨリ原告及ヒ被告ニ其代書師ヲ出サス自カラ出席ス可キヲ言渡ス時ハ其出席ス可キ日ヲ言渡書ニ記スヘシ 第十五章ニ記スル所ト

一般訴訟ヲナスモノハ本人自カラ裁判所へ出ルヲナシ代書人ニテ其概略ヲ統括シタル書付ヲ以テ申立猶委シキヲハ代言人ニテ演舌スルヲナリ

若シ裁判官ニテ本人ヲ呼ハサルヲ得サル見込ノ時ハ書付ヲ以テソノ本人ヲ呼出スナリ

夫婦ノ財産ヲ分ツ事 ○夫婦別居ノ事

此ニツハ必ラス裁判官ノ見込ヲ以テ本人ヲ呼出スナリ之ヲ「ジュエジ

マソフレバライトアル 預備ノ裁ト云フ 判言渡

本條ハ右等ノ時ニ適當ス

然レモ本文之通りニテハアシ、依テ本文ヲ改メテ若シ裁判官ニテ

雙方ノモノ、出席ヲ必要ト思量スルトキハ裁判官書付ヲ以テ言渡

シ云々ト書セサル可カラス

第八十五條ニ本人自カラ拒カント欲セハ自カラ出ルモ苦カラスト

云フモノトハ異ナリ

本條ハ裁判官ノ見込ヲ以テ出席ヲ命スルモノナリ八十五條ニ於テ

ハ代書人ノ言立タルヲ自分ニテ代言人ヲ用ヒス出席シテ辨論ス

ルヲニテ其辨論ハ記録スルヲナシ本條ハ雙方トモ十人アレハ十人

ヲ呼ヒ出シソノ口上ヲ書記ニテ記録スルヲナリ本人ヲ呼出ス場合

ニ於テハ假令裁判官ニテ一方ノ事柄ハ分カリタルトモ一方ノ事柄

分カラサレハ必ラス雙方共呼出スナリ
裁判官ニテ雙方ノ申立確定ノ裁判訴訟ノ
ヲ監察スルモノ、如シ確定ノ裁判訴訟ノ
本訴案ヲナス前ニ三ツノ裁判言
渡アリ

一上ハ預備ノ裁判「シユシマンフレパライトアル」

二ニハ假ノ裁判「シユシマンプロモスハール」

三ニハ預審裁判「シユシマンアンテローロビトハール」

此三件ヲ立テタルハ甚都合宜シキヲナリ

預備ノ裁判ノミニテハ控訴ヲナスヲ得ス

假ノ裁判ト預審ノ裁判ヲナシタル上ハ控訴ヲナスヲ得ル

何ノ爲メニ預備ノ裁判ノミニテ控訴ヲナスヲ得サルトナレハ其

時マテハ事柄ヲ一通リ聞キタルハカリニテ一方ノモノへ害ノ生ス

ルコトハ未ダ分カラサルナリ

假ノ裁判預審裁判ニ至リテハ既ニ一方ノモノ害ヲ受クルニ至ル是
レ其控訴ヲ許ス所以ナリ

右等ハ控訴ノ條ニ委シク記載スル所ナリ

此次第二百二十條即チ預審裁判ノコトナリ

第二百二十條 誓ヲ爲スヘキノ言渡書ニハ如何ナル事件ニ付キ其誓

ヲ爲スヘキヤヲ記ス可シ

元來佛ニテハ證據ナキ訴訟ハ取揚ケス併シ其時ハ誓ヲナサシメ之

ヲ取揚裁判スルコトアリ

誓ニ二ツノ場合アリ一ツハ一方ノ者ヨリ一方ノ者へ誓ヲ立テシム

ルナリ一ツハ裁判官ヨリ之レヲナサシムルコトアリ

誓ノコトハ民法證據ノ條 千三百五十七條以下ニ詳カナリ

此ノ誓ヲ申付ルハ即チ預審裁判ニテ預備ノ裁判ハ此ノ預審裁判中

ニ含ミアルナリ
 何トナレハ其事柄ヲ審理スルニハ預備ヨリ起ラサルヲ得サレハナリ
 併シ誓ヲ立テスモ宜シキモノニ裁判官ニテ之ヲ立テシムルコトアル
 時ハ一方ノモノ、害ヲ生スル故控訴ヲナスヲ得ル

第二百一十一條

此條ハ此ノ處ニアル可カラサルモノナリ之レ誓ヲナスノ手續ナリ
 原來民法ニ於テ此等ハ證據トナル此等ハ證據ニナラスト法律ノ根
 原ヲ定メアリ訴訟法ニハ其法律ヲ取扱フ手續ヲ記載セリ第九十
 三條以下六條本條ニ類スル取扱ノコトアリ其次ニ之ヲ置ヘシ

餘論

預審ノ裁判ハ控訴スルヲ廢セリトノ說ヲ聞ケリ如何
 預審裁判ニ於テ控訴ヲ許サ、レハ大害アリ何トナレハ一旦預審ニ

テ定マリタル證據ハ即チ確定裁判ノ根元トナル故ニ確定ノ裁判以
 前ニ之ヲ防カサルヲ得ス若シ之ヲ防カサル時ハ其者大ニ害ヲ受ク
 ルニ至レハナリ
 預審裁判ノ控訴ハ宜シカラストノ論ハアルヘシト雖モソレヲ云ハ
 、訴訟法一部總テ議論ナキカ如シ
 本條ノ旨意ハ償ノ總額ヲ記スルコトニテソノ總額ヲ定メ難キ時ハソ
 ノ一ト坪或ハ一斛等ヲ以テソノ額ヲ定ムヘキコトヲ云フナリ
 第二百二十九條 土地ノ収納物ヲ償還ス可キ言渡書ニ最終ノ一年ニ付
 テハ物品ノ儘ヲ以テ之ヲ償還ス可ク其前年ニ付テハ本年ノ豊凶ト其
 収納ノ物ノ通價トニ注意シ且其最近ノ地ノ市場ノ數年間價書ニ從テ
 其價ヲ償フ可キコトヲ附記シ若シ其價書ノアラサル時ハ評價人ノ說ニ
 循ヒ之ヲ償フ可キコトヲ記ス可シ○若シ最終ノ年ノ収納物ヲ其儘ニテ

償還スルヲ能ハサル時ハ前年ノ如ク價ヲ以テ之ヲ償フ可シ
此條ノ旨意ハ人ノ土地ヲ占有スルヲニ付テソノ作徳ヲ取立ルヲチ
説ク

占有ニ不正ノ心アルモノアリ不正ノ心ナキモノアリ
不正ノ占有ニ付テハ願ヒタルヨリ五年前ノ収納ヲ取立ツルナリ
不正ニアラサル占有ニ付テハ願ヒタル後ノ收納丈ヲ取立ツルナリ
本條ニ記シタル如ク最終ノ一年ナレハ其現品ヲ以テ取立テ其以前
ノ分ナレハ其年々ノ相場ニ循ヒ金ヲ以テ取立ルナリ
最終ノ一年トハ昨年ノナリ原書ニハ昨年トアリ占有ノヲ及ヒ其
期限ノヲハ民法ニ原律アラスタトヘハコ、ニ兵器アリ曰ク之レ人
ヲ殺サン之レ毀ツヘシト云フカ如シソノ僅々ノ害ヲ以テ一部ノ訴
訟法ヲ誹議セハ何ソ一人ヲ殺スヲ以テ天下ノ兵器ヲ廢セントスル

ニ異ナランヤ

佛ニテ目下預審裁判ノ控訴ヲ許ス第四百七十三條見合ス可シ
尤モ時ニヨリ間違ニテ預備ノ裁判ヲ控訴スルヲアリソノ時ハ其裁
判所ノ裁判官ニテ取揚ケサルナリ代書人モ法律ヲ知ルモノナリト
雖モ時トシテ右等ノ間違ナキヲ能ハス裁判官ニ於テハ容易ニカク
ノ如キ間違アルヲナシ
法律ニ裁判官ニテ取揚ケヘシ取揚ク可カラサルヲハ記載セスト雖
モソレ等ハ裁判官ノ見込ニ任スル故法律ニ掲クルニ及ハス
又人權ニテモ物權ニテモ其訴訟ヲ裁判官ニテ承知スルト否ラスト
是亦其見込ニアル故ニ之ヲ法律ニ掲ケサルナリ

第二百二十二條 裁判所ヨリ裁判言渡ヲ執行フニ付キ猶豫ノ期限ヲ許
スヲ得可キ場合ニ於テハ其言渡書ヲ以テ其猶豫ヲ許ス可シ但シ其

言渡書ニハ猶豫ヲ許スノ趣意ヲ附記ス可シ

此條ハ從タル裁判言渡ノコトヲ云フタトヘハ家賃ヲ拂フ拂ハサルノ
コトニ付テハ到底家賃ト云フコトハ離レサルモノニテ即チ主タル訴訟
ナリ又其家賃ヲ拂ハサルニ付償ヲ訴フコトアル可シ是レ即チ從タル
訴訟ナリ本條ハ其事ヲ云フナリ

タトヘハ本訴訟千圓ノ金ヲ返スヘキ言渡ヲ爲スニ貧窮ナルモノナ
ル時ハ裁判官ノ見込ヲ以テ其拂ヒ期限ヲ延ハシ本條ノ手續ヲ以テ
之ヲ言渡ス之レ從タル裁判ナリ

民法千二百四十四條ニ猶豫ノ期限ヲ許ス法律ノ根原アリ此條ニ於
テハ其ノ取扱ノ手續ヲ云ナリ
一旦言渡シタル裁判ハ決シテ後ヨリ増減スルヲ得サル原則ナルニ
付主タル裁判ヲ言渡シタル翌日ニナリテハ其從タル延期ノ言渡ヲ

爲スコトヲ得ス故ニ其主タル裁判言渡ト同時ニ猶豫ノ期限ヲ言渡ス
可シ主タル裁判言渡ヲ書込ムナリ

第二百二十三條 其猶豫ノ期限ハ原告被告雙方ノ者出席ノ上ニテ裁判
ヲ言渡シタル時ハ其言渡ノ日ヨリ之ヲ算ヘ又一方ノ者出席ヲ爲サス
シテ言渡シタル時ハ其言渡書ヲ送達シタル日ヨリ之ヲ算フ可シ

此條猶豫ノ期限ヲ起算スル定メノミナリ

第二百二十四條 第二百二十五條 第二百二十六條

此三條ハ法律ノ根原ニテ訴訟法中ニ置クヘキモノニ非ス民法千二
百四十四條ノ次ニ置クヘキモノナリ

第二百二十二條 第二百二十三條ハ期限ノコトヲ説キタルモノナリ百二十
四條以下三條ハ期限ヲ許スト許サルトノコトヲ説タルモノナリ

第二百二十六條ニ格段ノ場合ニ於テ人ヲ禁錮シテ負債ヲ取立ルコト

リ然レモコレハ千八百六十七年既ニ之ヲ廢シタリ
尤モ今日モ禁錮シテ取立ルモノハ

○罰金 ○輕重罪ニ付損害ノ償 ○刑事ニ關スル裁判入費ナリ
其廢シタルモノハ

○民事 ○商事 ○行政 ○外國人ナリ

外國ノコニ付テハ一ツノ例アリ

英ヨリ佛ニ來ル者アリ之レ有名ノ拐帶人ナリ海石ヲ箱ニ入レ金ナ
リト見セ掛ケテ佛ノ有名ノ旅店ニ宿ス其店僕ニ相當ノ金ヲ與ヘテ
曰ク之レ英國ノ美金ナリ大切ニ保護ヲ頼ムト云フソノ上種々ノ品
物ヲ買入ルコトヲ頼ミソノ代價ハ旅店ヘ代償セシメソノ品物ヲ受取
リ爾後何方ヘ行タルカ知レサルコ付ソノ箱ヲ開キ見ルニ全ク海
石ナリ依テ始テ其拐帶人ナルヲ知レトモ之ヲ罰スルニ由ナシ外國

旅人ハナキモノヲ有トスル類多ク又飲食等ニ付テモ十圓ノモノヲ
食ヒ一圓ヨリ外所持セサルコ等澤山アリ因テ外國人ハ之ヲ禁錮ス
ルトモ其詮ナシ故ニ其禁錮ハ廢タルナリ

第二百二十七條 裁判役ハ前條ノ場合ニ於テ禁錮ノ言渡ノ如ク執行フ
コト己レノ定メタル時間猶豫ス可キノ言渡ヲ爲スコトヲ得可シ但シ
其猶豫ノ時間ノ後ニ至リテハ再ヒ言渡ヲ爲スコトナク直チニ之ヲ禁
錮ス可シ其猶豫ハ訴訟ノ裁判言渡書ヲ以テ之ヲ許スヘクシテ其言
渡書ニ猶豫ヲ許スノ趣意ヲ記ス可シ
此條ハ訴訟法ノモノナリ

前條ニ言フ如ク千八百六十七年七月廿六日ノ法律ニ因テ政府ニ入
ル刑事裁判入費ノコニ付テハ禁錮スルコトヲ廢シタリ其後千八百七
十一年十二月二十三日ノ法律ニ於テ復タ之レヲ禁錮スルコト定メ

タリ

今日負債ノ爲メニ禁錮スルヲ廢スル時ハ前日禁錮セラレタルモノハ盡ク免サ、ルヲ得ス之レニ反シテ今日ヨリ禁錮ヲナスコトニ定メタルキハ今日マテ禁セラレサルモノハ皆禁錮ス可シ
主タル法律ハタトヒ改正ストモ既往ニ及ホスコト能ハスコレハ負債取立テノ取扱ヒニ付テノ從タル法律ナリ故ニ法律ノ改正トナリタルキハ既往ニ及ホスナリ

第二百二十八條 一方ノ者ヨリ其相手方ニ償額ヲ拂フ可キノ言渡書ニハ其額ヲ定メテ之ヲ附記ス可シ又ハ相手方ケ條書ヲ以テ其額ヲ定ムヘキコトヲ附記スルモ亦可ナリ
時ニヨリ裁判官渡シニ償額ヲ言渡スコトアリ其時ハ金額ヲ何百何十圓ト定メテ出サ、ルヲ得ス

時ニヨリ裁判官コテソノ額ヲ定ムルコト能ハサルコトアリタトヘハ家ヲ受負ヒテ期限淹滞スル等ニ付其金額ヲ定ルコト難シ是等ハ一日ニ付何程ト定ムルヨリ外ナシ
タトヘハ家ヲ建ルニ幾分カノ損害ヲ受クルコトアル時ハ裁判官コト定ムルコト能ハス鑒定人コトテ之レヲ定メシム
或ハ商買品ノ損害ニ付テハ其總額ヲ定ムルコト難シ依テ一石ニ付何程一斤ニ付何程ト定ムルナリ
占有ハ必ス不正ノミニアラスト雖モ訴訟ニ就ク以上ハ不正ノコト看做サ、ルヲ得ス

本條○以下本年ノ訴訟ニ付テ昨年ノ收納菓物ナレハ賣リテ金トナサ、ルヲ得ス故ニ金高ヲ以テ取立テ現品ヲ取立ツルヲ得ス
第三百十條 總テ負訴訟ノ者ハ裁判ノ費用ヲ拂フ可キノ言渡ヲ受ク

可シ

此條ヨリ第三百三十三條マテハ裁判費用ノコト云フ
此條ハ其本則ナリ

訴訟ヲナスニハ原告人最初ソノ入費ヲ假リニ出シ置クナリ其入費
ハ負ケタルモノ、爲メニカ、リタルモノ故ニ其負タル者ニ罰トシ
テ其入費ヲ拂ハシムル譯ナリ

時ニヨリ代書師ニテ原告人ヨリ其入費ヲ最初ニ受取置カスシテ訴
訟ノ終リタル後ニ之ヲ受取ルコトアリソノ時ハ代書人負ケタル者ヨ
リ直ニ受取ルヲ得ルナリ

裁判官ハ何々ノ入費ヲ出ス可シト言渡スマテナリ
其現物ヲ取扱フ
等ノ事ナキヲ云
フ

裁判官渡書等ノ入費ハ書記コテ受取ル尤モ之レハ價ノ高キモノナ
ル

ルユヘ前キニソノ價ヲ出サシム

使吏ハソノ廉々相對ニテ假リニ訴訟人ヨリ其入費ヲ預カリ置クナ
リ

ソノ人ヲ知ラサル時ハ必ラス前キニ其入費ヲ預カルナリ然ラサレ
ハ時ニヨリ負タルモノ逃亡スルコトアリ

代言人ハ價ヲ定メ取ルコト能ハス併シ竊カニ取ルモノアリ
代言人ノ謝金ハ十五「フランク」ト表ニ見ヘタリト雖モ其金質ハ代書

師コテ之ヲ取ルナリ
裁判官管轄地内ニ出張ノ旅費ハ政府ノ入費トナル何トナレハ其裁

判官ヨリ更ニ聰明ナル裁判官アラハ出張セストモ分カルモ知ル可
カラサレハナリ

書記ノ出張ハ必ス裁判官ニ隨行スルコト故ニ裁判官ノ入費ト同シク

政府ノ入費トナル

使吏ノ出張ハ全ク訴訟人ノ頼ニカ、ル故ニ負訴訟人ノ入費トナル
 本條ノ書法ニテハ費用ヲ拂フヘキ願ヲナサ、ルニ裁判所ノ方ヨリ
 言渡ス様ニ聞ユレモ原來願ヒタルユヘニ言渡サル、モノニテ願ハ
 サルモノニ裁判所ノ方ヨリ言渡スニハアラサルナリ
 右入費ノコトハ代書人ヨリ出ス書付ニ負ケタルモノニ入費ヲ出スコ
 ト言渡サレ度旨ヲ記載シアルコトナリ
 前段ノ如ク負ケタルモノ入費ヲ拂フコト原則ナレ共其内ニ二ツノ取
 除ケアリ

負ケタルモノモ入費ヲ拂フコト言渡サレ勝チタルモノモ入費ヲ拂
 フコト言渡サル之レ一ツノ取除ナリ

親族ノ訴訟ハ勝負トモ其費用ヲ雙方ヘ分ケテ出サシム之レ亦ター

ツノ取除ナリ

負ケ方勝チ方雙方共入費ヲ拂フ場合ハ雙方トモニ一ト廉ツ、勝チ
 タル時ハ雙方ノ入費ヲ合セ之ヲ平分シテ雙方ヨリ拂フコトアリ又其
 一部或ハ幾部ヲ拂フコトアリ

佛ニテ親族間ノ訴訟ニ三萬フランク餘ノ負ケトナリ其入費八千フ
 ランクアリ其入費ヲ三萬フランク内ヘ組込マントセシカ行ハレ
 ス因テ之ヲ分ツテ出スコトナリタリ

分ツトハ雙方我カ費ヤシタル丈ケヲ銘々償フコトナリ

又我カ入費ヲ償ヒタル上相手方ノ入費莫大ナルトキ其幾部分ヲ拂
 フコトモアリ

又全ク雙方ノ入費ヲ通算シテ平分ニ拂フコトモアリ

親族此條ニテハ兄弟マテチ云ヘリ然レモ通例六級マテニ及フナリ

入費ノ差引ハ裁判官ニテ見込ヲ付ケテ言渡スナリ
親族間ノ裁判入費ヲ銘々ニ拂ハシムル所以ハ既其訴訟ヲナスハ不
和ナリ然ルニ一方負トナリ更ニ其入費ヲ出サシムルヲニテハ更ニ
不和ヲ重スルヲ以テ此法ヲ立テタルナリ

第十九號 明治七年七月十二日

前會ニ説キタル裁判入費ノ事ヲ説カン

右ハ四ヶ條ニ分カル

第三百三十條ハ大要ヲ掲ク

第三百三十一條ハ大要ヲ和ラケ摸樣ヲ付ケタルモノナリ大略ニテ通
リニ分カル

第三百三十二條ハ代書師又ハ使吏ニテ我職掌ヲ違ヘタルニヨリ原被

告人ノ害トナリタルニ付入費ヲ出スヲ云ヒタル尤損害ノ償ニ觸
ル、トナシ

第三百三十三條ハ代書師ノ爲メ大イニ便利ナルヲ説キタルナリ

右四ヶ條ヲ一々説カン

第三百三十條ハ公正ノ法律ナリ

例ヘハ被告人ニテ抗抵セサレハ早ク濟ムヘキ訴訟ヲモ其抗抵スル
爲メニ長ク時日ヲ費ヤシ原告人ニ害ヲ及ホスヲアリ又原告人ニテ
願ヒ出テストモ宜シキヲ願出テ被告人ニ害ヲ掛ルヲアリ此等ノ
時ハ必ス一方ノ者ヨリ償ハサル可カラサルノ理ナリ

原告人ニテ訴訟ヲナス時前拂ナシ置タル金額ハソノ訴訟ニ負ケタ
ルトキハ元ヨリ損トナリ且被告人ノ入費ヲモ拂ハサル可カラサル
ナリ

代理人ハ義務ニアラサルナリ必ラスツノ代料ヲ取ルコト定メタル
 モノニアラス前ニモ説ク通り十五「フランク」ノ謝金ハ代理人自カラ
 之ヲ取ラスナキ料ヲ取ルモノニアラスト謂フ「少代書師」ニテ取ルナリ
 原來代理人ハ十五「フランク」位ニテ雇ヒ得ルモノニアラス故ニ相對
 ニテツノ謝金ヲ定ムルナリ

一千八百年代第一世「ナポレオン」天變革ノ時ニハ定マリタル代理人
 ナシ但其人ノ懇切ニテ代其時ハ十五「フランク」ニテ雇ヒ得ルコトアリ
 其例今ニ殘リタルナリ爾後其謝金ノ額ヲ増ス等ノ論ナシ

餘論

日本ニテ目下代理人ハ此訴訟ニ付負ケタラハ一錢モ取ラス勝チタ
 ラハツノ訴訟ノ金額ノ一割トカ取ラント約シ證書ヲ作りテ掛ルモ
 ノアリツノ訴訟ニ勝チタレヒ代理人ヘ一錢モ渡サス依テ其證書ヲ

以テ代理人ヨリ訴へ出ツルトキハ日本ニテハ取揚ケ裁判シテ宜シ
 キヤ又ハ宜シカラサルヤ
 訴訟ニ付テツノ金額ノ幾割チヤラント約スルハ極々惡シキコトナリ
 何トナレハ多數ノ金額ニテモ一席ニテ濟ムコトアリ少數ノ金額ニテ
 モ多少ノ時日ヲ費ヤスコトアリ故ニ元金額ニヨリテ幾割ト其禮金ヲ
 定ムルコトハ佛ニテハ先年ヨリ禁スル所コトナリ英トテモ同様ト思フ
 ナリ

代理人ノ禮金ニ付テノ訴訟ヲ禁シタル原由ハ萬一代理人ニテ訴へ
 タルトキハ被告人ニテ必ス其代理人ヲ我カ意ヲ貫徹シ得ス又ハ我
 カ思量セシ程ノ學者ニテモナカリシナド云フヘシ其時代代理人ニテ
 我ハ充分ニナシタリ裁判官ノ惡シキユヘ負ケタリト云ヒ争フ其爲
 メツノ人ノ面目ヲ失スルユヘ禁シタリ

又勝訴訟ニ付テハ被告人ハ代言人ノヨロシキコアラズ我カ證據ノ充分ナルヨリ勝チタリナト争フ總ヘテ後來ノ面目ニ關スルユヘ禁シタルナリ

佛ニテハ左モアルヘシ日本ニテ其訴訟ヲ取リ揚ケテハ道理ニ適セサルヘキヤ

總テ契約ハ皆役ニ立ツモノ、ミニアラサルナリ代言人ノ契約ニナルモノコハアラズ日本ニテハ裁判官渡シノ節裁判官ヨリ其訴訟ノ代言人禮金ハ何程トソノ訴訟ニヨリ言渡方宜シ

一日ニ付キ何程ト定メタラハ暫時ニテ濟ムヲモ長ク言フ可シ代言人ノ便利ナレトモ裁判官ノ甚不便利ナリ故ニ一日ニ付何程トハ定メ難シ

元來佛ノ法宜シカラス右ニ付數說アレヒ先ツニタ通りテ說カン

今ノ佛ノ法ハ十五フランクト定マリテ又之レヲ取ラス更ニ訴フルヲ能ハス餘リニ不都合ナルユヘ五十フランクト定メント云フ說アレヒ五十フランクニ至ラサル事件モアリ又五十フランクニ越ユル事件モアル可シ不相當ナリ故ニソノ勞ニヨリテ定ムル方宜シ

元來訴訟ノ難易結局ハ料リ知ル可カラス之レヲ料リテ前ニ定ムルニハ必ス多數ヲ要スルモノナリ

訴訟ヲナスニ付キ稍ク代言人ヲ見付ケタリ其代言人トナル可キモノニテ元金額ノ五割ヲ出セト云フ其時ハ之レヲ止メルヤ又ハ頼マサルヲ得ス

最モ宜シキ趣向ハ其裁判官ニテ權ヲ持ツ方ナリ其訴訟何程ノ難易アリ何程ノ時日ヲ費ヤシ何程ノ勞アリト見積リテ言渡ストキハ代言人ニテ何程出セト云フヲ能ハス

其裁判所ノ特權ニテ控訴スルヲ許サ、ル方ナリ例ヒ控訴スルト
 モ其上ノ裁判所ニテハ顛末ノ分カラサルヲナレハナリ
 尤モ代言人ノ勝チタル者ト負ケタルトハ區別セサル可カラサルナ
 リ
 又其貧富ヲモ察セサル可カラサルナリ
 之レヲ問フ所以ハ外國人ニテ多分ノ代言料ヲ書キ出ス者アルユヘ
 ナリ
 ソレハ相當ノ所ロニ定メサル可カラス佛人ナラハ佛ニハ其法律ナ
 シト言フ可シ英ナラハ英ノ領事へ談シ相當ニ定ム可シ先方ノ求メ
 ノ相當ナルトキハ之レヲ遣ル方ヨロシ
 佛人へハ代言人ノ料トテハ遣ル可カラス損害ノ償トシテ遣ル可シ
 佛ニモソノ様ナルヲアリ

尤日本ニテハ未タ代言人ノ局トテハナシ
 千八百三十八年四月十一日ノ法律ニ首タル訴訟ニヨリテ損害ノ償
 チ要ムルヲハ金高ニ拘ハラス終審チナスヲ得ルト定メタリ
 何ヲチモ控訴チナスヲ得ルトキハ紛亂窮マリナシ故ニ金高ニ拘
 ハラス之ヲ終審スルヲ得
 千二百フランク訴訟ヲ終審スルニ其損害千五百フランクナリト云
 ヒテ控訴スルヲニナル故ニ其損害ノ償ハ終審チナス
 併シ事ニヨリ人ヨリ傷チ受ケタルニ付キ控訴スル等ハ之レヲ許ス
 千二百フランクノ訴訟ハ一旦終審チナシタルモノナリ
 傷チ受ケタルハ事柄ヨリ起リタルモノナレハナリ
 此法律アルユヘ代言人ノ訴へハ取揚ケサルヲナリ
 代言人ニ遣ルト云フヲハ法律ニ立テヨト云フヲニハアテサルナリ

大意裁判官ニテ特權ヲ以テ見積リテ言渡シ控訴ヲ許サストナス方
宜シ

ソノ高チ極メルハ〇出席幾日〇金高何程〇事件ノ難易〇法律ニ對
シタル難易〇代言人ノ勞

此五ヶ條ヲ以テ立ル方

佛人ノ爲メナラハ此ノ如ク言フ可シ

代言人ノ料ハ遣ルコトヲ得ス君カ國ニ於テモ法律ニ於テ訴訟ヲ許サ

ス相當ノモノナラハ損害ノ償トシテ差出スヘシト云フ可シ

第三百三十一條 然レ夫婦ノ間又ハ卑屬ノ親ト尊屬ノ親トノ間又ハ兄

弟姉妹ノ間又ハ之レト同級ノ姻屬ノ親ノ間ニ於テハ裁判費用ノ全部又

ハ一部ヲ互ニ消殺スルコトヲ得可シ又原告被告互ニ負訴訟ノ箇條アル時

ハ裁判役ヨリ其裁判費用ノ全部又ハ一部ヲ互ニ消殺セシムルコトヲ得

可シ

第三百三十條ニ對シニツノ和ラケアリ第一ノコトハ親族訴訟ヲナス既

ニ第一ノ不和ヲ生スソノ入費ニ付キ第二ノ不和ヲ生セサル爲ニ銘

々ニ拂フ可シト言渡ス

佛ニテハソノ訴訟ノ書付ケヲ作ルニ付多數ノ金ヲ要ス故ニ一方ヨ

リモ何程カ出スヘシト言渡ス

一體本文ニテハ我カ遣ヒタル入費ハ我カ拂フコトナリ併シ一方ノモ

ノヘ君ヨリモ少シク拂フ可シト裁判官ノ見込ヲ以テ言渡スナリ

コンパンセイ

笑譯 消殺

原語ノ意ハ差引勘定ト云フコトナリ

本文ヲ此ノ如ク書ク可シ

若シ親族互ニ訴訟ヲナシタルトキハソノ入費ハ各自ノ費用タル可シ

第二項ハ眞ノ差引勘定ナリ雙方トモ一ヶ條ツ、勝チタルトキハソノ入費ハ眞ノ差引勘定ナリト雖モソノ高カチ見ルヲ甚ク難シ
 タトヘハ千圓ノ訴訟ヲナスコト甲ニテハ五百圓ノ勝チヲナス乙ニテモ五百圓ノ勝チヲナストキ甲ニテハ六十フランク「チ出シ置キ乙ニテハ四十フランク」チ出シ置キタルキハ十フランク「チ甲ニ渡ス等ナリ」
 タトヘハ家ト地所ヲ要ムル訴訟ニ付キテハソノ高分カラスソノ時ハ鑑定人ヲ用ユソノ鑑定人ニテソノ入費ヲ甚ク多クスル等アリ不都合ナリソノ時ハ裁判官ニテ見積ルナリ
 若シ雙方トモ勝チタルトキハ三ツアリ
 第一ツノ訴訟ノ勝高

第二入費ノ高

第三前ニ出シ置キタル金高

之レチ見極ムルハ肝要ナリ

タトヘハ三分ノ二勝チタルモノハソノ入費ハ三分ノ一チ拂ヒテ宜シ

第一百三十二條 代書師使吏其職限外ノ事ヲ爲シタル時及ヒ後見人管財人又ハ遺物ノ額ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハザル特權アル相續人又ハ其他財産ヲ支配スル者其財産ノ損害トナル可キ事ヲ爲シタル時ハ此等ノ者一身ノ名義ニテ裁判費用ヲ拂フ可キノ言渡ヲ受ケ且本人ニ償額ヲ拂フ可キ道理アル時ハ之ヲ拂フ可キノ言渡ヲ受ク可シ但シ其時ノ模様ニ因リ代書師及ヒ使吏ハ定期ノ時間其職ヲ行フノ禁ヲ受ケ又後見人及ヒ其他ノ者ハ其職任ヲ退ク可キノ言渡ヲ受ク可シ

大意ハ自分ノ職務外ノコトヲ爲シタラハ裁判入費ハ勿論ソノ損害マ
 テチ拂ハシムルコトナリ
 タトヘハ自分ノ職務ハ敬ス可キヲ使吏ニテ怠タリ「プレクスプリク
 シヨソ」ノ期限ヲ過クル等之レナリ
 民法千三百七十二條ニアリ
 誰レニテモ人ノ損害ヲナシタルモノハソノ償ヲ出サ、ル可カラズ
 トアル原則ヨリ出ツルナリ
 此條ハ代書師ノ便利ナル條ニハアラス併第百三十三條ニハ代書師
 ノ便利ナルコト云ヒタリ
 訴訟ヲナスニ代書師ニテソノ入費ヲ假リ受取ヲナサス總テ立替テ
 置クコトアリ得意ノ爲ニハ間々爲スコトナリ
 ソノ立替金ヲ爲シタル上勝チタルトキ負ケタルモノヨリ請取ルハ

當然ナリ然ルニソノモノハ勝チタルモノヘ渡シタリソノトキ勝チ
 タルモノ分散トナリタリソレニ付外債主ト平均ヲ承ケサルヲ得ス
 ソレニテハ氣ノ毒ナルニ付ソノ憂ナキ爲メニ負ケ訴訟ノモノヨリ
 勝チ訴訟ノ手ヲ經スシテ直チニ之ヲ代書師ヘ受取ルコトニ定メタリ
 之レ眞ノ「プレウレージ」ナリ何トナレハ一旦勝者ノ手ヲ經スシテ直
 チニ金額ヲ取レハナリ
 「プレウレージ」ニ於テ氣ヲ付ケサルヘカラスソノ頼マレタルモノニ
 對スルニアラサレハ「プレウレージ」ノ特權ヲ持セサルナリ
 何トナレハソノ頼マレタル人ノ爲メニ勤メ且ツ前金マテチ出シテ
 居ルユヘナリ之レハ勝チ訴訟ノモノニ對スルコトナリ負ケ訴訟ノコ
 トニ於テハ「プレウレージ」ノ特權ナシ何トナレハソノ人ノ爲メニ勤メ
 チ爲シテ居ラサルナリ

金ニ於テハ一ト度ヒ分散人ノ手ニ入レハ「プレウレ」ノ特權ハ無クナルナリ之レハソノ金ヲ押ヘテ分散人ノ手ニ入レサルト同シナリ

第一百三十三條 克訴訟ノ代書師嘗テ其本人ノ爲メ多數ノ金額ヲ前拂トナシ置キタルコトヲ裁判言渡ノ時證スル時ハ相手方ヨリ出ス可キ費用ノ償ヲ本人ニ渡サスシテ己レノ方ニ受取ル可キノ求メテ爲スコトヲ得可シ○其代書師ニ其費用ノ償ヲ渡ス可キコトハ訴訟ノ裁判言渡書ヲ以テ之ヲ渡ス可シ但シ此場合ニ於テハ其代書師自己ノ名目ニテ相手方ヨリ其費用ノ償ヲ得ント求メ且裁判所ヨリ其言渡ノ如ク執行フ可キノ書ヲ受クルコトヲ得可シ若シ又其費用償ノ事ニ付キ代書師其本人ニ對シ訴訟ヲ爲ス可キノ道理アル時ハ別ニ之ヲ爲スコトヲ得可シ此條ハ即チ言フ所ノ代書師ノ立替タル金ハ別ニナシ置クコトヲ言フ

元トヨリ代書師先キニ金ヲ出シ置カサレハ何事モナシ右ハ裁判言渡ノキ一同ニ右ノ言渡ヲナス可シトナリ但シ此場合ニ於テハ其代書師自己ノ名目ニテ云々本文ノ通りナリ若シ負ケタルモノニテ出スコトヲ得サルトキハ本人ニ對シ訴フルコトヲ得ルナリ

第一百三十四條 若シ主タル訴訟ニ添ヘ假ノ處置ニ付テノ訴訟ヲ爲シ且假リノ處置ニ付テノ訴訟ト主タル訴訟ト共ニ裁判シ得可キ手續ニ至リシ時ハ裁判役其二箇ノ訴訟ヲ共ニ裁決シテ一箇ノ言渡書ヲ記ス可シ

此條ハ此所ニアラサルモ可ナリ夫婦別居ノトキ養育料ノコトニ付キソノ訴訟ヲ二ツトモ裁判シ得可キトキハ一同ニナス何トナレハ二ツニナセハソノ入費モ從ツテ多ケレハナリ

百十八條十九條ノ次ニアル方ナリ
 第三百三十五條ヨリ第三百三十七條マテハ肝要ナリ
 之レハ控訴ノ所ロニアリテモ苦シカラス依テ今日讀ミ切レヌハ控
 訴ノ所ニテ讀ム可シ
 控訴ト云フハ裁判執行ノ中止ト云フヲナリ何トナレハ控訴ニナレ
 ハソノ裁判執行ヲ中止シテ居ルナリ併シ取除ケアリ何トナレハ直
 チニ執行セサル可カラサルヲハ直チニ執行ス之レ取除ケナリ
 控訴ハアレヒ假リニ執行ハシム即チ假リノ執行ナリ
 假リノ執行ハ時ニヨリ替ルヲアレヒ先ツ二ツノ道理アリ
 第一ノコトハソノ訴訟ニ付テ到底裁判ハ替ルヲハアルマシトノ目的
 ノ立チタルトキハ假リニ執行ス
 第二ニハ至急ノコトニ付テハ萬一替ルヲハ有ルモ知ル可カラスト雖

ヒ事柄ノ至急ナルニ付キ先ツ假リニ執行ス
 第一ノ場合ニ於テ大畧替ラストノトキ假リニ執行ヲ命ジ第二ノ場
 合ニ於テ急ニ執行スルト雖ヒ若シソノ裁判ノ後ニ替ルトキハ假リ
 ノ執行ニヨリテ得タルモノヲ返サシメソノ損害ノ償ヲモ出サシム
 之レニ反シ控訴ヲナシタリトモソノ裁判ノ替ラサルトキハ氣ノ毒
 ナリ故ニ假リニ執行セシムルナリ
 第一ノ道理ノ場合ニ於テ大概替ラサルトノ目的アルトキハ證人ヲ
 立テシメス
 第二ノ道理ノ場合ニ於テハ證人ヲ立テシムルト否ラサルトハ裁判
 官ノ見込ミナリ
 之レ義務ニハアラサルナリ
 何ノ爲メニ此ノ如クスルトナルニ不正ノ心ヨリ執行ヲ延ハス爲メ

ニ控訴ヲナスモノアリ徒ラニ歲月ヲ弄ス故ニ此法ヲ立テタルナリ
此條々ハ大意ナリ

第一百三十五條 保證人ヲ立ル_トナク假リニ言渡ノ如ク執行_フハ公正ノ證書及ヒ一方ノ者ノ許認_セタル約束書アル時又ハ既ニ裁判ノ言渡ヲ受ケ之ヲ控訴セサル時之ヲ言渡ス可シ
左件ニ於テハ假ニ言渡ノ如ク執行_フニ付キ保證人ヲ立テ又ハ保證人ヲ立ルニ及ハサル言渡ヲ爲ス_ト自由ナリトス

第一 封印ヲ爲ス事及ヒ之ヲ除ク事又ハ目錄ヲ記スル事

第二 至急ナル家屋ノ補理

第三 土地家屋等ノ借受ノ證書ナキ時又ハ其借受ケノ證書ノ期限ノ終リシ時其借主ヲ其土地又ハ家屋ヨリ退出セシムル事

第四 雙方互ニ相争_フ物件ノ附托ヲ受クル者及ヒ負債者ノ財産

ヲ抵償_カトシテ差押ヘタル時之ヲ預カル者

第五 保證人及ヒ保證人ヲ更ニ保證スル者ヲ承諾スル事

第六 後見人管財人及ヒ其他財産ノ支配人ヲ任スル事及ヒ此等ノ者ヨリ算還ヲ爲サシムル事

第七 養料

證金ヲ出サス_シテ濟ム_ト三ツアリ

〇公正ノ證書〇一方ノ者ノ許認シタル約束書〇裁判言渡ヲ受ケテ控訴セサルトキノ言渡

裁判官ハ下ヨリ願ハサル_トハ決シテ言渡ス_トナシ代書師ノ申立ニ必ラス公正ノ證書アルユヘ此ノ如クシテ被下ト書イテアルナリ
公正ノ證書ニ於テハ裁判ヲ乞ハス_シテ直チニ執行_シテ宜シト雖モ金額等ノ未_タ定メ難キトキハ之レヲ執行證書ニハ書カス_ソノ時ハ

裁判所へ出シ裁判ヲ受ク

又公正ノ證書ナリトモ一方ヨリ偽ハリナリト訴フルコアリ之レハ
裁判官ニテ取調へ裁判ヲナス右ハ控訴ヲナシタリトモ替ラサルモ
ノトナス

一方ノモノ、許認シタルモノニテモ直チニ執行スルコト能ハス裁判
官ニテ執行ヲ言渡ス既ニ許認シタル約束書ナレハ控訴ヲナシタリ
トモ替ラサルモノトス

第三ノ所ロハ少シク分カリニクカラシ

縣裁判所ニテ訴ヲナシテ負ケタリ控訴ヲナサスト雖モ未タ控訴期
限中ナリソノ時一方ノ者ヨリ之ヲ執行ス可シト言フトキ負ケ者ニ
テソノ裁判ノ惡シキト云テ之レヲ執行セスソノ時ハソノ執行書付
ケチ以テ裁判所へ訴フソノキハ裁判所ニテ假リニ執行ハシム

裁判ニ不服ナルトキハ控訴ヲナス可キニ控訴ヲ爲サス裁判書付ケ
ニ對シテ苦情ヲ言フトキノ事ナリ

當然ナラハ控訴ヲナスニ依リ待ツ可シト云フ可キニソノ申命ニ對
シテ苦情ヲ言フトキハ控訴ノ期限ハアル可ケレトモ先ツ假リノ執
行ヲナス可シト裁判官ヨリ言渡スナリ以上三ツノ場合ニ於テハ假
リニ執行ヲナシタル上控訴ヲナシタリモ替ル憂ハナキモノナリ
此條ニ於テハ保證人ナクシテトアリ裁判ノ權ニテ押付ル姿アルナ
リ

急キノ場合ニ於テハ保證人ヲ立テスシテ言渡スコトモアリ又ハ立ツ
ルコトモアルナリ

左ノ件々ハ至急ノ場合ニテ全ク裁判官ノ見込ニテ爲スナリ

左ノ件々ハ本文ノ通りナリ

願ヒ出テタルモノ、身代宜シカラサルトキハ保證人ヲ立テ身代宜シクシテ金ノ差支ナキト思フトキハ立テス件々ハ一々説カストモ分カリ居ルナリ

第三百三十六條 若シ裁判役言渡ノ如ク假ニ執行フ可キヲ言渡サ、ル時ハ其裁判所ニテ後ニ之ヲ言渡スヲ得ス但シ原告人又ハ被告人ハ控訴シテ假リニ之ヲ執行フ可キノ願ヲ爲スヲ得可シ

養料

此條ハ一トダヒ裁判ヲナシタル上ハ加フルヲモ減スルヲモナラサルノ原則ヨリ出ツ

併シ若シ原被告ノモノ控訴ヲナシタル上控訴廳ヨリ假リコソノ執行ヲ言渡スヲ得ルナリ

第三百三十七條 裁判ノ費用ハ負訴訟ノ者償額ニ代ヘ之ヲ出ス可キノ

言渡アル時ト雖ヒ其言渡ノ如ク假ニ之ヲ執行フ可カラス

裁判入費ノヲニ付テハ假リノ執行ハセシメス之レハ至急ノヲコハアラサレハナリ

若シ控訴ノアルトキハソノ濟ムマテハ待タサルヲ得ス

出席裁判言渡シハ之レニテ濟ムナリ後會ハ第八章第四百九條欠席裁判及ヒ故障ノヲコツ、ク可シ

第二十號 明治七年十一月三十日

訴訟ヲ爲ス最中ニ原告人ニテ被告人ノ財産ヲ抜カサントノ憂アルトキハ之レヲ裁判所へ願ヒ差押ユルヲハ出來ヘキヤ

一時ノ差押ハ出來ルナリ

ソノ時ハ原告人ニテ證據金ヲ出スヘキヤ

出スニ及ハス之レハ裁判所ニテ相當ト見込マサレハ之レヲ許サス
且ツ動カサ、ル迄ニテ財産ハ被告人ノ手ニアルナリ
ソノ時ハソノ財産ヲ取調フヘキヤ
之レハ原告人ヨリ裁判長官へ願出タルトキ長官ニテ被告人へ通シ
長官評議席ニテ之レヲ取調ヘ差押ヲナス
ソノ時ハ原告人ト一同ニ取調フヘキヤ
尤モ雙方一同ニ爲ス併シ本人ハ行カス代書人ニテ之レヲ爲ス
ソノ手ツ、キハ法律ニ書イテアリヤ
訴訟法中コソノ綱領ヲ擧ケタリ
第五百五十七條第五百五十八條ヲ見ルヘシ尤モ本文明瞭ナラス法
律ノ申明ヲ以テ補足スルナリ
ソノ一時ノ差押ハソノ財産ヲ賣却スルニアラス萬一之レヲ賣ルト

キハ證據金ヲ出サ、ルヲ得サルヘシ
裁判後ノ取押ハ執行ニ付テノ取押ナリ
一時ノ差押ハ財産ヲ保全スル爲メナリ

第八章 原告又ハ被告ノ一方抗傳シタル儘ニテ裁判ヲ言渡
ス事及ヒ其言渡ニ付キ故障ヲ述フル事

第四百四十九條 若シ被告人代書師ヲ任スルコトナク又ハ其任シタル代
書師吟味ノ爲メ定メタル日ニ出席セサル時ハ被告人ノ抗傳者タルコ
ト言渡ス可シ

原被雙方出席ヲ爲シ被告人ニテ己レノ意ヲ述ヘタル後ニ裁判ヲ爲
スナ

シゴシマンコンタラリユクトアール

雙方出席ノ裁判

之レハ雙方共己レノ意ヲ述ヘ戰ヒタル後ニ裁判スルト云フ意ナリ」
雙方己レノ意ヲ述ヘタル後ニ裁判スルト云ヘハ分明ナリ併シ佛ニ
テ左ハ云ハス即チ雙方戰ヒ争ヒタル後ニ裁判スルト云フナリ
佛國ノ法律語ニ不都合又ハ不當ノ語アリ「ウ^ウシエー」ナトハ甚タ當ラ
サル語ナリ故ニ日本ニテ法律語ヲ定メント欲セハ相當セル語ヲ撰
ムヘシ

「ウ^ウシエー」ハ門ヲ守ルト云フ義ナリ

然ルニ決シテ門ヲ守ルモノニアラス一体「ウ^ウシエー」ハ裁判所ノ門番
ナリ

而後追々肝要ノ職務ヲ掌ルコトナリタリ併シ名ハ舊名ヲ存セシナ
リ
佛ノ各省等ニ必ラス「ウ^ウシエー」ナルモノアリ局々入口ノ番ヲ爲ス之

レハ相當ノ名ナリ

第一ニ相當ノ語ハ雙方争ヒノ終リタル後裁判スルト爲ス方ヨロシ

原語「ジュシマンパールデフホー」欠席裁判ノ語ハ相當ナリ

「ジュシマンパールデフホー」

呼出シテ欠シ

欠席ト云フ事ニテ二ツノ區別アリ

第一ニハ代書人ヲ立テサル事

第二ニハ代書人ヲ立ツルトモ見込書ヲ出タサ、ル事

見込書

第二ノモノハ呼出チ受ケテハ居ルナリ

「コンクリュシヨン」ハ原告人ハ手續書又道理ヲ書キ之レニ仍テケ様々

々ニ被告人ヲ罰シテ被下ト云フ書キ付ケナリ

又被告人ヨリハケ様々々ノ手續道理ナレハ此訴訟ハ御取上ケナク

訴訟入費ハ原告ヨリ差出ス様御達シ被下度ト云書キ付ケナリ
即チ裁判ノ雛形ナリ

此書付ケテ出セハ直ニ裁判ヲナスナリ

タトヘハ被告人ノ出席セシトキ法ニ從ツテ原告ニテ裁判所へ出コ
ソクリュシヨン」ヲ讀ミ上ケルナリソノトキ被告人居ラサルユヘ裁判
官ハ原告人ノ「ソソクリュシヨン」ノ通リニ裁判ヲナス百四十九條ハ六
ケ敷コナシ被告人ニテ代書師ヲ任スルコナリ

又任シタリトモ本日出席セサルトキハ其マ、ニテ裁判ヲナス

デホー
欠ク

原語此ノ如シ仍テ抗傳ト云フヨリハ闕席ト云フ方ヨロシ

代書師ヲ立テス代書師出席セス抗スルノ模様意味アリ併裁判官ノ

言渡シニハ闕席ナリト云フナリ

第百五十條ニ云フ如ク使吏被告人代書師ノ姓名ヲ讀ミ上ケタル上
之レヲ爲ストアレトモ佛ノ裁判所ニテ夫レ等ノ手ツ、キハ爲サス
闕席スレハ直チニ裁判ヲ言渡スナリ

然レモ裁判役ハ云々其證書類ヲ書記局ニ出スヘキ云々アレモ之レ
ヲ爲シタルコトハ絶テ無之

併シナカラ「ソソクリュシヨン」ニ法律ニ違フタル不都合ナルコトアレハ
其違フタル丈ケノ事ナステ、裁判ヲ爲ス譬ヘハ五分六分ノ利足チ
八分九分ニ書キタルトキハ五分トカ六分トカニ定メテ裁判ス
闕席ニニタ通りアリ代書師ヲ立テサルコト代書師ノ出席セサルコ
トナリ

第一ノ代書師ヲ立テサルモノハ時ニヨリ呼出狀ノ達セサルモノア

リ
 第二ノ代書師出席セサルモノハ呼出ヲ受ケテアレントモ書付ケテ出
 スコトヲ欲セサルナリ
 故ニ故障ヲ述フルニ付テハ第一ノ方ニ最モ意ヲ注スヘシ其意ニ注
 スヘキコトヲ説カントス
 此所ハ被告人數人アリ又ハ數人連帶シテ負債主トナリタルトキ一
 人ハ東京中ニ居リ其他ノ人ハ近在ニ居ル各々裁判所ノ距離違フト
 キ東京ニ居ルモノ、出席スヘキ日ニ闕席スルトモ闕席裁判ハ爲サ
 ス近在ニ居ルモノ、出席スヘキ日ニ闕席裁判ヲ爲ス
 一人ハ東京ニアリ一人ハ大坂ニアルトキ一人東京裁判所ヲ撰ミタ
 ルトキハ其一人ノ大坂ニ居ルモノ、東京へ出ルマテ待タサルヲ得
 ス

第五百五十二條ハ入費ノカ、ラサル爲メ裁判言渡書ヲ一枚ニテ濟マ
 ス事ナリ然レトモ若シ數枚ノ言渡書ヲ作りタル時ハ代書師ニテ其費
 用ヲ拂フ可キコトヲ云フナリ
 闕席裁判ヲ被告人數人アリトモ其言渡書ハ一枚ト爲ス規則ナリ萬
 一一人毎ニ言渡書ヲ取ルトキハ之レハ代書師ノ好ミナルヲ以テ其
 一枚ノ外ノ入費ハ取ル事ヲ得ス
 時ニヨリ裁判官ニテ之レハ一枚ニテ宜シカルヘシト云フコトアリ其
 時ニ代書師ハ數枚ヲ乞フコトアリ其時ノコトナリ
 第五百五十三條 被告人二人以上呼出ヲ受ケ其中抗傳ヲ爲ス者ト抗傳
 ヲ爲サ、ル者トアル時ハ其抗傳ヲ爲ス者代書師ヲ任シ又ハ其代書師
 出席ヲ爲スニ至ル迄暫ク其裁判ヲ猶豫ス可キ言渡書ヲ爲シ其言渡書ヲ
 別段任ヲ受ケシ使吏ヨリ抗傳者ニ送達ス可シ但シ其言渡書ニハ後ノ

期日ニ至リ代書師ヲ任ス可キヲ又ハ代書師ノ出席ヲ爲ス可キヲ附記
 ス可シ○其日ニ至リシ時ハ訴訟ノ裁判ヲ爲シテ共ニ一箇ノ言渡書ヲ渡
 ス可シ但シ其時ニ至リ以前ノ抗傳者猶代書師ヲ任セス又ハ代書師ノ
 出席セサル時ハ其抗傳者後ニ其言渡ニ付キ故障ヲ述フルヲ得ス
 被告人二人アリ一人ハ出席シ一人ハ闕席ス一人ハ欠席裁判ヲ受ケ
 一人ハ出席裁判ヲ爲ス其時一人ハ勝チタリ
 一體一人ハ闕席裁判ヲ受ケ一人ハ勝ツトハ之レ全ク無キノ理ナリ
 此不都合ヲ避ル爲メニハ一人ノ出席シタル人ノ訴ヲ聽ク其云フ所
 ロ道理アレハ勝チトナル其一人勝チタル上ハ其闕席シタル人マテ
 モ勝チトナル
 此ノ如一人出席シタル爲メニ闕席人ノ利益トナル
 之ニ反シテ闕席人損ナルヲアリ其出席シタル人ノ負ケタル時ハ闕

席シタル人モ負トナル一人出席シタル上ハ闕席シタル人ニテ故障
 チ云フヲ得サルニ至ルナリ
 此ノ如キ不都合アルユヘニ其時ニ闕席シタル人ハ闕席ノ言渡ヲ受
 ケ一人ノ出席シタル人ハ取調ヲサス更ニ後ノ日ヲ定メテ呼出ス
 其後ノ日ニ至リテ一人闕席スル時ハ闕席裁判ヲ言渡スナリ而シテ
 其人ハ故障ヲ述フルヲ得サルナリ 控訴スルヲ得ル事件ヲ
 譬へハ名村ト池田ト被告人トナリテ玉乃ニ呼出サル
 名村ハ出席シ池田ハ闕席セリ
 其時ハ名村ハ出席スル故裁判ハ爲サス池田ハ闕席ト言渡サレ共ニ
 再ヒ呼出タサル
 再ヒ別段其トニ係ル「ウエシエコンミ」此事ハ後ニアリト云フ使吏
 ニテ呼ヒ出ス 依テ明説セス

其時池田又闕席ヲ爲ス其時ハ名村ハ出席シタルユヘ池田モ共ニ出席裁判ヲ言渡サル依テ一方ハ闕席一方ハ出席ノ裁判トナルノ不都合ナシ

大畧ヲ言ヒタリ猶又大畧ヲ云ハン

委敷書クニ及ハス

被告人兩人アリ一人ハ出席シ一人欠席ス其時ハ闕席セシモノハ闕席ト言渡ス

此條ハ縱令呼出狀ハ達セスシテ闕席スルトモ夫レニハ別ニ關係セスシテ用ユル條ナリ

一體闕席ヲ爲シタル時ハ裁判官ニテ呼出ノ達セサルモノト見做ス然レモ呼出ノ達セストハ書カス再度ニハ別段ニ任シタル使吏ヲ以テ呼出狀ヲ達スルナリ縱令ハ前度ハ名村出席シ池田闕席シ再度ハ

池田出席シ名村闕席スルトモ同斷ナリ

被告人五人アルキハ代書師一人ニ任シテ足ルヘキヤ

能ハス五人アルトキハ一人ツ、任セサルヲ得ス但シ五人ニテ銘々入費ヲ出シ代書師一人ヘ任スルハ苦シカラス

其訴訟狀ハ一通ニテ足ルヘキヤ

同シトナレハ一通ニテモヨシ誰々ハ何廉ノミ違フト書ケハ又一通ニテヨロシ

此原文ハ明瞭ヲ闕ク箕作ノ譯文ハ餘程補ヒタルナリ「ボアソナード」我カ意ヲ以テスル時ハ別ニ書キ方アリ他日書キテ示スヘシ

此條ハ佛國ノ諸生ハ解シ得ス因テ生徒ヲ試験スル條トナスナリ

第一百五十四條 被告人ハ代書師ヲ任シタル上ニテ己レノ答辨書第十七

條見テ出スコトナク其代書師ヲシテ原告人ノ代書師ニ招書ヲ送ラシメ吟

味ノ席ニ出ツ可キヲ求メ其代書師猶ホ出席セサル時ハ被告人原告人ノ抗傳者タル言渡ヲ受クルヲ得可シ

此條モ又解シ難キ所ロアリ

原告人ノ欠席シタルヲ云フナリ

原告人ハ代書師ヲ立テサルノヲ無シ仍テ欠席スルニハ原告人ノ欠

席ハ「コンソリユシヨソ」ヲ出サ、ルヲ云フ

原告人ノ代書師ハ欠席シテ見込書ヲ出サス被告人ハ代書師ヲ立テ

見込書ヲ出ス此場合ニ於テハ原告人ノ願ハ取上ケスト言渡スヲモ

アリ

被告人ハ用事ナシト云ヒテ追還スヲアリ

此二ツノ中一方ニ決セサルヘカラス此二ツヲ若シ追還サル、ノミ

ニテハ被告人ハ何時マテモ引カ、リテ迷惑ヲ爲スナリ仍テ「ボアソ

ナート案スルニ第百五十條ニ循ヒ原告ナリ被告ナリ欠席シタル時

ハ一旦欠席裁判ヲ爲シ後ニ故障ヲ云ヒ立ツル方ヨロシ

被告欠席シタルトキハ欠席裁判トナシ原告欠席シタル時ハ取上ケ

スト爲ス

第百五十條 原文ニハ原告被告ト區別セス雙方ノモノト書イテア

ルナリ

第二十一號 明治七年十
二月五日

第百五十五條 被告人代書師ヲ任シ其代書師出席スト雖ヒ論辨ヲ爲

サ、ルニ因リ其被告人抗傳者トナリタル時ニ爲シタル裁判言渡ハ其

代書師ニ其言渡書ヲ送達シタルヨリ八日ノ期限内ニ之ヲ執行フ可カ

ラス又代書師ヲ任シ其代書師出席セサル時ハ本人又ハ其住所ニ之ヲ

送達シタルヨリ八日ノ期限内ニ之ヲ執行フ可カラス但シ第三百三十五條ニ記シタル如ク至急ノ場合ニ於テ八日ノ期限内ニ其裁判執行ヲ別段言渡シタル時ハ格別ナリトス

又裁判役其裁判執行ヲ遅延スルニ付キ損害アル可シト思量スルニ於テハ保證人ノ有無ヲ問ハス故障ノ申述ニ管スルヲナク假ニ其執行ヲ爲スヲ言渡スヲ得可シ但其言渡ハ裁判言渡書ニ附記ス可シ

此條ハ種々ノヲ述ヘタルモノニテ頗ル混雜セリ一々之レヲ分解セサルヘカラス

欠席裁判ハ故障ヲ述ヘテ裁判取直シノ出來ルモノナリ

尤モ夫々ノ區別アリ

欠席裁判ハ暫時裁判ヲ言渡シタルモノト同シ

欠席裁判ニモセヨ其言渡書ハ一方ヘ送達セサルヘカラス

其送達セサル間ハ故障ヲ述フル期限ヲ生セス

此條ニ區別スル如ク若シ被告人代書師ヲ立テタルトキ始末書ヲ出サスシテ欠席裁判トナリタル言渡書ハ其代書師ヘ送達ス若シ代書師ヲ立テサルトキハ被告人ヘ直チニ送達ス

始末書ヲ出サスシテ欠席裁判トナリタル言渡書ヲ送達シタルヨリ八日ヲ過クシテハ故障ヲ述ルヲ得ス

其八日ヲ過キサル間ハ一時執行ヲ停止ス其八日ヲ過キタル後ニ執行ヲ始ム

若シ代書師ヲ立ツルトモ始末書ヲ出スヲ怠タリタル爲メニ闕席裁判トナリタル時ハ八日ノ期限内ニ故障ヲ述ヘサル可カラス其期限ヲ過クシテハ其訴訟ヲ取り上ケス

其八日ノ間ハ被告人ヨリ故障ヲ述フルヲ得ルト雖モ其間ハ原告人

ニテ執行スルヲ得ス

第一百五十七條見合

其八日ノ期期ヲ生スルハ裁判言渡シノ日ヨリ生スルニ非ス原告人ヨリ被告人へ送達シタル日ヨリ算出スルナリ

言渡書ヲ送達スルハ始終後レ勝チナリ何トナレハ繁忙ノ裁判所ハ本文并寫シ等ヲ作ルニ早速ニハ出來難シ多クハ十日位ヲ費ヤスナリ之ヲ送ルハ使吏ナリ

八日ト云フト雖モ其實ハ滿八日ナル故即チ十日トナルナリ

代書師原告人ト相談シテ之ヲ送達セヨト云ハサル間ハ使吏ハ之ヲ送達スルヲ得ス

其言渡書ハ書記官ヨリ代書師之ヲ受取リテ使吏ニ渡スナリ
 ヲトハ原告人ニテ湯治ニ行カント欲スルトキ欠席裁判ヲ言渡シ

アリ其時直チニ之ヲ被告人へ送達スル時ハ其故障ニ付テ爭ハ他行留守中ニ始マル譯ナリ其場合ニ於テハ原告人ニテ湯治ヨリ歸リタル後之ヲ送達セヨト言フコアリ

又代言人ニテ此節甚ク多忙ナリ仍テハ君ノ爲メニ大ニ盡力スルヲ得ス遺憾ナリ仍テ一ヶ月ヲモ過キタル後ニ之ヲ送達スト云フコモアリ

代書師ヲ立テスニ欠席裁判トナリタル分ハ違フナリ之ハ六ヶ月中ニ執行ヲ爲サ、ル可カラス何トナレハ被告人ニテ一切知ラスニ居ルモ亦知ルヘカラス其六ヶ月期限ノ算出ハ其裁判言渡ノ日ヨリ生スル代書師ヲ立テタル分ハ何時マテ之ヲ猶豫スルヲ得ヘキヤ

三十ヶ年間ハ苦シカラス

代書師ヲ立テ、見込書ヲ出サ、ルコトニ付再ヒ説カン

原告人ニテ言渡書送達ヲ永々延引スルニ於テハ被告人甚ク迷惑ヲ蒙ルルナリ其時ハ被告人ヨリ故障ヲ述フルナリ

一方ハ三十年一方ハ六ヶ月ト相違スルハ人民ノ爲メニ便益アルヲナラン之ハ何レノ譯ナリヤ

第一百五十六條ヲ説ケハ分明ナリ

假リニ裁判ヲ行フコト一寸置キテ第一百五十六條ヲ説カントス

第一百五十六條 被告人代書師ヲ任セサル時ノ裁判言渡書ハ裁判所ヨリ任シタル使吏又ハ裁判所ヨリ特ニ定メタル被告人住所ノ裁判役一人ノ任セシ使吏之ヲ送達ス可シ又原告人ハ其言渡書ヲ得タル日ヨリ六月内ニ其言渡ノ如ク執行フ可ク若シ然ラサル時ハ其言渡書ヲ得タルコトナシト看做ス可シ

始末書ヲ出サスシテ欠席裁判トナリタル時又代書師ヲ立テスシテ

欠席裁判トナリタル時此二ツノ間ニ三ツノ大切ナルコトアリ即チ此條之レナリ

之ハ被告人ヲ保護スルヨリ起ルナリ被告人ニテ代書師ヲ立テサルハ即チ呼出狀ヲ知ラサルト看做スナリ

始末書ヲ出サ、ルハ呼出狀ヲ知ルニ相違ナシ

仍テ何レニ便益アリヤト云フ時ハ呼出狀ヲ知ラサル方ニ多クアルヘシ

第一ニ

呼出狀送達ノ方法

代書師ヲ立テス欠席裁判トナリタル時ハ此條ニ云フ如ク裁判所ヨリ別段ニ使吏ヲ命シテ送達ヲ爲ス

其使吏ハ裁判所ニ居リテ裁判所中ノ事ヲ熟知セルモノナリ其中ニ

リ選ミテ之ニ命ス
 一ケ年裁判所へ出テ勤ムルヲニ定マリアルナリ又ハ其頭ヨリ即チ
 頭ヲ選ムヲモアリ
 特ニ之ニ命スレハ被告人ハ再ヒ間違ナリ儘ニ之ヲ達スル爲メナリ」
 第二
 第一百五十八條ニアリ之ヲ讀ム
 始末書ヲ出サスシテ欠席裁判トナリタル時ハ八日内ニ非サレハ故
 障ヲ述フルヲ許サス
 代書師ヲ任セスシテ欠席裁判トナリタル時ハ執行ニ至ルマテハ故
 障ヲ述フルヲ許スナリ
 此二ツノ相違スル道理ハ代書師ヲ立テサ
 ル方ニ付テ云フ裁判ヲ言渡シタルマテノ
 ミニ非ラス

執行中財産ヲ賣却中ト雖モ故障ヲ述フルヲ苦シカラス
 第三
 一般ノ法ニヨレハ三十年ハ期滿得免ノ期限ナリ代書師ヲ任シテ欠
 席トナリタル言渡書ハ原告人ニテ三十年之ヲ握リテ送達セストモ
 苦シカラス
 代書師ヲ立テス欠席スルモノヲ三十年ノ期限ト定テ其三十年目ニ
 故障ヲ述フルノ道理アリト雖モ證書並證人モ或ハ無ク實際ノ證ヲ
 立テ得サルヲモアルヘキナリ
 其時ニ至リテ受取證書等ヲ失ヒ被告人ノ迷惑トナルヲ多シ
 仍テ法律上ニテ六ヶ月間ト定ムルナリ六ヶ月間ナレハ衆證モ存在
 シテ被告人ニテ辨解スルヲ得ルナリ
 但三十年ハ被告人ニテ之ヲ拒クノ權アリトスルノミ

以上三ツノ違ヒアルナリ

再ヒ云フ

第一ハ別段ノ使吏ヲ命ジテ言渡書ヲ送達スルコト
 第二ハ八日ノ期限ノ後ト雖モ故障ヲ述フルコトヲ得ルコト
 第三ハ代書師ヲ立テサルモノハ裁判執行マテハ故障ヲ述フルコトヲ得ルコト

一方ハ三十年マテモ送達セストモ苦シカラス
 一方ハ六ヶ月間ニ送達セサレハ言渡ノ効ナシ

代書師ヲ立テサル方ヲ注意シテ保護スル者ハ其呼出ノ達セサルモノナリト看做スユヘナリ順序ニヨリテ次條ヲ説カサルヲ得ス
 第二百五十九條 代書師ヲ任セサル被告人ノ動産ヲ抵償トシテ差押ヘ之ヲ賣拂ヒ又ハ其被告人ヲ禁錮シ又ハ以前ヨリノ禁錮セラレタルヲ更

ニ改メテ禁錮シ又ハ其不動産ノ一箇又ハ數箇ヲ抵償トシテ差押ルコト
 ナ被告人ニ報知シ又ハ被告人自カラ裁判ノ費用ヲ拂ヒ又ハ被告人裁判ノ執行ヲ了知シタルコトノ分明ナル所爲ヲナシタル時ハ其裁判言渡ヲ既ニ執行フタルト看做ス可シ然レ前數條ニ記シタル定記内ニ後數條ニ記スル法式ニ循ヒ其裁判言渡ノ故障ヲ述フル時ハ其執行ヲ止ム可シ但シ故障ヲ申述フルニ管セス假ニ其裁判言渡ノ如ク執行フ可キコトヲ言渡シタル時ハ格別ナリトス

此條ノ大意ヲ云ハシ

代書師ヲ立テスレテ欠席裁判トナリタル時ハ其執行中ハ故障ヲ述フルコトヲ許スト雖モ其述フルコトヲ得サルハ何レノ時ヨリ始マルト云フコトヲ説キタルモノナリ
 裁判執行ノ終リタル期限ハ

被告人ノ動産ヲ抵償トシテ取押ヘタルノミニテハ執行ノ濟ミタルモノニ非ス之ヲ賣拂ヒタル時ハ濟ミタリトナス但其代價ヲ受取ラストモ同シ苦シカラス

何トナレハ自己ノ財産ヲ人ニ取ラレテ賣ラル、コトヲ知ラサルノ理ナシ然ルニ賣拂ヒタリトモ黙スルハ自己モ承諾スルト看做スナリレ禁錮云々ハ佛國ニテ之ヲ用ヒタルトキ立テタル法ナレハナリ今ハ之ヲ廢止セリ

之ハ原告人ニテ被告人ヲ禁錮セシムルマテ黙スルノ理ナシ仍テ之ヲ承諾セシト看做ナリ

或ハ被告人他ノ負債ノ爲メニ禁錮セラレタル時一人ノ原告人獄ノ書記局ヘ行キ其被告人ヲ呼ヒ書記役ニ云フテ曰即今ノ禁錮ノ終リタル時直ニ此人ヲ獄ヨリ出スヘカラスト云フ其時被告人ニテ原

告人ノ面前ニテ故障ヲ述ヘサルヘカラス

不動産ハ之ヲ賣却スルヲ待ツニ及ハス使吏ニテ之ヲ差押タリト云ヒタル時故障ヲ述ヘサルヘカラス

或ハ自カラ裁判入費ヲ拂ヒタル時

又何事ニ關セス被告人ニテ裁判ノ執行ヲ了知シタルコトノ分明ナル所爲ヲナシタルトキ

此末段ハ大体ヲ説キタルモノナリ

故ニ例ヲ舉サレハ了解スルコト難カラシ

名村負ケ被告人ナリ以上ノ四件ハ自己ノ爲メニナシタルコトナリ然ルニ名村ヨリ玉乃へ貸金アリ原告人ノ小田切ヨリ玉乃ニ云ツテ曰君名村ヨリ借金アリ之ヲ名村へ拂フベカラスト之ヲ取押ヘ其旨ヲ名村へ通知ス其時名村ニ於テ故障ヲ述ヘサル可カラス

以上ニ舉ケタル期限ヲ過クレハ故障ヲ述フルヲ得ス

若シ故障ヲ述ヘタル時ハ其執行ヲ止ムヘキナリ

筭譯ノ前數條云々定記内ハヨロシカラス故ニ朱ヲ以テ抹ス

「ボアソナード」曰筭譯ノ惡キニ非ラス「コート」ノヨロシカラサルナリ」

「ボアソナード」曰上ニ述ヘタル執行ノ未ク終ラサル以前トナス方ヨ
ロシ

此末段ヨリ遙カニ第百五十五條ノ後項ニ應ス欠席裁判トナリタル
者ヲ假リニ執行ヲ命スルヲアリ之ハ至急ノ事件ニ非ラサレハ爲サ
ス

第百五十五條前項ノ但書ヲ見ル可シ

此但書ヲ文面ニ關セス説カン之ヲ聞テ而シテ後ニ文面ヲ讀ム可シ」
裁判執行ヲ中止スルハ二ノ場合アリ一ツニハ八日内ニハ故障ヲ述

ヘサルト雖モ執行スルヲ得ス之一ツナリ

若シ相當ノ期限内ニ故障ヲ述フル時ハ執行スルヲ得ス之二ツナ
リ

此時ニ當ツテ至急ノ場合ニハ執行ヲナスヲ得サルノ期限ト雖モ之
ヲ執行スルヲ命ス

タトヒ至急ノ場合ト云フトモ第百三十五條ニ記シタル場合ニ非サ
レハ之ヲ爲スヲ得ス

裁判官ニテ至急ノ場合ト思フ時ハ執行ヲ言渡ス併シ至急ノヲニテ
モ八日ノ内ニ故障ヲ述フル時ハ之ヲ執行スルヲ得ス

至急ノ場合ヨリ又更ニ一層至急ノ場合アリ之ヲ大至急ト云フヘシ
之ヲ猶豫スルトキ損害ノ起ルヲナリ其時ハ故障ヲ述ヘタリモ之ヲ
執行スルナリ

前項ノ但シ書ハ故障ヲ述フレハ之ヲ中止スト雖モ後項ノ方ハタト
 ヒ故障ヲ述ヘタリトモ執行ス尤モ故障ヲ述フレハ後ニ取直シノ出
 來サルコトハナケレトモ先ツ執行セシムルコトナリ
 至急ノ場合ノ例ヲ舉ケン

第一ノ至急ハ

縦令ハ家ヲ借リタルニ風雨ノ爲メニ家ノ破損アリ家主之ヲ修復セ
 ス仍テ之ヲ訴タリ其時裁判官ニテ八日内ニ執行セシムルナリ
 前項ノ分ニハ故障云々ト書イテ無之故ニ故障ヲ述フレハ其執行ヲ
 中止ス

又タトヘハ前文ノ場合ニ於テ屋根ヲ總テ吹飛ハシテ身ヲ容ル所ロ
 ナシ其時ハ故障ヲ述フルト雖モ之ヲ執行セシム之レ大至急ナリ又縦
 令ハ家ヲ建テ掛ケテアル時大工ニ命シテ材木ヲ運ハシム其遷延ス

ル爲メニ家ヲ建ツルコトヲ得ス其時ハ至急ナリトス
 然ルニ其材木ナケレハ既ニ建テタル家マテモ壞ル、コトナリ之レ大
 至急ナリ

又大工ニテ家ヲ建ルニ家ハ既ニ建タルニ屋根葺來ラス仍テ既ニ建
 タル家モ朽腐スルコトアリ之レ大至急ナリ

又大工ニ命シテ家ヲ一軒建テシメタリ然ルニ其家ハ更ニ建添ヘキ
 モノアリ大工之ヲ建テ添ヘス之至急ナリ併シ屋根ヲ葺カサル如キ
 モノニアラス尋常ノ至急ナリ尋常ノ至急ノ時ニハ八日ノ期限内ト
 雖モ執行セシム其執行中ニ故障ヲ述フルモノアレハ之ヲ中止ス併
 シ其損害ノ他ニ及フト思量スルトキハ大至急トナシテ假リニ執行
 セシム

裁判官ノ見込ニテ被告人ノ勝チトナルト思フ時ハ保證人ヲ立テ

メテ假リニ執行ヲ命スルコアリ
 仍テ第三百三十五條ニ照合シテ見ルトキハ分明ナリ
 第三百三十五條ノ記スル所ニアラサレハ至急トハ爲サ、ルナリ
 第三百三十五條ニ七箇ノ目ヲ立テ、アリ其七目外ニ三箇アリ合セテ
 十箇トナスナリ
 此至急ト大至急トノ分界ハ佛人ニ於テモ甚タ誤リヤスシ書キ直サ
 、レハヨロシカラス
 第一百五十六條以下ハ故障ヲ述フル法式ナリ
 第一百五十五條ヨリ第五百五十九條マテハ肝要ナルコナリ注意スヘシ
 前ニ説キタル三十年期限ハ何ノ法ニ基クヤ
 貸借ノ一般期限ヨリ生ス
 法律ニ於テ其期限ノ年月ヲ記セサルモノハ總テ三十年ト心得ヘシ

如何ナル小區ニテモ代書師ナキ地ハナシ代言人無キ所ハアリ此ノ
 如キモノハ代書師ニテ代言人ヲ兼ルコモアリ
 假リニ裁判言渡ノ方ハ成リ丈ケ早ク故障ヲ述タトヒ執行ハ中止セ
 ストモ速ニ述フヘシ時ニヨリテハ執行中ト雖モ裁判ヲ取直スコ
 リ此假リ執行ヲ取直スハ何ニ依ルトナレハ即チ裁判取直シニ依リ
 テ替ルナリ故ニ成リ丈ケ早ク述ヘサルヘカラス

第二十二號 明治七年十
 二月十日

第六十條 被告人ノ代書師出席セス出席スト雖モ論辨ヲ爲サス
 テ被告人闕席トナリ裁判言渡ヲ受ケタル時ハ其代書師ヨリ相手方ノ
 代書師ニ裁判所ヘノ願書ヲ送達シテ其故障ヲ述フ可シ
 故障ヲ述フルニハ必ラス書付ヲ出サ、ルヲ得ス之レヲ訴ト云フン

ノレケート」ニ二種アリ
 箕譯願書即チ願書ニテヨロシ
 裁判所へ願フトキハ訴トナル
 第一ニハ裁判長官へ直チニ出スモノナリ第二ニハ別ナルモノアリ
 其直チニ出スレケート」ハ至急裁判ヲ乞フトキ出席ノ期限ヲ延スト
 キ式日等ニ呼出狀ヲ送達スルトキノ三ツナリ
 今説カントスル所ロノ「レケート」ハ第二ノ別ナルモノナリ
 同シク「レケート」ト云フト雖モ之レハ裁判長官へ直チニ出スモノニ
 アラス
 此レケート」ハ一方ノ代書師ヨリ一方ノ代書師へ送ルモノナリ之レ
 チ扱フモノハ使吏ナリ其使吏ハ裁判所ノ訟庭ノイテ取扱フ使吏ナ
 リ之レチ代書師ヨリ代書師へ送達スル所ロノ「レケート」ト云フ
 此時ハ必ラス代書師ノアルトキノ「レケート」ニテ即チ始末書ヲ出サ、ルト

キニ限ルナリ 代書人ヲ任シタリトモ
 箕譯出席セス云々ノ「ア」レモ原文ニハ之レナシ
 其レケート」チ原告人ノ代書師ヨリ被告人ノ代書師へ送り缺席裁判
 トナリタル「ア」チ知ラセタル時被告人ノ代書師ヨリ故障ヲ述フル書
 付チ原告人ノ代書師へ送達スルナリ
 其レケート」ノ宛所ロハ裁判所宛ナリ
 此レケート」チ送リタルトキ雙方ノ熟議トナルトキハ夫レニテ濟ム
 萬一一方ノモノニテ不承諾ナルトキハ裁判所へ出テ帳簿へ書キ入
 レ本日ニ至リ裁判所ニテ争ヲ爲スナリ
 故障ヲ述フルニ於テハ裁判所ニテ之レチ聽カサルチ得ス故ニ裁判
 所へ豫シメ願ハス先ツ一方ノモノへ見スルナリ之レ古來ノ習慣ナ
 リ

故障ヲ述フルハ裁判言渡書ヲ勝^テ訴^テ即チ原告人ノ代書師ヨリ被告
人ノ代書師へ送達シタル日ヨリ八日ノ期限ノ内ニナス可シ答辨書
ヲ送ルハ十五日ナリイツレモ之レヲ「レケート」ト云フナリ
之レモ直ニ裁判長官ニ差出スニアラス代書師ヨリ代書師へ送ルナ
リ

第六十一條 其願書ニハ裁判言渡ニ付キ故障ヲ述フル憑據ヲ記ス

可シ但シ其裁判言渡ノ前既ニ被告人ノ答辨書ヲ故障ヲ述フル憑據ト
シテ用ヒントスルコトヲ記スルノミニテ足レリトス

此法式ニ背キタル故障申述ノ書ハ裁判ノ執行ヲ止ムルコトヲ得ス且原
告人ノ代書師ハ被告人ノ代書師ニ答書ヲ送ルノミニテ其他訴訟ノ手
續ナク其故障申述ノ書ヲ卻還スルコトヲ得可シ

此條ハ故障ヲ述フルトキノ文章ハケ様ノ譯ヲ以テ故障ヲ述ルト云

フコトヲ書クコトヲ説キタルモノナリ

故障ヲ述ル「レケート」ニハ其故ヲ書記セサルヲ得ス

併シ既ニ答辨書ニテ其事故ヲ委シク書イテ送リタル上ニハ「レケー
ト」ニ其故ヲ委シク記スルニ及ハストス

此法律ニ記載シタル如クニ書カス又前ニ答辨書ヲモ出サス總テ法
律ニ違ヒタル「レケート」ハ其効ナシトス
其時ハ裁判所ニテ此「レケート」ハ式ニ違フモノナルユヘ取上ルコト
得スト言渡スナリ

其時ニハ夫レ切リニテ濟ム

「ホアソナード」曰之レニテ差支モ面倒モナキコトナレ此法律ハ嚴酷
ナリトス

式ニ違フタル「レケート」ヲ出シタルトキハ何事ヲモ取調フルコトナク

一通ノ言渡シ書キテ出スノミ
 笑譯誤アリ且云々以下ニ刪改ス
 故障ヲ述フル書付ハ裁判官ニアラサレハ之レヲ却還スルヲ得サ
 ルナリ

縦令ハ被告人ノ代書師ヨリ原告人ノ代書師ハ故障ヲ述フルレケ
 トヲ送リタルニ其書ノ式ニ違ヒタル時ハ之レハ其効ナシト云ヒテ
 之レヲ還シ夫ヨリ原告人ノ代書師ハ裁判所へ出テ被告人ノ代書師
 ヨリ故障ヲ述ヘタルニ其レケイトハ式ニ合ハサルヲ以テ還シタリ
 依テ被告人ノ代書師へ其故障ヲ述フルレケイトハ用ヲ爲サ、ルノ
 言渡ヲ願フト云フ其時裁判所ニテ原告被告代書師へ別段取調ノ手
 續ナクシテツノ効ナキノ言渡ヲナスナリ
 其レケイトヲ其被告人ニ還ストキ何月何日ニ裁判所へ共ニ出ント

言ヒ送ルナリ

其裁判所ニ出テタル時ハ原告ノ代書師ハ被告人ノレケイトヲ讀ミ
 上ケルナリ

其時ハ裁判官ハ原被雙方ノレケイトヲ讀ムヲ聽カサルヘカラス萬
 一被告人ノ故障ヲ述ルレケイトハ式ニ違ハサルトキ原告人ノレケ
 イト違ヒタルト爲シテ其レケイトヲ効ナシト言渡ス

被告人ノレケイトノ式ニ違ヒタルトキノ裁判費用ハ被告人之レヲ
 拂ハス被告人ノ代書師之レヲ拂フナリ
 之レマテハ代書師ノアルトキノヲナリ

第六十二條 被告人代書師ヲ任セスシテ闕席トナリ裁判言渡ヲ受
 ケタル時ハ裁判所ノ手續ヲ經サル書ヲ以テ故障ヲ述ヘ又ハ負債ヲ拂
 フ可キ要決ノ書財産ノ抵償又ハ禁錮ノ調書又ハ其他總テ裁判執行ヲ

命スル書ニ故障ノ旨趣ヲ附記シテ其故障ヲ述フルコトヲ得可シ但シ故障ヲ述フル者ハ其後八日内ニ必ス代書師ヲ任シ其代書師ヲシテ故障ヲ述フル願書ヲ更ニ出サシム可ク若シ其八日ノ期限ヲ過シタル後ハ故障ヲ述フルコトヲ許サス原告人別ニ裁判執行ノ命ヲ得スシテ其執行ヲ繼キ爲ス可シ

被告人代書師ヲ任セスシテ闕席トナリ裁判言渡ヲ受ケタル時原告人ノ代書師死去シ又ハ其職務ヲ行フコトヲ止メタルニ於テハ原告人ヨリ更ニ代書師ヲ任シタルコトヲ被告人ニ報知ス可シ但シ被告人ハ其送達ヲ得タル時ヨリ八日ノ期限内ニ代書師ヲ任シ其代書師ヲシテ故障ヲ述フル願書ヲ更ニ出サシム可シ

何レノ場合ニ於テモ被告人ノ代書師ヨリ裁判言渡ニ付キ一度故障ヲ述フルノ願書ヲ送達シタル後更ニ出シタル故障申述ノ憑據ヲ記スル

書ハ其費用ヲ裁判費用中ニ加フ可カラス

此條ハ代書師ヲ立テスシテ欠席トナリタルトキノコトナリ
ソノ時ハ被告人ヲ惠ムノ法ヲ立テ成リ丈ケ酷ナラスシテ簡易ニ故障ノ出來ル様ニナシタルモノナリ

被告人代書師ヲ立テスシテ欠席裁判トナリ原告人ヨリ裁判言渡書ヲ送達サレタル時ハ即チ代書師ヲ立テ何某ヲ代書師ニ立テタリト原告人へ言送ルナリ

其文格ハ「レケート」ニハアラス箕譯ニ裁判所ノ手續ヲ經サル書トハ相對ノ書付ケニテ裁判所宛ノ書付ケニアラサルヲ云フナリ

例へハ呼出狀ハ後ニハ裁判所へハ出ツルナレモ其呼出狀ハ裁判所宛ノ書付ニ非ラサルモノ故即チ裁判所ヲ經サル書付ケト云フ

エキスダラ、シユンシエール
裁判所ヲ經サル書付

此條原文ヨロシカラス

裁判所ヲ經サル書付ケト云フハ負債ヲ拂フ可キ命令ノ書財產差押
ノ書等皆ナ裁判所ヲ經サルモノナリ故ニ別段ノ書付ケト云ヒテ足
レリ

負債ヲ拂フヘキノ命令ノ書トハ裁判執行ノ書付ケニテ使吏ノ書ク
モノナリ裁判所ヲ經タルモノニアラサルナリ

之レヲ送達シタル時故障申述ヘント欲スルモノハ其旨ヲ其書ニ附
記シテ足レリトス

元ヨリ裁判所コテ言渡シヲナシタル上ハソレニテ裁判所ノ役ハ濟
ムナリ其言渡シノ通りニスルヤセサルヤハ關セス

「コンマントマン」冥作要決ト譯

此ノ如ク行ヘト云フ命令ノ書

負債ヲ拂フヘキ云々ノ書ハ使吏ニテ裁判言渡書キノ寫シヲ作リ此
ノ如ク言渡サレタルニヨリケ様々々ニ執行スヘシト使吏ヨリ命令
スルモノナリ

裁判官ニテハ裁判言渡ヲ爲スノミ其後使吏コテ原告人ノ頼ミヲ受
ケ裁判言渡書ヲ寫シ此言渡書キノヨリ誰ヘ何々ヲ渡セ或ハ何程ノ
金ヲ拂ヘト云フヲ我レヨリ命スルト書キテ被告人ヘ送ルナリ
執行ノ手續ヲ説カントス

欠席ナリ出席ナリ其裁判ヲ言渡セハ裁判官ハソレニテ濟ムナリ
日本ニテハ裁判官ニテ其濟マテモ世話ヲスル心ナル可ケレヒソレ
ハ暫ク捨テ、聞ク可シ

サテ裁判言渡書ハ勝訴訟ノ者ヘ渡ス之レハ勝訴訟ノ證據ナリ
出席ナレハ雙方ノ手數ノ濟ミタル上ニテ一方ノ勝者ヘ言渡書ヲ渡

スナリ

其後ノ手續キハ

裁判ヲ執行スルコトハ直チニスルコト能ハス

使吏ニテ其言渡書ノ寫ヲ作り負訴訟ノ者ニ送ル

其時ニ此命令書ヲ送ラント欲スレハ直チニ送ルコトモアリ

裁判言渡書ヲ送り直チニ執行セシメントスルトキハ使吏ニテ裁判

言渡書ノ下ニ此ノ如ク執行セヨト書キ送ル

其時ハ二十四時間ニ執行セサルヲ得ス若シ急ニセサル時ハ先ツ言渡書ノミチ送ル而シテ後ニ命令書ヲ送ル

命令書ヲ送りタル後二十四時ノ間ニ執行セサル時ハ使吏ニテ負訴訟ヘ行キ財産ヲ取押ユルナリ

其時ニ自カラ行キ物品ヲ持テ歸ル等ノコトハ決シテ爲サス

其命令書ヲ送りタルに其執行ヲ爲サ、ルニ付キ何々ヲ取押ユル
ノ書付チ物品ノ番人又ハ本人ニ渡ス

其調書ノ下タヘ何月何日ニ之レヲ糶賣スルト書ク

其糶賣ハ公ケノ糶賣ニテ其宅ニテ賣リ又ハ之レヲ爲ス可キ所へ出シテ賣ルナリ

其時ハ夫婦ノ臥床并ニ衣服渡世ノ書類其他職業道具等三百フラン
ク_レ天ケノモノヲ引除クナリ

其前ヨリ身ニ着シタル衣服ハ何程ノ美ナルモノナリトモ又ハ指輪
金鏢等モ總テ取ルコト得ス

縦令何程多ク着スルトモ之レヲ取ルコト得ス

萬一美服ナラハ脱カセヨトノ法律アレハ使吏鹿服ヲ着セテ美服ヲ
脱カスル等ノ弊アルヲ以テ其法ナシ

不動産アレハ之レヲ押ユルトモ苦シカラズ併シ之レヲ賣ルハ三十日間ヲ經サレハ能ハス
 禁錮ハ其人ヲ入獄セシムルコトナリ
 執行ノ書付ケハ三ツトナル
 第一動産ヲ取押ユル
 第二不動産ヲ取押ユル
 第三人ヲ取押ユル
 其書付ケハ何ノ故ヲ以テ動産ヲ取押ヘ何ノ故ヲ以テ不動産ヲ取押ヘ何ノ故ヲ以テ其者ヲ取押ユルト書付ケヲ送ル
 若シ控訴ノ出來ルコトナレハ其期限中ハ其執行ヲ中止スルナリ
 其執行中ニ物ヲ以テ拒ク時ハ邏卒其他公兵ヲ連レテ行クコト得ル
 控訴又ハ故障ヲ爲ス時ハ其間ハ執行ヲ中止スルナリ併シ亂暴ヲ以

テ其命令ノ如ク爲サ、ル時ハ邏卒等ノ助ケヲ得テ行フナリ
 「グロス」ト云フ書付ケアリ其書付ケニ佛國人民ノ命ニ依テ此ノ如ク言渡ス萬一此命令ノ如ク執行セサル時ハ邏卒兵隊ヲ以テ此書付ケノ如ク行ハシムト書イテアルナリ
 此書付ケナケレハ何ノ用ヲナサス
 之レハ裁判所ヨリ必ラス渡スコトナリ
 裁判言渡ノ本書ハ裁判所ニ殘ルナリ其寫シヲ勝訴訟ノ者ニテ之レヲモロフナリ其字面ヲ大字ニ書キタルモノナル故「グロス」ト云フナリ
 使吏ハ其書付ケヲ懷中シテ行クナリ併シ見セハセサルナリ
 此「グロス」ハ裁判所ヨリ云ヘハ寫シナレトモ勝訴訟ノ者ヨリ云ヘハ本書ナリ使吏ヨリ負訴訟ノ者ヘ送達スルモノハ又其寫シナリ

此「グロス」ヲ書記官ニテ渡ス故其手数料ヲ書記官へ出スナリ
 此「グロス」中ニ選卒兵隊ノ手ヲ借ルヲ書イテアル故萬一拒クモノ
 アルトキハ其力ヲ借ル即チ此「クロス」アルヲ以テナリ
 此次會ニ故障ヲ述フル手續キテ説カントス

第二十三號 明治七年十
 二月十五日

第五百五十六條ニモトル

第五百五十六條ニ代書人ヲ立テスシテ欠席裁判トナリタルトキハソ
 ノ裁判言渡書ヲ別段選ミタル使吏ニ持タセテ遣ルト書テアルナリ」
 然ルニ此ノ如クニ取扱フヲ得サル場合アリ
 被告人ノ住所ソノ裁判所ノ管轄内ニアラサルコトマ、アリ物件ノ
 ニ付テハ多クアルコトナリ

タトヘハ原告東京人ニテ被告大坂人ナルトキハ東京裁判所ヨリ大
 坂裁判所へ托シ遣リ大坂裁判所ヨリ別段使吏ヲ命ジテ送達ス
 被告人數人アルトキハ猶爲スヘカラス之レ等ハ總テソノ管轄ノ裁
 判所へ托シテソレ々ニ使吏ヲ命スルナリ

遺物分配ノコトニ付テハソノ死シタル人ノ地方ニテナスユヘソノ分
 配ヲ受クルモノハ各地ニ散在スルモノ多シ總テ前ノ手ツ、キチ以
 テスルナリ

右ハ過日説クヘキ所ロナレモ忘レタルユヘ今日説キ添ヘタリ

第六十二條 被告人代書師ヲ任セスシテ欠席トナリ裁判言渡ヲ受
 ケタルハ裁判所ノ手續ヲ經サル書ヲ以テ故障ヲ述ヘ又ハ負債ヲ拂
 フ可キ要決ノ書財産ノ抵償又ハ禁錮ノ調書又ハ其他總テ裁判執行ヲ
 命スル書ニ故障ノ旨趣ヲ附記シテ其故障ヲ述フルコトヲ得可シ但シ故

障ヲ述フル者ハ其後八日內ニ必ス代書師ヲ任シ其代書師ヲシテ故障
 ナ述フル願書ヲ更ニ出サシムヘク若シ其八日ノ期限ヲ過シタル後ハ
 故障ヲ述フルコトヲ許サス原告人別ニ裁判執行ノ命ヲ得スシテ其執行
 ナ繼キ爲ス可シ
 被告人代書師ヲ任セスシテ欠席トナリ裁判言渡ヲ受ケタルキ原告人
 ノ代書師死去シ又ハ其職務ヲ行フコトヲ止メタルニ於テハ原告人ヨリ
 更ニ代書師ヲ任シタルコトヲ被告人ニ報知スヘシ但シ被告人ハ其送達
 ナ得タル時ヨリ八日ノ期限內ニ代書師ヲ任シ其代書師ヲシテ故障ヲ
 述フル願書ヲ更ニ出サシムヘシ
 何レノ場合ニ於テモ被告人ノ代書師ヨリ裁判言渡ニ付キ一度故障ヲ
 述フルノ願書ヲ相達シタル後更ニ出シタル故障申述フル憑據ヲ記ス
 ル書ハ其費用ヲ裁判費用中ニ加フ可カラス

訴訟人出席シテ裁判トナリタルキハ裁判言渡ト使吏ノ命令書トヲ
 送達シソノ負債ヲ拂ハサルトキハ財産取押ヲナシ而シテ公ケノ糶
 賣ヲ爲シ取ルヘキモノ之ヲ取ル不動産ハ少シ手ツ、キアレヒ則チ
 前ニ同シ之レニテ裁判執行ハ濟ムナリ
 欠席裁判ノ執行ハ如何スルヤトナレハ則チ出席裁判ト同シ併シ故
 障ヲ述フルナリ
 ソノ故障ヲ述フルハ過日説キタル如ク裁判執行ノ終ハルマテハ宜
 シ
 第百五十八條ト百五十九條ノ法律ニ云フ所ロハ欠席裁判ヲ言渡シ
 タリヒ猶被告人ニテ知ラサルヲ恐ル依テ裁判執行ノ終ルマテハ故
 障ヲ述フルコト苦シカラスト爲スナリ
 ソノ故障ヲ述フルニハ裁判言渡書ト使吏ノ命令書トヲ送リタルト

キ故障ヲ述ヘ又ハ財産取押ヘノ書付ニ對シ故障ヲ述フヘシ
 ソノ故障ヲ述フル方法ハ此裁判ニ付故障アリト書ク
 使吏ノ命令書ニモ本書ト寫シトアリ必ラス其二通トモニ故障ヲ書
 キ入ルヘシ
 萬一命令書ヲ送リタルトキ被告人ノ居ラサルコトアルヘシソノトキ
 ハ被告人ニテ財産取調ニ來ル時故障ヲ述フ
 或ハ禁錮セラル、キナラハソノ時ニ述フ
 或ハ糶賣ヲ爲ス爲メニ財産ヲ運ヒニ來ルキニ述フ
 或ハ糶賣ヲ爲シテ居ルトキニ之レヲ述フ
 ソノ糶賣ノトキニハ評價人アリテ立合フ之レハ代書人ト同シク官
 吏ナリ
 ソノ評價人ハ財産ヲ何ノ誰ヘ賣リタリト調書ヲ作ルモノナリ

ソノ調書ヘ對シテ故障ヲ述ヘタルノミニテハ濟マス
 ソノ故障ヲ述ヘタルヨリノ日ノ内ニ代書師ヲ立テ原告人ノ代書師
 へ其事ヲ言ヒ送ルナリ
 ソノ八日內ニ此手ツ、キヲ爲サ、レハソノ故障ノ効ナキヲ以テ原
 告人ハソノ裁判言渡ノ通り續イテ執行ヲ爲スナリ
 之レヨリ後ハ原告人ノ代書師死去シ又ハ職ヲ止メタルトキハ被告
 人ヨリ原告人ノ代書師ヘ故障ノ書付ヲ送ルコトヲ得ス此トキハ原告
 人ニテ更ニ代書師ヲ任シタルコトヲ被告人ニ送達シソノ後被告人ニ
 テ代書師ヲ任シテ原告人ノ代書師ヘ故障ヲ述フルコトヲ説ク
 故障ヲ述フルニハ必ラスソノ故ヲ言ハサルベカラス
 一旦故障ノミヲ言ヒソノ後ニソノ故ヲ言ヒ遣ルトキハソノ書付ノ
 費用ハ代書師ノ自費ニ屬シ被告人ヨリ拂ハシムルコトヲ得ス

問

ソノ八日內ニ糶賣等ノ入費ハ何レヨリ出スヤ

答

八日ヲ過キテ被告人代書師ヲ立テス確定ノ裁判トナリタルトキハソノ入費ハ必ラス被告人ヨリ出ス若シ代書師ヲ任シ且ツ勝訴訟トナリタルトキハソノ入費ハ原告人ヨリ出シ且ツ損害ノ償ヲ

モ出ス

之ヲ要スルニ原被ニ係ハラス負ケ訴訟ヨリ入費ヲ出スナリ

第六十三條 裁判所ノ書記局ニ簿冊ヲ設ケ置キ故障ヲ述フル者ノ代書師其簿冊ニ被告人ノ姓名並ニ己レノ姓名裁判言渡書及ヒ故障申述書ノ日附ト其申述ノ日附トヲ簡略ニ記ス可シ但シ其記シタル書ノ寫シヲ受取リタル時ニ非レハ其記録稅ヲ出スニ及ハス

解シ難キコトナシ

第六十四條 原告人又ハ被告中一方ノ者抗傳者トナリテ言渡サレ

タル裁判ヲ其訴訟ニ管セサル者ニ對シ執行ハントスルキハ書記局ノ簿冊ニ故障申述ノ書ヲ記シタルコトナキ旨ヲ證シタル書記官ノ請合書ヲ渡スコトヲ必要トス

欠席裁判トナリタトヘハ甲負ケタリ乙ハ勝チタリソノ時ハ甲ヘ對シテ執行スルナリ然ルニ外人ニ對ジテ執行フコトアリ一言ニテハ愕然タルヘシ併シ之レアリタトヘハ甲ヨリ財産ヲ丙ヘ預ケタルトキハ丙ニ對シ執行ハサルヲ得ス又被告人ニテソノ品ヲ典シタルキハソノ典舖ニ對シ執行ハサルヲ得ス尤モソノ手續ツキハ違フナレモ此ノ如キ場合アルナリ

典シタルキハ必ラス典舖ヘ掛ル典舖ニテハソノ金額ヲ拂フヘシ但シ書記局ノ書付ヲ持參セサルヘカラス之ヲ持參セサレハ典舖ニテハ承諾セサルナリ

百六十三條ト此條ハ一條ニ爲シテヨロシ
故障ナキ旨ヲ書記局へ陳述シ使吏ニテソノ書付ヲ典舗へ見セルナ
リ

此書付ハ本書一通ナリ

典舗ナレハ典舗ニモ權利アリ原告人ニモ權利アリソノ雙方ノ權利

ヲ害セサル爲メニ爲スモノナリ

一應ノ預カリ人ナレハ權利ナシ併シ證書ナケレハ渡サ、ルナリ

問 評價人ハ財産取押へノ時ニ來ラサルキハソノ財産ノ見積ハ出來

サルニアラスヤ

答 評價人ハ糶賣ノトキハカリナリタトヘハ二百圓ノ訴訟ナレハ被

告人ノ財産ヲ盡ク取押ユルコトハナラス大抵二百圓位ノ見積リヲ
以テ取押ユルナリ使吏ハ大抵財産ノ代價ヲ知ルモノナリ

繁華ノ地ニアラサレハ評價人居ラス使吏ニテ之レヲ兼ヌルナリ

更ニ一ツノ外人ニ對スル執行ヲ説カントス

此例佛ニテ尤モ多シ

タトヘハ甲訴ヲ爲シテ乙負ケタリソノ負債ニ充ルノ財産ナシ然ル

ニ丙ニ乙ヨリ借シ金アリソノトキハ甲ヨリ裁判所ノ書記局ヨリ出

ス書付ケテ以テ直チニ丙へ取リニ行クナリ

ソノ時ハ丙ハ必ラス書記局ノ證書ヲ見タル上ニテ渡スヘキナリ

此證書ハ被告人ノ故障ヲ述へサル證據ナリ此外人ハ訴訟ニ聊カ關

係ナキモノニアラス何トナレハ被告人ヨリ借リ金アルユヘナリ

第六十五條 一度差出シタル故障申述ノ書ヲ卻還スル言渡ニ付テ

ハ更ニ故障ヲ申述フルコトヲ許サス

短文ナレモ宜シク注意スヘシ

一度裁判言渡ノ故障ヲ止メラレタルモノハ再ヒ故障ヲ述フルコトヲ得サルナリ

ソノ故障ヲ述フルコトヲ許サ、ルナリ何トナレハ裁判所ヲ愚弄セサル爲メニ此ノ如クスルモノナリ

人アリ始末書ヲ出サスシテ欠席裁判トナリタルトキハ故障ヲ述フルコトヲ得ヘキヤト云ハ、可ナリト云ハン然ラハ再度ノ欠席何ノ爲

メニ故障ヲ述フルコトヲ得サルヤト云ハ、最初既ニ欠席裁判トナリタリ再度ノ欠席ニハ故障ヲ述フルコトヲ許サスト答ヘンノミ

大意ハ一度ハ許ルス二度ハ許ルサスト云フマテナリ
一度欠席裁判トナリタルトキ式ニ違フタル書キ付ケテ送ルカ又ハ

始末書ヲ出サスシテ再ヒ欠席裁判トナリタルニ付故障ヲ述ヘタルトキハ再ヒ故障ヲ述フルコトヲ許サ、ルナリ

併シ第六十二條ノ場合ハ此條ノ取り除ケナリ

裁判所ノ手數ヲ經ストモ宜シキト云フトモ亦手數ヲ經サルヘカラスル場合アリ

タトヘハ使吏既ニ命令書ヲ送ルトキ故障ヲ述フルニ付キ八日間ハ執行ヲ中止スルト雖モ被告人ニテ代書師ヲ立テサルユヘ使吏ニテソノ家ニ行キ財産取押ヲナスニ被告人不承知ヲ言フトキハ使吏ハ裁判官ニアラス止ムコトヲ得ス裁判所ヘ呼ヒ出スコトニナルナリ

問 ソノ時ハ兵隊「ボリス」ハ用ヒサルヤ
答 之レハ抗拒スルキニ限ルナリ

以上ノ場合ニ於テハ原被雙方トモニ裁判所ヘ出ツソノ時ハ使吏ニテ原告人ノ代書師ヘ言ヒ送り被告人モ代書師ヲ立テ裁判所ヘ出ツソノトキ裁判官ハ初メノコトハ言ハス被告人ノ故障ハ立タサルニ因

リ早々執行セヨト言渡スノミナリ
 第六十五條ト第六十二條ト合セテ見ルキハ大イニ反スル如ク
 ニ見ユルト雖此命令ヲ受ケサル場合アリタトヘハ罪ヲ犯シテ六
 ケ月禁錮ノ刑ニ處セラル、トキハ六ケ月ヲ過クレハ命令書ナクシ
 テ執行スルト雖此萬一ツノ罪人ニテ故障ヲ言フトキハ裁判所ヘ出
 ツルナリ
 之レト同シク八日ヲ過キタルト雖此被告人ニテ故障ヲ云フトキハ
 幾度モ裁判所ヘ出テサルヘカラス三度ナレハ三度モ出テサルヘカ
 ラス併シ裁判官コテ之レカ防キテ付ケルナリタトヘハ此裁判ヲ遂
 ケサレハ一日ニ何程ノ費用アリ之レヲ拂フヘシト言渡スナリ時ニ
 ヨリ使吏コテ遂ケシムルコトアリ萬一ツノ見込ミノ違ヒタルトキハ
 使吏ツノ損害ヲ引受ケテ行フナリ右ノ場合ニテハ決シテ使吏ノ見

込ミ違ハサルモノナリツノ時被告人手ヲ出ストキハ兵隊「ボリス」ヲ
 掛クルナリ
 尤モ使吏ハ兵隊「ボリス」ノ助ヲ求ムルノ權アリ
 至急裁判ノトキハ大抵使吏ニテ行フナリ
 使吏ノ役目ハ肝要ナルモノナリ訴訟法ヲ立ルニ繁冗ニ渉ルハ好マ
 スト雖此使吏ハ立テサルヘカラス
 之レハ官吏ニハ行ハシメサル方ヨロシ身元ノ慥カナルモノニ身元
 金ヲ出サシメテ爲サシムヘシ
 官吏ニ使吏ノ役目ヲ命スルトキハ怠タリ又官權ヲ以テ權外ノ威ヲ
 振フコト弊害アルコトアリ何トナレハ官吏ヲ罰スルハ裁判所ニテ
 甚タ斟酌アルモノナリ而シテノ害ハ總テ人民ニ歸ス
 佛ニテハ使吏ヲ嚴ニ罰スルナリ

官吏トナレハ之レヲ罰スルハ斟酌アリ
 書記等ノ株人ハ總テ裁判所ニテ嚴酷ニ罰スルナリ
 故ニ人民ハ大イニ安心シテ居ルナリ
 法律ノ一ヲ巨細ニ説クヨリハ書記代書師又ハ使吏公證人評價人ヲ
 立ツルコトノ相談ハ尤モ難澁ナリ
 何トナレハ以上ノモノハ總テ都合ヨロシキモノナレヒソノ弊害ノ
 ナキ様ニスルハ困難ナルモノナレハナリ

第九章

第六十六條 總テ外國人ハ主タル原告タルト原告ノ訴訟ヲ助クル
 者タルトナ問ハス被告人ヨリノ要ヲ受クルニ於テハ總テ訴訟ノ故障
 ナ述フル前ニ裁判所ノ費用及ヒ被告人ニ損失ノ償ヲ拂フ可キノ言渡
 ナ受クル時之ヲ拂フ可キノ保證人ヲ立ツ可シ

尋常ノ訴訟裁判ニ至ルマテノ手續ハ呼出狀ヲ送り答辨書ヲ造リ檢
 事ヘ告クヘキコトハ告ケソノ後雙方裁判所ヘ出テ理非ノ分カリタル
 上ニテ裁判トナルハ面倒ノナキコトナリ
 欠席裁判ナレハ故障ヲ云ヒソノ上ニ又裁判所ヘ出ツルト云フ混雜
 ナ生ス

然ルニ各種ノ訴訟裁判中ニ種々不意ノ面倒ナルコト起ルコトアリソノ
 面倒ハ裁判ノ初メニ起ルコトアリ又裁判ノ半ハニ起ルコトアリ第一ニ
 起ルナ「エキセア」シヨント云
 「エキセア」シヨ「故障」ノ語ニ於テニタ通りノ意味アリ
 民法ト訴訟法ニ依テ違フナリ
 民法ニ於テハ事柄ノ原因ニ故障ヲ述フル意ナリ
 タトヘハ此權利ハ既ニ解ケタリトカ又ハ此負債ハ既ニ拂ヒタリト

云ヒテ防クナリ
 既ニ説ク所ノ中ニモ間々此語アリ仍テ委シク指シ示スヘシタト
 ヘハ連帶スル負債アリソノ一人ノ云フニハ此負債ハ借金トナルヘ
 キモノニアラストカ又風俗ニ違フトカ又ハ契約ニハナラストカ云
 フノ類即チ之レ「エキセア」ナリ
 民法千二百八條ニアリ又千三百四十條ニアリ又千三百六十一條ニ
 アリ
 之レ皆ナ契約編ニアリ就テ見ルヘシ
 以下訴訟法ニアル「エキセア」ナリナ説カントス
 訴訟法ノ「エキセア」ニ於テモ同シク故障ヲ述フルコトナレモソ
 ノ訴訟ノ原因ノ故障ヲ云フコトアラステハ式ニ違フナリト故障ヲ
 云フモノナリ

今ソノ例ヲ擧ケントス違フヤ違ハサルヤ看ルヘシ
 タトヘハ外國人ノ佛ニテ訴訟ヲ爲スニハ必ラス保證ヲ立ツヘキ式
 アリ故ニ佛人ハ外國人ニ對シソノ訴ノ原因ニハ關セス訴ヲ爲サハ
 必ラス保證ヲ立ツヘシト求ムルコトアリ
 呼出狀ノ所ロニテ既ニ裁判所ノ管轄異ナルコトナリナ説キタリ右ノ場合
 ニ於テハ訴ノ原因ニハ關セス先ツ裁判所ノ管轄異ナルコト云フ之
 レ「エキセア」ナリ
 呼出狀ハ面倒ナル式アリソノ呼出狀ヲ披見スルニ式ニ違ヒタリソ
 ノ時ハ裁判所ヘ出テ此呼出狀ハ式ニ違ヒタルヲ以テ出席セスト云
 フナリ
 タトヘハ延期ヲ願フトキソノ期限内ニ訴ヘテ受クルトキハ未タ訴
 ヘノ起ル期日ニハアラスト言フナリ

今説ク所ロノ「エキセプション」ハ場合又ハ式違フト云フナリ
式ニ違ヒタルニ付キ式ノ如クセヨト云フナリ

第二十四號 明治七年十月廿日

○第九章 訴訟ノ故障ヲ述フル事

○第一卷 外國人ノ立ツ可キ保證ノ事

第六十六條 總テ外國人ハ主タル原告タルト原告ノ訴訟ヲ助グル者タルトト問ハス被告人ヨリノ要ヲ受クルニ於テハ總テ訴訟ノ故障ヲ述フル前ニ裁判所ノ費用及ヒ被告人ニ損失ノ償ヲ拂フ可キノ言渡ヲ受クル時之ヲ拂フ可キノ保證人ヲ立ツ可シ

今日「エキセプション」即チ故障ヲ述フルヲ説カントス
過日説キタル外國人ノ訴訟ヲナストキハ保證ヲ立ツル規則ナリ

民事ニ付イテハ外國人民モ佛國人民モ殆ント同種アリ
併シ聊カノ違ヒアリ

元ヨリ政權公權ニ至ツテハ外國人ト佛人トハ餘程違フナリ
以前ハ外國人百五十「フランク」ノ元金ヲ借りテ返スヲ得サルトキハ禁錮セラレ佛國人ハ三百「フランク」ノ借金ヲ返スヲ得サルニアラサレハ禁錮セス

右ノ通り外人ト佛人トノ違ヒアリタレモ今ハ外人モ佛人モトモニ一切禁錮ヲ廢シタリ

今日内外ノ違ヒ聊カアリト云フハ差支ナキト思フナリ之レハ内國人ノ便利ノ爲メナレハナリ

ソノ違ヒハ若シ外人原告人ニテ内國人へ對シ訴訟ヲ爲ストキハ請人ヲ立テサル可カラス何トナレハソノ訴事ヲ取上ケサルトキハ訴

訟入費ヲ生ス之レ拂ハサル可カラズ入費ヲ本人拂ハサルトキハ之
 レニ代リテ拂フモノナカルヘカラサルナリ
 外國人ノ被告人トナリタルトキハソノ請人ヲ立ツルニ及ハス
 ソノ外人ハ受人ヲ立テ内人ハ受人ヲ立ツルニ及ハサル譯ハ外國人
 ハ佛國ニ居ルニ住所ノ定マラサルモノアル可シ之レハ住所ノ定マ
 ラサルニ付キ萬一負訴訟トナリタルトキハ本國へ送ル等ノコアル
 モ計ルヘカラス
 外人ニテモ住所ノ佛ニ定マリアレハ訴訟入費等ハ聊カノコニ付テ
 ソノ住所ヲ立テ去ルコトハナシ必ラス立テ止マリテソノ訴事ヲ了ス
 ヘシソノモノ、便利トナルコトナレハナリ
 然ルニ住所ノ定マラサルモノハ必ラス逃走スルナリ
 外國人ノ被告人トナル時ハソノ訴訟入費ヲ拂フノミナラス本件ノ

元利ニ至ルマテ仕拂ハサルコト得サルナリ
 其原告人トナリタルトキハ訴訟入費ヲ出スノミ被告人トナリタル
 トキハ訴訟入費ノ上ニ元利トモ拂フヘキニ受人ヲ立テサルハ何ノ
 爲メソヤ
 被告人トナリタルトキハソノ惡シキコトハ誰レモ知ルヘキナリ仍テ
 受人トナルモノアルヘカラス法律上ニ於テ強テ之レヲ立テシムル
 コト能ハス
 ソノ所以ハ受人ヲケレハ裁判所へ出テ防クコト能ハス
 裁判所へ出ツルコト能ハサレハ欠席裁判トナル更ニ八日ヲ過キテ故
 障ヲ述フルコト能ハス彌々確定ノ裁判トナリテハ上告スルコトモ能
 ハス夫レニテハ甚タ氣ノ毒ナリトシテソノ被告人タル時ハ受人ヲ
 立ツルコト法律ニ立テサリシナリ

原告人ノトキハ保證人トナルモノナリトモ格別害ハナシ
 元來三十ヶ年ノ「フレスフレクシヨン」アリソノ長キ間タニ受人ヲ頼
 ムトキハ自然ニ頼マル、モノモアル可シソノ人ノ權利ニ害ナキコ
 ナリ仍テ受人ヲ立ツルコト爲シタリ

問 外國人原告トナリタルトキ受人ナクシテ訴フルコト得サル場合

ニハ如何ス可キヤ

答 呼出狀ヲ送達スル丈ケハ出來ルナレモ裁判所へ出ツルコト能ハス
 佛人ノ原告トナリ外國人ノ被告ニ受人ナキトキハソノ原告人ハ待
 タスシテ欠席裁判ト爲シテ仕舞フナリ
 外國人ノ原告トナリ呼出狀ヲ送達スルトモ受人ナキ時ハ三十ヶ年
 ノ「フレスフレクシヨン」ヲ延へ何時マテモソノ訴訟ノ權利ヲ失ハス
 此違ヒアルユへ此ノ如クニナシタリ

受人ハ容易ニ得ヘカラサルモノナリト雖モソノ人ノ正實ナルトナ
 ラハ受人ナキコトハアルヘカラス然ルニ受人ナキコトナラハ必ラス不
 正ノコト見ル可シ

被告人ニ道理アリテ此事ハ正シキト思フトキニハ受人ヲ要セス
 被告人ト云フモノハ必ラス惡シキト見サルヲ得ス然ラハ受人ヲ得
 ルコト能ハサレハ必ラス欠席裁判トナルハ實ニ憫然ナリト思フヨリ
 立テタル法ナリ

外國人ニ於テハ受人ヲ見出スコト得サルトキノ補ヒトナルヘキ爲
 メニ保證金ヲ出シテ濟ムコトアリ
 原告人タルモノ佛國ニ不動産ヲ所持スルトキハ受人ヲ立ツルニ及
 ハス

受人ヲ立ツルト保證金ヲ出ストハ民事ニ關スルコトミナリ商事ニ

ハ絶テ無シ

第一ニハ佛國ニ住所ヲ定ムルコト

第二ニハ商事ニ關スル事件

此二ツニハ受人ヲ立ツルニ及ハストス

受人ニ代ハルヘキモノニツアリ

不動産ヲ所持スルトキ又保證金ヲ納メタルトキ

之レハ受人ヲ立ツルニ及ハス

不動産アリ又金ヲ出シテ人ニ代ユルトキ其高チ無限ニナスコト又ハ

不足ニスルコトハナラス仍テソノ訴事ニ付テ何程ノ高ト定ムルコトハ

裁判所ニテ之レヲ定ム

第六十七條 保證人ヲ立ツ可キ言渡書ニ幾許ノ金高ニ至ル迄其保

證人ヲ立ツ可キヤヲ定ム可シ但シ外國人其金高チ官署ニ預ケ又ハ佛

蘭西國內ニ於テ所有スル其不動産ヲ以テ保證ニ充ツルコト十分ナルコト
ヲ證スル時ハ別ニ保證人ヲ立ツルニ及ハス

此條ハ三ツノ事ヲ含ム

第一ハ受人トナル可キモノ何程ノ金額マテハ保證スルヲ定ムルコト

第二ハ金チ官署ニ預ケルコト

第三ハソノ金額ニ代ルヘキ不動産ヲ所持スルコト

佛ニ住所ノ定リタルモノト商事ニ關スルモノトハ此所ニハ書テナ

シ

民法第十三條第十六條ニ出ツ

此二條ノ全文ヲ此所ロノ注ニ出ス可シ

民法ノ十三條ノ皇帝ノ允許ヲ受ケテ佛國ニ住居スル者ハ佛人ト看

做スナリ

十六條ノ云フ所ハ商業ニ關スル云々トアリテ商事ヲ云フナリ
 以上ノ二ヶ條ヲ民法ニ入レソノ他ノコトヲ訴訟法ニ入ル、ハヨロシ
 カラス

民法ヲ書キ直シテ佛國ニ住居ヲ定メ又ハ商業ニ關スル云々ハ訴訟
 法第何條ヲ見ルヘシト書キ訴訟法ニ於テ委シク書ク可キナリ

故障ヲ述フル方法ハ第六十六條ニアリ此條ノ始メニ歐米亞細亞
 等ノ區別ナク總テ外國人ト書イテアリ

然ルコソノ取除アリ何トカレハ各國ノ條約ニヨリテ「ベルジツク」ス
 エス「イタリヤ」^{サルデ}「サルデ」此三ヶ國ハ條約ニヨリテ受人ヲ立ツルニ及ハス

「サルデー」ハ佛ニ隣セル一小國ナリシカ「イタリヤ」ニ併セラレタリ
 ソノ併セラレタルニ付キ「イリタヤ」ノ全國ニ此法ヲ及ホスヘキカ又
 ハ元トノ「サルデー」ノミニ用ユヘキカヲ論シタルニ「巴里」ノ控訴裁

判所ニテハ元トノ「サルデー」ノミニ用ユル方ト定メタリ

以上ノ三ヶ國ハ佛ニテ受人ヲ用ユルニ及ハサルヲ以テ佛人ノ此三
 ヶ國ヘ行クモノモ受人ヲ用ヒサルコトナリ

此三ヶ國ハ佛ニ隣セル國ナルユヘ日ニ訴訟モ少ナカラス受人ヲ立
 ツルニ及ハサルコトス

此法ハ大抵「コード」ノ出來ル頃ヨリ始マリタリ「ロイス」十八世王政復
 古ヲナシタルトキナリ

此事ヲ何ノ爲メニ爲シタルト云フニ「ロイス」十八世ノ頃ニ外人ニ地
 所ヲ賣ルコトヲ許シ金ノ多ク入ルコトヲ欲シタリ

右ニ付キ物件取戻シノ容易ニ出來ル爲メニ此法ヲ設ケタルモノナ
 リ

ソノ次ニ主タル原告ノ訴訟ヲ助クルトハ外ヨリ出テ原告ノ權ヲ保

護スルモノヲ云フナリ
 之レハ訴訟ノ起リタル後ニ出來ルヲナリ
 助クト云ヒテ仲ニ入ルヲハソノ正條アリ仍テ茲ニ委シク説カス
 被告人ヨリ要メテ受クルトキハト書イテアリ
 之レハ元ヨリ裁判所ヨリ云付ケルヲニハアラス何トナレハ之レハ
 ソノ一人ノ益ノミニテ一般ノ公益ニアラス故ニ要ムルトキハ之レ
 ヲ言付ケルナリ
 此ノ如キ次第ナルユヘ代書師ナカル可カラス
 之レハ被告人ノ代書師ニテ要メルルヘカラス萬一被告人ノ代書師
 ニテ要メサルトキハ被告人ノ代書師ニソノ責アリ
 訴訟ノ故障ヲ述フル前ニトアリ
 訴訟ヲ述フルニ種類アリト雖モ此條ニ説ク所ロチ第一ニ述ヘサル

可カラス
 萬一ト度ヒ此事ヲ止メテ外ノヲヨリ着手スルトキハ此事ハ爲ス
 ヲ得サルナリ
 此條ノ説キ了ラサル前ニ議論アリ外國人ト外國人ト訴訟ヲ爲スト
 キハ受人ヲ立ツヘキヤ又ハ佛人ノ被告人トナリタルトキノ特權ト
 ナスヘキヤ
 一般ノ説ニハ外國人ト外國人トノヲナラハ受人ヲ要ムルノ權ナシ
 ト云フ説ナリ佛ノ裁判所ノ説モ同シ
 [ホアソナート案スルニ一般ノ説ハ法律ニ悖リ且ツ法律ノ意ニ悖ル]
 元來原告人ニ請人ヲ立テシムルハ被告人ノ難儀ヲ救フ爲メ立テタ
 ルモノナリ然ラハ外國人ナリトモ佛人ナリトモ同シキニアラス
 ヤ

佛ニ住スル外國人ハ聊カノ違ヒハアレヒ佛ノ民權ヲ受クルトアルニ外國人ノコトハ此條ニ取り除クルト書キテナシ然ラハ外人モ區別ナカル可シ尤モ此條ニ佛人ニアラサレハナラスト書イテアレハ格別ナレヒ書イテナキ上ハ此條ノ意ニアテス元ヨリ外國人タリトモ佛國ニ住居スルモノハ同ク保護セサルヘカラスソノ外國人ニ對スル外國人ノ原告人ノ逃ケタルトキハ被告ノ外國人ノ迷惑トナル此ノ如キ偏頗ノ取扱ヲナスノ理ナシトトヘハ日本人佛ニアリテ孛人ヨリ訴訟ヲ受タルトキ孛人ノ理立たスシテ孛人ハ逃ケ去リタリ然ルトキハ日本人ハソノ入費ノ損失ヲ受ク佛ニテ外國人ノ日本人ニ此ノ如キ損失ヲ生セシムルハ爲スヘキコトナラス仍テ外國人ノ原告人トナルトキモ請人ヲ立テシムル方

宜シト思フナリ

仍テ日本ニテ日本人被告人ニテ外國人ノ原告人ニ請人ヲ立テシムルコトアラハソノ被告人外國人ナルトキモソノ原告タル者外國ナラス共受人ヲ立テシムル方ナリト思フナリ

○第二卷 裁判所ノ管轄異ナルヲ以テ其裁判所ノ吟味ヲ受クルニ故障ヲ述ル事

第百六十八條 被告人訴訟ヲ管轄ス可キニ非サル裁判所ニ呼出テ受ケタル時ハ管轄ノ裁判所ニ出ントスルノ訴ヲ爲スコトヲ得可シ此條ハ裁判所ノ權内ニアラサルヲ以テ故障ヲ述フルコト云フ裁判所ニテ何々ノ裁判所ヘ出ツヘシト云ヒテ受理セサルトキト又此事件ハ此裁判所ノ權内ニアラスト云ヒテ取上ケサルトキトアリ右ニ付テ四ツノ場合アリソノ時ニハ裁判所ニテ取リ上ケス

ソノ内ノ二ツハソノ裁判所ノ權内ニアラサルヲ以テ取り上ケス
 第三ハ他ノ裁判所ニテ訴訟ノ既ニ始マリテ居ルモノヲ此裁判所へ
 訴へ來リタルトキナリ
 第四ニハ既ニ他ノ裁判所ニテ起リタル訴訟ヲ此裁判所へ持テ來ル
 トキソノ事件ハ他ノ裁判所へ牽連スルヲ以テ他ノ裁判所ニアラサ
 レハ受理スルヲ得サル爲メニ此裁判所ニテ取り上ケス
 以上四ツノ内三ツハ原被告人ヨリ申立テ苦シカラス
 之レハ一般ノ公益ニ關スルヲナルユヘ原被ハ勿論檢事ヨリ申立ツ
 萬一申立ナキトキハ裁判所ヨリ言付ケルヲアリ
 第一ニ被告人ノミニアラサレハ言ヒ出スヲ得サルヲアリタトヘ
 ハ人權ニテ訴ヲナスハ被告人ノ住所ノ裁判所ナルヲハ定マリタル
 一ナリソノトキハ裁判所ノ違ヒタリト故障ヲ述フ可シ

遺物相續ノトキハ死人ノ住所會社ノトキハ會社ノアル地ノ裁判所
 ナリ仍テソノ混雜ヲ生スルヲハ澤山アリタトヘハ人ノ住所ヲ換ユ
 ルニ一々知ルヲ得サルヲアリ間違トナルヲ多シ
 一般被告人ハ被告人ノ住所裁判所ト定マリタルヲナレハ間違ハナ
 ケレトモ遺物相續又ハ會社等ノ一般ノ法律ノ取除アルユヘ間違トナル
 契約ニヨツテ假リニ住所ヲ定ムル等ハ間違多シ
 ソノ法律ニ取除ケノアルヲニ付テハ代書師ハ間違ハナキモノナレ
 凡人ノ住所ノ轉シタルニ付テハ間違アリ
 被告人ノ呼出サレサル可キ所ノ權外ノ裁判所へ呼出サレタルト
 キハ第一ニ故障ヲ述ヘサル可カラス
 物件ノトキハソノ所在ノ裁判所ナルヲハ原則ナリ然ルニ被告人住
 所ノ裁判所へ呼ヒ出サレタルトキハ直チニソノ間違ヒナルヲ言

ハサルヘカラス
 住所ヲ間違ヘ又ハ物件所在ノ違ヒタル呼出ノ一ハ一般ノ公益ニナ
 ラス一己ノ私益ナルユヘ被告人ヨリ故障ヲ述ヘサルトキハ裁判所
 ニテハ之レヲ其儘受理スルナリ
 此違ヒタルヲ佛ニテハ人ニ對シテノ違ヒト云フ
 之レハ辭ノ足ラサルナリ住所ノ違ヒタルモ物件所在ノ違ヒタルモ
 共ニ人ノ違ヒト云フハ不當ナル辭ナリ
 人ノ利益ニ於テノ權外ト云ヘハ宜シ人ノ違ヒトノミ云フトキハ言
 葉廣キニ過クルナリ之レハ被告人ノミノ違ヒナレハナリ
 第六十九條 其被告人ハ訴訟ヲ受クルニ付テノ其他ノ故障ヲ述ヘ
 及ヒ答辨ヲ爲ス前ニ前條ノ訴ヲ爲ス可シ
 第六十八條ノ文ノミニテハ少シク辭ノ足ラサルヲ覺フ何ノ爲メ

ト云フ辭ナカルヘカラス
 物權人權ニ係ハラスト云フ方ヨロシ
 末文ニ爲スヲ得ヘシトアルハ被告人ノ隨意ニテ訴ヲ爲スルニ爲サ
 ルルニ勝手次第ト云フ意ナリ
 管轄ニアラサル裁判所ニ呼ヒ出サレタルモノハノ意ナリ
 第六十九條ノ末文ニハ前條ノ訴ヲ爲ス可シトアルハ勝手次第ニ
 ハアラス必ラス之レヲ爲ス可シト云フ意ナリ
 第二ノ權外ト云フハ訴訟ノ事件ノ違ヒタルヲ云フ
 ツノ例ヲ舉ケン
 商事裁判所ヘ訴ヘ出ツヘキチ民事裁判所ヘ訴ヘ出テタルトキノ
 チ云フ之レニ反スルモ亦同シ
 行政裁判所ヘ訴ヘ出ツヘキチ司法裁判所ヘ訴ヘ出テタルモ亦同シ

刑事ニ訴フヘキチ民事ニ訴フルコトハ稀ナルコトナレトモ事ニヨリ檢事ニテ間違ヒタルトキモ同シ
 第二ノ所ロナレハ訴訟事件全ク違フユヘ裁判所ニテ知ラサルヘカラス
 第一ノ分ハ人違ヒユヘ裁判所ニテハ知り難シ此事件ノ違ヒハ裁判所ニテ知ラサル可カラス
 之レハ公益ニ係ルコトナレハ商事ハ商事民事ハ民事各々手慣レタル裁判所ニテ受理ス可キナリ
 第一ノ人ノ違ヒト第二ノ事件ノ違ヒトニ付テ三ツノ違ヒアリ
 人ノ違ヒハ被告人丈ケノ違ヒナリ事件ノ違ヒハ原被并ニ檢事ヨリ訴ヘテ苦シカラス之レ一ツナリ第二ノ違ヒハ前條ニハ初メニ云ハサルヲ得スト云ヒ事件ノ違ヒハソノ裁判ノ終リマテハ云フコトヲ得ルト云

第三ノ違ヒハ原被并ニ檢事ヨリ云ハサレハ裁判所ニテ之レヲ云フレ
 第七十條 然レ訴訟ノ事柄ニ付キ被告人其呼出ヲ受ケシ裁判所ノ管轄ヲ受ク可ラサルニ於テハ訴訟ヲ爲シ始メタル後何レノ時ト雖モ管轄ノ裁判所ニ出ント訴フルコトヲ得可シ若シ本人之ヲ求メサル時ハ裁判所ノ職務ヲ以テ管轄ノ裁判所ニ出ツ可キコトヲ言渡ス可シ
 若シ本人之レヲ求メサル云々ハ原文ニハ若シ之レヲ求メサルトキハト書キテ誰ト云フコトヲ書イテナシ之レハ法律ノ欠ケナリ
 余ハ原被告并檢事ト書クヘシト思フ併シ誰レト書カストモ害ハナシ
 何トナレハ檢事ハ公益ニ關スルコトハ皆ナ云フモノナレハナリ
 只今説ク所ロナ人ノ違ヒ事件ノ違ヒノ二ツナリ
 後ノ二ツハ法律ニ欠ケテアルコト前ヨリ甚シ 第七十條第百
 訴訟法ヲ編ム可シト云フトキハ裁判官代理人并ニ生徒ノ爲メニ此

邊ヲモ了解シ易キ様ニ記スヘシト思フナリ

第二十五號

明治七年十月廿五日

過日ニツノコニ付テ一ツノ裁判所ヨリ他ノ裁判所へ送ルコトヲ説キタリ
 第一ニハ人ニ付テ裁判所ノ管轄ノ違フコトナリ
 第二ニハ事件ニ付テ裁判ノ權ノ違フコトナリ初メノ人ニ付キ裁判所
 管轄ノ違フコトハ被告人ノ住所ニ呼出スヘキモノナリ他ノ裁判所へ呼
 出シタルトキナリ
 又一ツハ物件所在ノ地ノ裁判所へ呼出スヘキモノナリ他ノ裁判所へ
 呼出シタルトキ人ニ付テノ權外ト云フコトナリ
 人ニ付テノ權外ハ全クソノ人ノ益ニテ私益ナリ仍テソノ人ヨリ外
 ハ權外ノコトヲ訴フルコトヲ得ス

第二ノ訴訟事件ニ付テ裁判所ノ權ノ違フコトハ原被並ニ檢事ヨリ訴
 へサルヘカラス
 若シ誰ヨリモ訴へサルトキハ裁判所ヨリ公然申渡シテ可ナリ
 事件ニ付テノ權外ノ事ハ裁判ノ始マリヨリ終リマテニ訴へテ可ナ
 リト雖モ人ニ付テノ權外ノコトハ始メニ訴へサルヘカラス猶二ツノ
 コトヲ説キ殘シタリ第一ニ既ニ一ツノ裁判所ニ於テ起リテアルコト第
 二ニソノ訴訟ニ添タル訴訟ノコトハ未ダ説カス^リリヤスハンタン^ノ訴訟
 ノコト起ツテ居ルト云フコトナリ精シクイヘハ一ツノ裁判所ニ於テ訴
 訟ノ起リテアル最中ト云フコトナリ
 既ニ一ツノ裁判所ニ訴へタルコト又他ノ裁判所へ訴フルトキハ一
 ツノ事柄ニシテ種々ノ裁判トナルナリ
 此ノ如キ不都合ハ避ケサルヘカラス同事件ノ訴ヲ二ツノ裁判所へ

訴フルハ意外ノコト思ハル、ト雖ヒマ、アルコナリ
 人權ト物權ト相混シタル訴訟ハ何レニ於テ訴ヲ爲ストモ可ナルニ
 付テハ一方ノ裁判所へ訴へ意ノ如クナラサルトキハ又一方ノ裁判
 所へ訴フルコアリ
 被告人數人アルトキ一ツノ裁判所へ訴へ出テタル土地ノ原告人ノ
 意ヲ以テ更ニ他ノ裁判所ニ訴フルコナリ
 原告人ニテ被告人ヲ相當ノ裁判所へ呼出サスニ他ノ裁判所ニ訴へ
 出テタルトキ故障ヲ云ハサルヲ以テ既ニ裁判ヲ仕掛ケタリ然ルニ
 原告人ニテ更ニ相當ノ裁判所へ訴へタリ
 之レ一事件ニ二ツ裁判所へ訴フル場合ナリ此時ハ故障ヲ述へサル
 へカラスソノ故障ハ何時ニ述フルトナルニ法律ニ於テハ一ツモ其
 時ヲ云ヒタルモノナシ

元トヨリ一事件ヲ二ツノ裁判所ニ訴フルハ人民公益ノ害トナル事
 ヲ成リ丈ケ防カサルヘカラス仍テ前ニ云フ如ク原被告人並ニ檢
 事ニテ訴へテ宜シカルヘシ萬一此三人ノ云ハサルトキハ裁判所ニ
 テ言渡シテヨロシト思フナリ
 故障ヲ云フ時間ハ始メ訴ノ起ルヨリ裁判ノ終ルマテハ述テ苦シカ
 ラスト思フナリ

問 右ノ場合ニ於テ裁判所ニテ氣ノ付カサルトキハ如何

答 既ニ一ツノ裁判所ニテ裁判ヲ仕掛ケタルモノヲ此裁判所へ訴へ
 テ來リタルトキ裁判所ニテ氣ノ付キタルトキハ直チニソノ仕掛ケ
 タル裁判所へ移スナリ
 ソノ裁判ノ始マリ居ルモノへ牽連スヘキモノヲ説カントスヤ、前
 ノコトニ似タルコナリ

今迄説キタルモノハ全ク一ツノ事件ナリ今説ク所ロハ牽連シタルモノニテ之レヲ離シテ裁判スルトキハ甚ダ不都合ナルモノナリ
 タトヘハ東京ノ裁判所ニ於テ貸金ノ元金ノ一ツヲ訴ヘ又ツノ利金ノ一ツヲ大坂ノ裁判所ヘ訴ヘタリ
 右ノ如ク利金ノ事ヲ離シテ訴フルハ不都合ナルナリ元來元金ナケレハ利金アルナシ然ルニ其訴ヲ大坂ニテ知ラスシテ受理スルトキハ元利ノ裁判區々ナリテ不都合ナリ
 又一例ヲ舉ケン
 コ、ニ一ツノ契約ヲ爲スニ一方ハ丁年一方ハ幼年ナリツノ丁年者ニテツノ義務ノ執行ヲ東京裁判所ニ訴ヘタリ然ルニ幼年ノモノニテハツノ契約ノ取消ヲ大坂ノ裁判所ヘ訴ヘタリツノ時丁年ハ東京裁判所ニテ勝チ幼年ハ大坂裁判所ニテ勝チタリ之レハ相牽連シタ

ルモノユヘニツノ裁判所ニテ受理スルハ不都合ナリ人民ノ公益ヲ害スル許多ナリ今ノ義務ヲ東京裁判所ヘ訴ヘタルトキハ之ヲ行ヘト裁判シ大坂裁判所ヘハ取消ヲ訴ヘタルニ付キ取消ノ裁判ヲ爲ス元利ノ事ニ付テモ同シ元金ノ一ツヲ東京裁判所ヘ訴ヘツノ金ヲ拂フヘシト裁判シ大坂裁判所ニテハ此金ハ既ニ拂ヒタルニ付利金ヲ拂フニ及ハスト裁判スルナリ仍テ不都合トナルナリ之レハ必ラス同一ニ裁判スヘシト云フニハアラス氣ノ付キタルトキハ同一ニナスヘキナリ
 此牽連ノ訴訟ハ誰レヨリ訴ヘテ可ナルヤ
 被告人ハ元ヨリ便利ナルヲナルユヘ必ラス爲ス可シ併シ被告人ノ氣付カサルトキハ原告人ニテ之レヲ爲ス併シ造意ニテ原告ノ言ハサルヲモアルヘシツノトキハ檢事之レヲ言フヘシ

ソノ故障ヲ述フル期限ハ始メヨリ終リマテ言フヲ得ヘシ
 第七十一條ニハ誰ヨリ何時マテニ云フトハ書イテナシト雖モ人
 民ノ公益ニカ、ルヲナルユヘ前條ト同シキモノト見做スヲ得ルナリ
 第七十一條 甲ノ裁判所ニ訴出シタル事柄ニ付キ既ニ乙ノ裁判所
 ニテ訴訟アル時又ハ甲ノ裁判所ニ訴出シタル事柄乙ノ裁判所ニテ現
 ニ爲ス訴訟ノ事柄ニ附帶シタル時ハ乙ノ裁判所ニ出テ訴訟ヲ受ク可
 キノ訴ヲ爲スヲ得可シ
 牽連シタル訴訟ハ自然同一ノ裁判所へ出テ居ルモ料ルヘカラス
 タトヘハ東京裁判所ノ第一局ニ元金ノヲテ訴ヘソノ第二局ニ利金
 ノヲテ訴ヘテ居ルヤモ知ルヘカラス
 第七十條ハ書キ方ヨロシカラス
 又ハ云々以下ノヲハ同裁判所ニテ起ルモ又他ノ裁判所へ起ルカモ

知ルヘカラス故ニ此ノ如ク書キテハヨロシカラス
 今日東京裁判所へ元金ノ訴ヘテ爲シ又一ヶ月ヲ過キテソノ利金ノ
 訴ヲ爲スヲアルヘシソノ時ハ初メソノ元金ノヲテ扱ヒタル局へ送
 ラサルヘカラス
 タトヘハ甲乙ノ家ヲ借リタリ然ルニ大風ニテ破レタルニ付キ甲ヨ
 リソノ修覆ノヲテ訴ヘタルニ乙ニテソノ大風ノ時甲ノ住居セサル
 間ノ家賃ヲ訴ヘタリ事柄ハ違ヒタリトモ相牽連スルモノナリ
 此條ノ末文ニ訴ヲ爲スヲ得ヘシトアリ之レハ義務ニアラス願ヒ
 テヨロシキナリ
 我カ論スル所ロハ誰ヨリ願フヲテ書イテナキニ付キ原被告檢事ヨ
 リ願ヒテ可ナリト増補スヘシ更ニ何時ヨリ何時マテハ願ヒテ可ナ
 リトソノ時限ヲ書カサルヘカラス

同事件ニシテ二ツノ裁判所ニテ起リタルコトヲ説カントス
 若シツノ事件控訴ヲ爲スコトヲ得ルトキハ控訴ヲ以テ之レヲ補フヘシ
 ニツノ裁判言渡ニ於テ一ツノ方ハ控訴シ一ツノ方ハ控訴セス
 東京裁判所ニテ裁判ヲ受ケタルモノ控訴ヲ爲シテ又負ケタリ
 大坂ノ原告人ニテ大坂裁判所ヘ訴ヘタリ然ルニツノ原告人ハ負ケ
 タリ之レハ控訴セス
 以上ノコト更ニ言ヒ直サントス
 同一ノ事件ニシテ東京大坂ノ兩裁判所ヘ訴ヘタリツノトキ甲ハ原
 告人ニテ乙ヘ係リテ訴ヲ爲シ勝チタリ乙ハ控訴シテ又負ケタリ甲
 ハ大坂裁判所ヘ訴ヘテ負ケタリ而シテ控訴セス
 東京ノ被告人ハ東京ノ上等裁判所ヘ訴ヘテ負ケタリ甲ハ大坂ノ上
 等裁判所ヘ訴ヘテ又負ケリ

然ルニ雙方トモニ故障ヲ言ハスシテ止ミタリ
 ツノ時此裁判ハ一方コテ始マリテアルコトヲ氣付クトキハ害ナシ
 然ルニ何レトモ氣付カスシテ居リタリ
 東京ニテ控訴シタルニツキ元ヨリ確定ノ裁判トナリテ動カスヘカ
 ラサルモノナリ大坂モ確定ナリ
 兩方トモ確定ニシテ反對ナリ之レヲ補ハサルヘカラス
 若シ控訴スヘカラサル事柄ニシテ此ノ如ク反對スルトキハ速カニ
 補ハサルヘカラス
 ツノ補ヒハ訴訟法第五百四條ニアリ
 ツノ時ニハ初告裁判所ノ言渡ニモセヨ控訴裁判所ノ言渡ニモセヨ
 之レヲ覆審院ヘ出スナリ
 ツノ時ハ覆審院ニテ之レヲ雙方トモニ破毀スルナリ

而シテ後雙方ノ關係セサル他ノ裁判所へ移シテ更ニ裁判ヲナスナ
リ

以下牽連シタルコトヲ説カントス

牽連シタル裁判モ上等裁判所ニテ補フコトヲ得サルトキハ覆審院ニ
テ破毀ス

若シ同一ノ裁判所ニテ各異ノ裁判ヲナシタルトキハ「レケート」トシヒ
ル」ヲ以テ即チソノ裁判所へ願フナリ

訴訟法第四百八十條ノ第六ニアリ

「レケート」トシヒル」トハ丁寧ニ願フト云フ意ナリ敬慎ノ願書ト云フ傲
慢ナラスシテ恭敬ヲ盡スコトナリ別ニ一局アルニアラス

之レ裁判ヲ取直ス非常ノ道ナリ

第七十二條 裁判所ノ管轄ノ異ナルヲ以テ其裁判所ノ吟味ノ故障

ヲ述フル訴ハ至急吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ裁判ス可ク之ヲ後日ニ延シ
又ハ主クル訴訟ト共ニ裁判スルコトヲ得ス

之レハ故障ヲ申立タルトキハ直チニ之レヲ裁判セサルヘカラサル
ヲ云フ

ソノ他ノ難事ノ起リタルトキハ之レヲ取調ヘテ裁判ヲ爲サント云
フト雖此故障ニ至リテハ直チニ之レヲ止メルトモ又續イテ裁判
スルトモ一方ニ決ス

タトヘハ初メノ代書師ニテ始末書ヲ出シタル上更ニ申立アルトキ
ハ初メノ始末書ノ事ト後ノ申立トチ一同ニ裁判スルト雖此故障
ハ直チニ裁判セサルヘカラス

第二十六號 明治八年
一月十日

第三卷 呼出狀及ヒ其他訴訟手續
第七十三條

總テ呼出狀又ハ裁判手續ノ書類ヲ取消サントスル訴ハ裁判所ノ管轄
異ナルニ付キ其裁判所ノ吟味ヲ受クルニ故障ヲ述フルヲ除クノ外
總テ論辨ヲ爲シ又ハ訟訴ニ付テノ故障ヲ述フル前ニ之ヲ爲ス可シ
但シ其後ニ至テハ之ヲ爲スコト得ス
法律上ニ於テタトヘハ呼出狀ニ何々ノケ條ヲ書キ落セハソノ呼出狀
ハ効ノナキアリ其ノコトニ付故障ヲ述フル「エキセフシヨ」ノコトヲ説
ク條ナリ
取消ヲ爲スハ訴ヘテ聽カス裁判官ヨリ直ニ言渡スモノニアラス必ス
一方ノ者ヨリ之レヲ訴ヘ取消ヲ求メサル可カラス之レヲナスハ訴
訟ノ前ニ言フコトナリ

之レハ公益ニ關スルコトニアラサルヲ以テ檢事モ原告人モ言ハス被告
人ニテ言フヘシ
タトヘハ答辨書ノ如キモノニテ被告人ニテ書キタルモノニ於テ法律
ニ違ヒタル書キ方ナルトキハ原告人ヨリ申立テ取消シテ求ムルナ
リ
訴訟ノ始メニ之レヲ申立テサレハ其權消滅スルナリ
之レヲ訴訟ノ始メニ言ハサルヘカラサルハ元ヨリナリト雖モソノ呼
出狀ハ法律ニ違ハスシテ訴訟トナリタル上答辨書ヲ法ノ如クニ書
カサルトキノ取消ハソノ書キ付ノ出テタルトキニ申立ツルナリ
如シ裁判言渡書ノ法ノ如クナラサルトキハ直チニ申立ツルコト得ス
ソノ時ハ控訴シテ申立ツルナリ
三ツノ故障アリ

第一ニ外國人ノ訴訟ヲ爲ストキ請人ヲ立ツルコト

第二ニ裁判所ノ管轄ノ違フコト

第三ニハ取消ノコト

併シ右ノ通りニ行カサルコトアリ

タトヘハ三人同シク行クニ三人一同ニ門ニ入ルコト能ハス

之レト同シク以上ノ三ツノ故障チ一同ニ申立ツルコト能ハサルナリ

此條中ニ裁判所ノ管轄異ナル云々トアルニツキ裁判所ノ管轄違フコト

ハ第一ニ求メ取消ノコトハ第二ニ求メサルチ得ス

如シ外國人原告人トナリタルトキト裁判所ノ管轄ノ違フハ抵觸スル

トキハ先ツ請人ノコトヲ求メ次ニ裁判所ノ管轄ノ違フコトヲ云フヘシ

何トナレハ是レ被告人ヲ保護スル爲メナレハナリ

裁判所ノ管轄ノ違フコトハ容易ニ云フコト能ハス取調フルニハ時間ヲ費

ヤスナリ故ニ先ツ請人ノコトヲ以テ其入費ノ補ヒチ付ケサルヘカ
ス仍テ請人ノコトヲ第一ニ求ムヘシ

如シ請人ノコトヲ取消ノコトヲ抵觸シタルトキモ亦即チ請人ノコトヲ先キ

ニ求ムヘシ何トナレハ取消ノコトニ付テハ入費ヲ要スルユヘ先ツ請

人ノコトヲ求メ若シ外國原告人曲ニシテ其入費ヲ納メサルキハ其請

人チシテツノ入費ヲ補ハシメル爲メナリ

法律家ニテ此三段ノ順序ヲ立ツルニ付キ若シ三ツノ故障一時ニ抵觸

スルトキ一紙ニ三ツノ故障ヲ認メ求ルトモ妨ケナシトス可シ

之レマテ説ク所ロハ肝要ナルコト思フナリ

又訴訟中ニ前ノ三ツノ故障出來シテ之レヲ順次ニ解カサルチ得サル

ノ例アリ

其例ヲ舉ケテ解カントス

外國人原告人トナリ佛人ニ對シ訴ヲ爲スニツノ呼出狀ニ代書師ヲ立
テタルヲ書カス管轄ノ異ナル他ノ裁判所へ出シタリ

是レ三ツノ故障ナリ

ソノ外國ノ原告人ノ求ムル事ハ商法ニ付テノ訴ニモアラス又佛ニ住
所ヲ定メタル外國人ニモアラス

其時ハ被告人ヨリ請人ヲ立ツルヲ第一ニ求ムヘシ

民事ノ訴訟ニ付代書師ヲ立ツルハ佛ノ規則ナリ

然ルニ原告人ニテ之レヲ立テス之レニツノ故障ナリ被告人ノ裁判所

ノ異ナル之レ亦故障ヲ云ハサルヲ得ス之レ三ツナリ

三ツノ故障ハ何レヲ先キニ云ヘトノ順序ハ法律ニ書イテナシ

元來三ツヲ一時ニ云フカ又ハソノ順序ヲ立テサルヘカラス請人ノ條
々ニモ總ヘテ其余ノ故障ヲ述フル前ニトアリ管轄ノ違フタル裁判

所ノ條ニモ總テノ故障ヲ述フル前ニトアリ第七十三條ニ裁判所
ノ管轄ノ違フニ付云々ト書イテアリソノ順序ノヲハ一切云ハサリ
シ

此時爆子ヲ以テ眞似ヲ爲シタリ

ソノ三ツノ外ノ故障ト此次ニ訴訟ノ猶豫ト云フヲアリ

日本ニテ法律ヲ立ツルトキハソノ三ツノ順序ヲ明瞭ニ書クカ又ハ三

ツヲ一紙ニ書クヲニ定ムルカニ爲ス可シ一紙ニ書キタリトモ少シ

モ害ナキト思ハル、ナリ

「ホアソナード」案スルニ此訴訟法ヲ改正スルノ仕方アルヘシト思フナ
リ

之レヲ考フルニ何ノ爲メニ訴訟ノ始メヨリ終リマテ何時ニテモ請人

ヲ立ツルヲ許サ、リシヤ

請人ハ元ト被告人ヲ保護スル爲メノモノナリ然ラハソノ外國人ノ信
 スヘカラサルトキハ始メニ之レヲ求メルヲ固ヨリナレトモ始メソノ
 人ヲ信スルニ定ル者ナルキハ請人ヲ立ツルヲ求メストモソノ訴
 訟ノ半ハニ至リ信スヘカラサルノ念起ルトキニ之レヲ立テソノ
 求ルモ聊カ妨ケナシト思フナリ

始メニ立ツルヲトナストキハ始メニ云ハサレハソノ故障ノ權ハ消滅
 スルナリ故ニ始メヨリ裁判ノ終リマテ何時ニテモ立ツルヲ求ル
 ヲ得ルト定ムルトキハソノ訴訟ヲ終ルマテ請人ヲ立テサセス
 テ濟ムヲモアルヘシ

併シ此法律ヲ立ツルトキ始メニ立ツルヲ定メタルハ其訴訟ノ長引
 クヲ恐レタリト考フルナリ然レモ訴訟半ニ長引クモ始メ訴訟トナ
 ラサル前ニ長引クモ同シト考フルナリ

此議論ハ我カ鄙見ヲ述ヘタルノミソノ便不便ハ諸君ノ意見ヨアルノ

ミ

訴訟ノ始メニ請人ヲ立ツルヲ言立ツヘシトナレハ十ノ九ハ立ツル
 ヲ云ヒテ一ハ云ハサルモノモアルヘシ併シ何時ニテモ云フヲ
 得ルトナレハ十ノ内五ト云ヒ立テサルヲトナルヘシ

裁判所ノ違ヒタルヲ訴訟ノ半ハニ云フヲ得ルニ於テハ不都合多
 カルヘシ依テ之レハ始メニ爲ス方ト思フナリ

書類ノ違ヒタルヲ始メニ爲ス方ト思フナリ

問 請人ヲ訴訟半ニ立ツルヲ求ルヲ許ス上ハ萬一被告人ニテ負
 訴訟ト思フニ始メニ立テサルトキ訴訟半ハニ至リ勝テトナルヘ
 シト思フトキ原告人ハ負ケトナルヘシト思フナリソノトキ請人ヲ
 立ツルヲ云フトモ原告人ニテハ之レヲ立テス依テ裁判モソノ切

リトナリタルニ付キ原告人逃走シタルトキツレマテノ入費ハ如何スヘキヤ

答 之レハ被告人ノ損失ナリ何トナレハ始メニ立ツルヲ許サ、ルトキハ格別ナレモ始メニ立ツルヲ許ストキハ便利ナリ尤モ今ノ法律ニ於テモ前ノ場合ニ被告人ノ損トナルコトハ同シヲナリ但シ半ハ云フヲ許スハ便利ナリ到底被告人ノ好ミ次第ナリ

第四卷 訴訟ノ猶豫ヲ求ムル事

第一百七十四條

遺物相續人寡婦離婚セラレシ婦夫ト財産ヲ分テタル婦ハ遺物相續ノ始リシ日又ハ財産ノ共通ヲ解キタル日ヨリ財産ノ目錄ヲ記スル爲メ三月ノ猶豫ト熟考ヲ爲スタメ四十日ノ猶豫トテ得テ其時間訴訟ノ猶豫ヲ求ムルヲ得可シ若シ又三月前ニ目錄ヲ記シ終リタル時

ハ其日ヨリ四十日ノ猶豫ノ期限ヲ算ス可シ
若シ三月内ニ目錄ヲ記スルヲ能ハサルノ證アル時ハ更ニ相當ノ猶豫ノ期限ヲ加ヘ且熟考ヲ爲ス爲メ四十日ノ猶豫ヲ許ス可シ但シ此事ハ至急吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ裁判ス可シ

遺物相續人ハ前ニ記シタル猶豫ノ期限ノ終リシ後ト雖モ通常ノ遺物相續人タル處置ヲ爲サ、ル時又ハ控訴ス可カラサル裁判言渡ニ因リ通常ノ遺物相續人ナリト定メラレシヲナキ時ハ尙ホ目錄ヲ記シテ且遺物ノ高ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサルト權アル遺物相續人トナルノ權アリ

シラトハアール

訴訟ノ期限ヲ延フルヲ

此條ハ訴訟ノ猶豫ヲ願フヲテ説キタルモノナリ

原語ヲ以テ見レハ「シラーアールノレキセフシヨント」ト云フコト即チ故障ノ部分ナリ

之レハ訴訟ノ原意ヲ論スルニアラス未タ期限ノ來ラサルニヨリテソノ期限マテ述ヘルコトヲ求ムルナリ

タトヘハ金ヲ六ヶ月ヲ過キタラハ返スヘキノ契約ナルニ二ヶ月ヲ過キテ債主ヨリ負債主ヘ催促スルニ負債主ニテ未タ期限來ラスト云フモノニハアラス右ノ次第ハ全クソノ願ヒノ立タサルコトナリテ本主意ヲ破毀セラル、ナリ

此第四卷ノ猶豫ヲ求ムルコトハタトヘハ金ヲ借タルモノアルニソノ人死シタリソノ子ニテ財産目録ヲ作ルニ三ヶ月ヲ要シ又彌々相續ヲ爲スト爲サ、ルトチ定ムルニ四十日ヲ要スソノ期限ノ内ニ訴訟ヲ受ケルトキニハソノ期限ノ經過スルマテ猶豫ヲ述フルコトナリ財産

共通ノ夫婦ニテ夫死シ離婚トナリタルトキ財産ヲ分ツカ又其夫ノ相續人ト同シク共通スルカノ時ハ三ヶ月ト四十日ノ期限ナリソノ期限内ニ其夫ノ義務ニ付訴訟ヲ受ケタルキハ前ニ同シハ佛國ニ於テルキ而已離婚ト云フナリ中古ハ夫婦在世ニ離婚アレヒ今ハ之レナシ

財産目録ヲ作ル爲メ三ヶ月ハ法律ニ定メタリト雖ヒ時ニヨリ二ヶ月ニテ濟ムコトアリソノトキハ二ヶ月ト爲ス併シ熟考ノ四十日ハソノマ、ナリ

尤モ速カニ取調ノ付キ又假相續等モナク通常ノ相續人トナリタルトキハ三ヶ月モ四十日モナシ

併シソノ時ニ訴訟ヲ受ケタルトキハソノ訴訟ヲ延ハス爲メニ三ヶ月四十日ヲ經過セストテ猶豫ヲ述フルモノアリ

ソノ時ハ原告人ニテソノ實事ヲ見テ既ニ相續濟ミタリトテ訴フルコト

アリツノ時ハ裁判官ノ見込ヲ以テ之ヲ決スルナリ
 未タ相續ノ終ラサル内ニ人ニ家ヲ貸シタリトテ相續ノスミタルト爲
 スコトヲ得ス之レハツノ財産ヲ融通スル爲メニ爲シタルノミナリ
 タトヘハ畠ニアル麥ヲ収メタリトテ相續ノ濟ミタリト爲スコトヲ得ス
 之レハツノ収納ヲ取上ケテ之レヲ支配スルノミナリ
 然レモツノ腐敗スヘカラサル品ヲ賣リタルトキハ之レヲ相續シタリ
 ト見做ス

中ニ就テ不動産ヲ賣リタルトキハ相續ノ濟ミタリト見做スナリ
 死人ノ爲メニ財産ヲ賣リテ至急ニ金ヲ拂ハサルヲ得サルコトアリ
 ツノ時ハ相當ノ日限揭示ヲ爲シテ賣リタルトキハ相續トハ見做サス
 之レハ財産丈ケノ相續ト見做ナリ

此條ノ第三項ハ民法遺物相續ノ編ニ入ルヘシ訴訟法ニ入ルヘキモノ

ニアラス

此條書キ方ヨロシカラス

如シ民法ニ定メタル目錄ヲ作ル期限ト熟考ノ爲メノ四十日ノ期限ノ
 前ニ訴ヲ受ケタルトキハ猶豫ヲ求ムルコトヲ得ルト書ケハヨロシ
 遺物相續人云々ハ民法ニ委シ此所ニ書クニ及ハス
 佛ニテハ父ノ負債ヲ子ニテ盡ク拂ハストモヨロシ父ノ財産丈ケヲ相
 續スルモノアリ又ハ通常ノ相續人アリ又ハ一向ニ相續ヲ斷ハリシ
 モノアリ

萬一父ノ財産ヲ賣リテツノ金ヲ我カ所有トナシタルトキハ之レヲ通
 常ノ相續人ト見做ス

財産共通ヲ爲シタル婦ニテ死シタルトキハ三ヶ月ノ猶豫ヲ與ヘス何
 トナレハ夫ハ婦ノ始末ヲ付ケルモノナレハナリ

呼出狀ヲ二ヶ月四十日ヲ過キサルトキニ送リタルトキハ猶豫ヲ述ヘタルノミニテ其訴訟ヲ中止シソノ期限ヲ過キタルトキハ再ヒ呼出狀ヲ送ラスシテ裁判所へ出テサルヘカラス

三ヶ月内ニ目錄ヲ作ルヲ能ハサルキハ再ヒ相當ノ猶豫ヲ述フルヲアリ

熟考ノ四十日ハ延ハサス何トナレハ四十日ヲ過クレハ思慮定マルモノトナスナリ

萬一此期限内ニ物ヲヌカセハ即チ通常ノ相續人ト見做スナリ

前條々ニ述タル三ツノ故障ノ外ニ此猶豫ヲ述フルヲ合セテ四ツト

ナル

此四ツアルトキハ前ノ三ツノ故障ヲ先キニ求メソノ後ニ猶豫ノヲチ

求ムヘシ

如シ誤ツテ猶豫ノヲチ先ニ云ヘハ三ツノ故障ハ消滅スルナリ

之レハ代書師ノ注意スヘキヲナリ

此猶豫ヲ述フル書付ケハ裁判所當テナレモ代書師ヨリ代書師へ送ル

萬一之レニ付一方ヨリ故障ヲ云フトキハ裁判所へ出ス如シ一方ニ

テ承諾スレハ裁判所へ出スコ及ハス

萬一猶豫ヲ述ヘタリトモ一方ニテ物ヲヌカシタルヲ見出シタルト

キハ其効ナシ

三ツノ故障アルトキ猶豫ノヲチ述ヘテ一方ニテ承諾シタル上ソノ期

限ニ至リテ三ツノヲチ述ヘタルコツキ一方ノ代書師ニテソノ故障

ハ立タスト云フトキ一方ニテ云ヒ張ルトキハ裁判所へ出テ、裁判

官ノ決ヲ取ルソノトキ裁判官ハソノ故障ハ立タスト言渡スナルヘ

シ

猶豫ノ故障ヲ先キニ云ヒツノ後ニ三ツノ故障ヲ順次ニ述ヘタルトキ
 原告人代書師ニテ承諾ヲナシタル上ハ即チ故障トナル
 之レハ私益ニ係ルコナルユヘ裁判官ヨリ何トモ言ハス原告人ヨリ言
 立テタルトキハ之レヲ裁判スルノミ
 此次ノ故障ハ「ガランチーフ」ノ「チ説カントス」之レハ随分六ツカシキ
 「ナリ」

第二十七號 明治八年一
 月十五日

今日ハ第二ノ猶豫ノ期限ヲ求ムル所ロノ「ユキセフシヨシ」ヲ説カン
 トス即チ「ガラン」ノ「ナリ」
 此「コ」ニ付テハ呼出狀并初解ノ「コ」ニ付テ説キタリ
 義務ノ事件ニ付キ又ハ物件取戻シノ「コ」ニ付テ甲ヨリ乙ニ對シ訴訟

チナシタルキ乙ハ丙ナル人ヲ呼ンテ受合ハシメ或ハ防カシムルコ
 アリ仍テ之レヲ呼ヒ出ス「コ」ヲ得ルナリ要償ノ契約ヲ爲シ或ハ物ト
 物トチ取替ルトキ又ハ物件讓受ヲ爲ストキケ様々々ノ「コ」アルニ付
 キ保證シテクレヨト云ヒテ丙ヲ呼フ「ナリ」
 保證ノ「コ」ニ付キニタ通リアリ
 第一ハ被告人ト共ニツノ訴訟ヲ防ク「コ」アリ
 第二ハ被告人ニ代リテ訴訟ヲ防ク「コ」アリ
 以上二ツハ保證人ノ職掌ナリ追々後ニ本條アリ仍テ茲ニツノ細目
 ハ説カス

此第七十五條ニ於テ保證人ヲ呼出スノ期限ヲ説カントス
 被告人ニテ裁判所ヘツノ都合ニヨリテ保證人ヲ呼ヒ度キ旨ヲ述ヘ
 タルトキハツノ猶豫ノ期限ハ通常八日ナリトスツノ八日チ原則ト